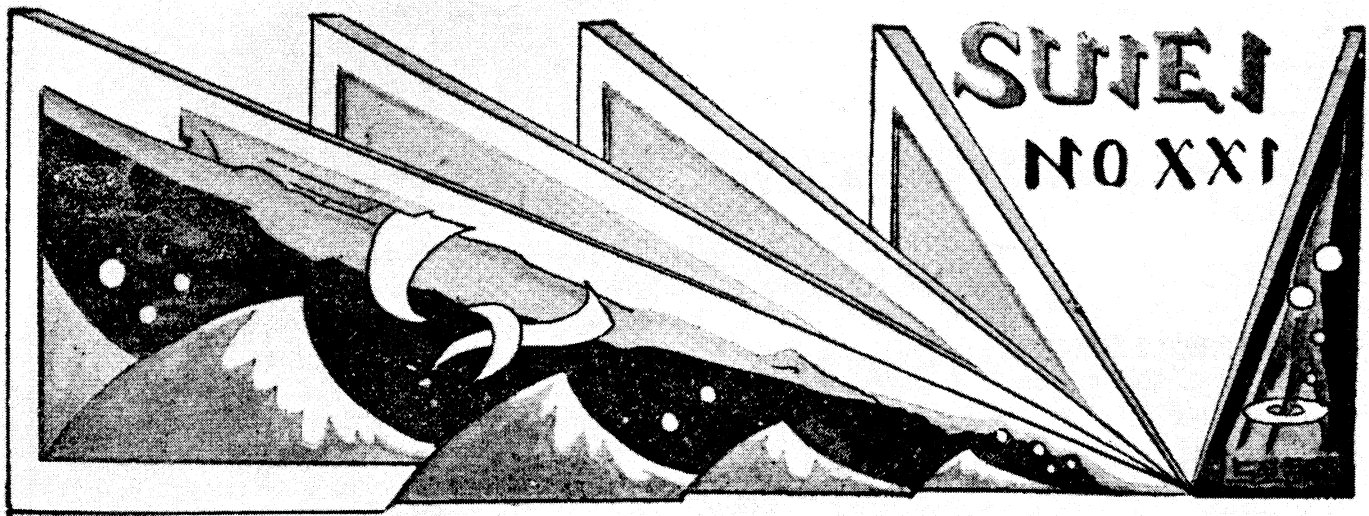


1933

木録

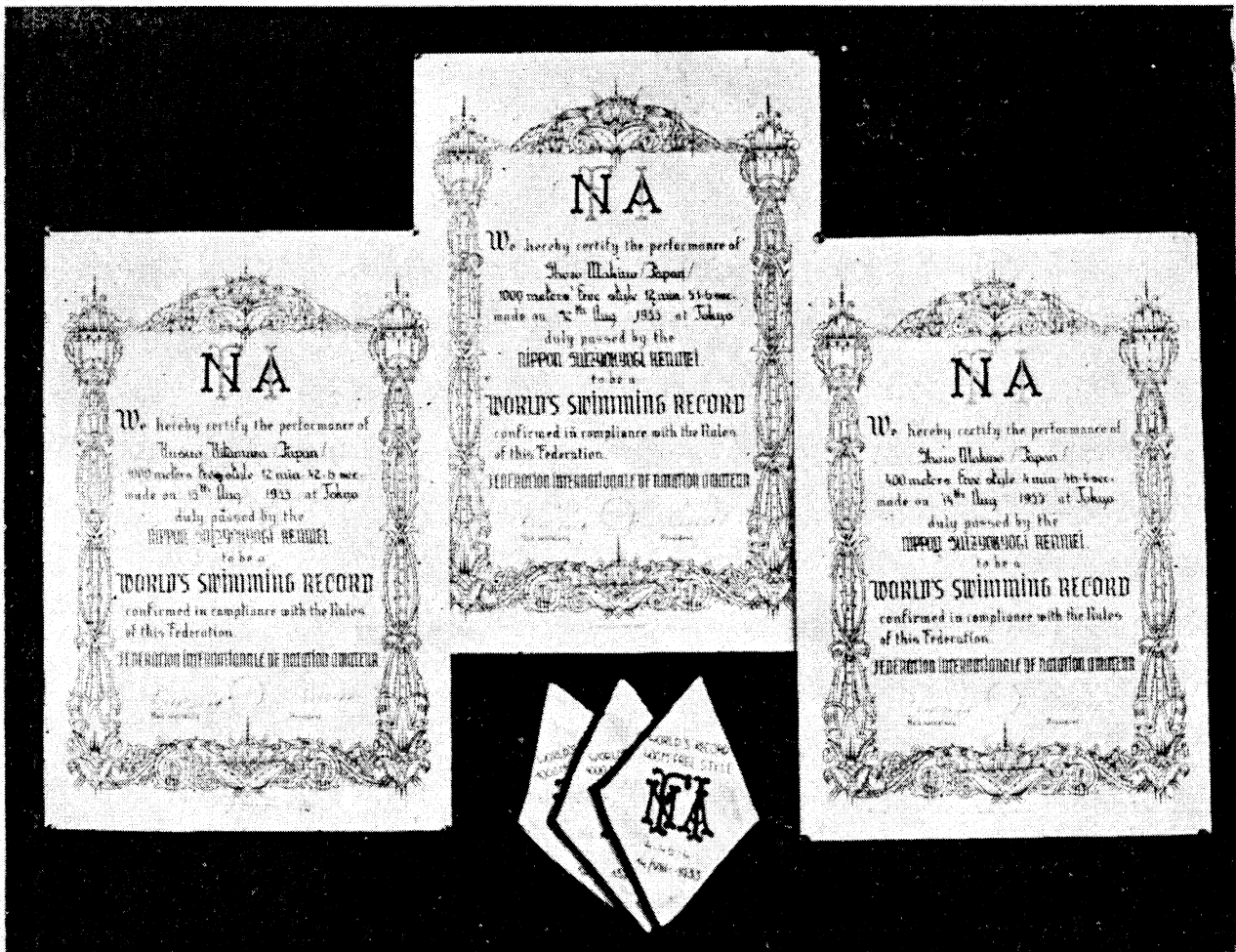
NO. 21

日本小森校聯盟



機 關 雜 誌 水 泳 第 二 十 一 號

昭和八年十二月一日發行



輝く世界記録章!!

牧野の1000米及400米、北村の1000米の世界記録章が
此程FINAよりNSRに到着した。

第二十一號 目 次

神宮大會水上競技の使命	日本水上競技聯盟會長・末弘 嚴 太郎	(3)
岸體育協會長の長逝を悼む	日本水上競技聯盟	(4)
第七回明治神宮體育大會水上競技大會		(5)
第七回明治神宮體育大會水上競技優勝者表		(6)
神宮競技を顧みて	N S R事務所に於ける座談	(7)
總裁宮令旨、會長式辭、文部大臣祝辭、選手代表宣誓		(8)
神宮大會競泳成績	大會記録員	(13)
大會番組及主要役員		(14)
神宮競技の水球を顧みて	吉 本 祐 一	(19)
第十二回全國學生水上競技大會		(21)
インターカレッジエイト畫報		(22)
秋季水球リーグ戦概評	時 任 嚴	(26)
昭和八年度競泳新記録	日本水上競技聯盟	(28)
昭和八年度水泳指導者講習會概略	小松崎 三次	33)
漫畫のページ		(34)
神宮體育會並日本水上競技聯盟の態度	對游泳聯盟・田 畑 政 治	(35)
第一回關西中部關東對抗女子水泳大會	中川チエ子	(43)
プール巡り(4)名古屋市振甫プール		(44)
水球の研究(一)	時 任 嚴	(46)
日本競泳發達史	市 村 魁 山	(51)
世界情報		(55)
會 報		(58)

注 意 代議員會議事録が會報欄にありますから各加盟團體の方は御注意下さい。



神宮大會水上競技の使命

日本水上競技聯盟會長 末弘 嚴太郎

百姓が粒々辛苦の末作り上げた新穀を氏神様に捧げ奉るのと同じやうな清らかに、さうして朗かな氣持を以て、今茲に吾々は過去二年間の努力によつて達成しえた成果を此大會の形に於て恭しく明治神宮の御前に奉告奉納せんとするものである。吾々が此大會に於て企圖するものは正に三、其一は今や世界水上競技界の最高水準線上に立つ我が第一流の選手諸君に嘗て人類が水上競技に於て爲し遂げえた最高のものに挑戦すべき新なる機會を作り與へんとするものであり、其二は健全なる「優秀」は「普及」の上にものみ築かるべしとする吾々の理想に基き獨り學生諸君のみならず軍人諸君を初め其他全国各地に在つて各種職業に従事しつゝある青年諸君等の參加を求めて之に試練の道場を提供せんとするものであり、其三は水泳奨励の目的が決して獨り水上競技の發達にのみに存するにあらずして、游泳技術それ自身の健全なる發達普及に在らねばならねとする吾々の理想に基き、徒に傳説的な形式と約束とに捉はれて生命を失ひつゝある我國在來の游泳技術を再生復興せしむる爲め、合理的なる游泳が活きた目的意識の下に、如何に流派的形式を超越して評價せられ鑑賞せらるべきであるかを社會大衆に示すべき機會を作らんとするに在る。此三つの目的を同時に甲乙なく追及する所に此競技大會の使命が存在するのであつて、これこそ實に明治神宮に奉納せらるべき競技大會として最もふさはしい仕事であり、此大會の事務を附托された日本水上競技聯盟の根本精神にも最も適合したものと考へられるのである。「強く」「廣く」さうして「合理的に」これこそ實に本大會の標語であり、日本水上競技聯盟の精神である。

(同大會プログラムより)



岸體育會長の長逝を悼む

突然岸先生を失つた吾々は今更乍ら先生がスポーツ界に於て占めて居られた空間の如何に大きいものであつたかを考へて驚き且悲まざるを得ない。長い年月の間とかく紛争の絶えない我國スポーツ界の中心に立ちつゝ超人的な辛棒強さを以て統率の實を擧げてゆかれた其の「力」こそ今日今後の我スポーツ界にとつて最も必要なものである。スポーツ界に於てはすべてが明朗に處理されることを必要とする。不合理な妥協はスポーツの敵である。スポーツ界に於ては正に言ふべき時に言ふべきことのすべてを率直に言ひ合はねばならぬ。言ひ合つて一度諒解に到達したとき風霽月直にガツチリ肩を組み合つて共同目標に突進する心掛けこそスポーツにとつて最も大事な事柄である。スポーツの爲めに金を作つてくれる人や八方美人的斡旋によつて見掛けの平和を作つてくれる人はいくらでもある。唯容易に得難いのは「闘争によつて平和へ」と言ふスポーツにとつて最も大切な精神を行爲の上に體現し得る力強い人格者である。此種の人格者として最も典型的な人であつた岸先生が今突然我國スポーツ界の首長たる地位から永遠に去られたことを、特にスポーツ多事の今日、吾々は心より悲まざるを得ない。

日本水上競技聯盟會長 末弘 嚴 太郎

第二回スポーツマツサーヂ研究會員募集

役員	會長 醫學博士	金子 魁 一
	參與 醫學士 警視廳防疫醫	田 中 勇 夫
	幹 事 東京 YMAC 體育主事	柳 田 亨
	幹 事 スポーツマツサーヂ師	淺見 清 四 郎

研究日 毎週水曜日 午後五時より六時迄
 會 費 一ヶ月一圓
 期 限 約二ヶ年とす (昭和九年一月より)
 申 込 十二月廿日迄

神田區美土代町 YMCA 體育部宛

申込書 (當方備付) に履歷書を添へて申込むこと。

入會は希望者より選擇の上許可す。

資 格 各競技團體會員

東京市神田區三の三 YMCA 體育部

ス ポ ー ツ マ ツ サ ー ジ 研 究 會



(開會式に御台臨の總裁秩父宮殿下)

第七回明治神宮體育大會水上競技大會

明治大帝の御稜威畏くも第七回と數へて彌榮えゆく明治神宮體育大會を魁けて、水上競技大會は昭和八年九月卅日(土)十月一日(日)の兩日にわたり、畏くも總裁、秩父宮殿下の御親裁の下に、明治神宮外苑水泳場に於て開催せられた、兩日共に無上の快晴に先づ恵まれ、加ふるに役員選手諸氏の努力に依つて、總ての計劃は豫定通り滞り無く進められ、所期の目的を充分に果す事が出来たのは主催者たる本聯盟の深く喜びとする所である。

明治神宮參拜

開會に先立つて青年團選手及附添全員は前日の午後三時より、海軍選手全員は當日午前七時半より、一般選手及競技役員は代表者として男子より清川正二、原秀夫、松本隆重の三氏、女子より前畑秀子、島崎恵美子の兩氏、役員より田畑政治、西本龍三の兩氏を選び、午前八時より、夫々明治神宮に正式參拜を濟ませた。

開會式

定刻午前九時總裁宮殿下台臨あらせられ、貴賓席に着かせられるや、開始のホイレンが秋空に高く鳴り響いて、三鎮守府海軍選手を先頭とし、前年の優勝者たる京都府チームを先頭とする青年團選士が之に續き愈入場式の大行進が始まつた。誠に見る者をして水上日本を心強く思はしめる堂々たるパレードであつた、最後に一般男女子選手も整列し終ると同時に平沼副會長の御先導にて總裁宮殿下を式場に

御迎へ申上げ、松澤名譽主事開會を宣した。

「君が代」の奏樂と共に入江稔夫君が國旗を掲揚し、引續き參會者一同にて國歌を齊唱した、明治神宮體育會長阪谷男爵の式辭は平沼副會長に依つて代讀せられ、選手代表清川正二君は、女子代表前畑秀子、青年團選士代表樋口榮一、海軍選手代表山崎恒三郎の三君を伴つてマイクロホン前に進み堂々と宣誓を行つた。更に文部大臣鳩山一郎閣下自ら祝辭を朗讀され、續いて佐世保鎮守府柴北大尉指揮の下に參會者全員にて明治神宮の遙拜を行ひ、青年團優勝旗返還式に移り京都府チームより大日本聯合青年團理事長後藤文夫閣下(農林大臣)の手へ返納した。かくて緊張裡に嚴肅な開會式を終つて宮殿下の御退場を請ひ奉り、豫定の通り午前九時三十分、青年團四百米自由形豫選より競技が開始せられたのであつた。

第一日概況

多種多様なプログラムを織り込まれた本大會は、殊に第一日に於ては忙しさを極め、休憩時間すら與へられない様な有様であつた。青年團、新人競技の豫選を中心として、決勝競技は新人飛込競技及中等學校東西對抗水球の外に郷土對抗男女子三百米メドレー・リレーがあつたが、最終種目たるその男子リレーに於て、静岡縣と愛知縣が非常なる接戦を演じて、最後まで異常なる緊張を示した。試泳に於ては總てが日本新記録を作り得たるのみならず、男子背泳と女子平泳に待望の世界記録を四箇まで作り得た

のは愉快であつた。

殊に開會式後一旦御退場あらせられた秩父宮殿下には午後再び妃殿下御同列にて再度御台臨あらせられ、此等の輝く記録が殿下御目の前にて作られたのは、選手諸君にとつても、我が水泳界にとつても二重の光榮と云はなければなるまい。

天候快晴、軟風、氣温22度。水温22度であつた。

第二日概況

前日に引續き快晴、和風、氣温21度、水温21度。全競技共準決勝と決勝競技のみで息詰る様な接戦が屢々展開せられ、別項戦績の通り、青年團は静岡縣、海軍は佐世保鎮守府、飛込競技東西對抗は東部チームに、水球東西對抗は西部チームの夫々優勝する所となつた。

此の日も亦試泳に於ては數多くの輝かしい成績を残したが、男女を通じ更に三種の世界記録を追加し得た。兩日を通じて東京小學校水泳聯盟の兒童諸君に依つて我が水上競技聯盟が標準とする日本泳法を立派に示して貰ふ事が出来たのは、本聯盟のより一層大ある抱負を具象化したものとして心強く思はれた。

午前九時に始つた競技は少憩する隙も無く行はれ、神苑に夕闇迫つてからは投光器の下に夜戦を展開し青年團二百米リレーに三者並競の大白熱戦を華かに演じたのを最終に閉會式となつた。

末弘役員長の挨拶の後に賞状を一般男女子、青年團、海軍代表に授與され、後藤青年團理事長から静岡縣チームに優勝旗が授與されて、同氏發唱の下に萬歳を三唱し芽出度く大會を終了したのであつた。

第七回明治神宮體育大會水上競技優勝者

青年團競技

100米自由形	1:02.8	樋口 榮一(京都府)
400米自由形	5:20.6	樋口 榮一(京都府)
100米背泳	1:17.4	角田 賢三(新潟)
200米平泳	3:02.0	中川 重樹(愛知縣)
200米リレー	1:54.4	廣島縣チーム
(吉田一、吉瀬智雄、大林正男、笹尾虎男)		
300米メドレー	3:50.6	兵庫縣チーム

優勝 (中村定春、魚井五美、向井久男) 20點 静岡縣

海軍競技

100米自由形	1:05.0	山村 武彦(佐世保)
400米自由形	5:18.0	松下 昌住(佐世保)
800米自由形	11:10.6	知念 繁夫(佐世保)
100米平泳	1:20.6	山崎恒三郎(佐世保)
200米平泳	3:07.6	野呂 高藏(吳)
400米平泳	6:35.4	片岡又右衛門(佐世保)
800米リレー	9:59.0	佐世保チーム

(知念繁夫、簀戸正、山村武彦、松下昌住)
400米リレー (100米自由形2名100米平泳2名)
4:56.6 佐世保チーム
(山村武彦、片岡又右衛門、山崎恒三郎、知念繁夫)
50米潜水 35.0 柳瀬 勝得(横須賀)

新人競技

男子100米自由形	1:01.6	田口 正治(同志社)
男子400米自由形	5:20.0	島本 信義(和歌山)
男子100米背泳	1:14.4	吉田 喜一(佐伯中)
男子200米平泳	3:05.0	三 鴨 清(朝鮮)
女子50米自由形	32.6	横井 さぬ(京都)
女子100米自由形	1:15.8	鹽見 梅子(相山)
女子100米背泳	1:30.4	小木曾治子(淑徳)
女子100米平泳	1:32.6	眞下 京子(京都)

郷土對抗リレー

男子300米メドレー	3:39.6	静岡縣チーム
(鈴木勳、小池禮三、牧野正藏)		
男子800米リレー	9:55.0	静岡縣チーム
(中村豊太郎、新井茂雄、高木茂雄、牧野正藏)		
女子300米メドレー	4:17.6	愛知縣チーム
(吉田京子、前畑秀子、小島一枝)		
女子400米リレー	5:17.0	愛知縣チーム
(鹽見梅子、小木曾治子、水野スズエ、渡邊コマツ)		

飛込競技

男子初等飛板飛込	50.58	蒲澤欣三郎 (大井綠會)
男子初等高飛込	28.42	細谷幸四郎 (横濱DC)
女子初等飛板飛込	36.12	林 悦子 (九段精華)
女子初等高飛込	23.09	林 悦子 (九段精華)
東西對抗男子飛板飛込	134.70	柴原 恒雄(西部)
東西對抗男子高飛込	86.16	奥平 俊二(京都)
東西對抗女子飛板飛込	77.98	大澤 政代(京都)
東西對抗女子高飛込	35.84	島崎惠美子(京都)

水球競技

中等東西對抗、茨木中學チーム
杉本博一 田所嘉宜 島田益男 平田稔
籓内 弘 庄田俊治 西山良之
東西對抗、西部チーム
上野克巳、能野佐一、勝久重隆、坂上安太郎
藤田 明、若山瀧美、松本隆重、

出席者

松澤 一 鶴 西本 龍 三
 高石 勝 男 中 村 豊
 石本 巳 四 男 白 山 源 三 郎

松澤 それではこれから始めませう。最初神宮競技の方から始めませう。

今迄競泳の方の批評が餘り雑誌にも現はれて居ないので屢々原稿を頼んで見たけれ共出来ませんから、今夕は單に批評に限らずもう少し廣く考へて、神宮競技の話から行きます。そして今夕は飛込とウォーターポロには餘り這入らないで、それは専門の人から考へて頂くことにして競泳中心にやりたいと思ひます。一般競技は可成り一般的ですから先づ青年團競技から始めやうと思ひます。

青年團競技

西本 一般からいつたら非常にレベルが上つて居りますね。

高石 僕は今年神奈川縣のコーチを頼まれて、合宿練習をしたですがね、選手は農業をやつて居る人ですが、逆も時間が少くて合宿練習といつても學生のやるやうな合宿練習は出来ないで、それで三日間合宿練習をやつたのです。水泳のすぐ前には日が取れなくてそれで三日間の合宿練習が済んで水泳迄一週間あつたが折角の合宿練習が意義をなさなかつたやうですし、合宿練習の必要もない位だと思つて居ります。實際に於て學生と違つて職業を持つて居る所の人なのですから、其の人の平生の練習法を聞いたのですが、隨分苦勞をしてやつて居るやうです。多摩川の上流の田舎の人で、四百米に出て三等になつた石田といふ人があるんですが、其の人はどんな練習をしたのかと思つたら、近所に池があつて夜眞暗になつてから其の池で練習をしたさうです。それからもう一人の人は石田君の所から少し離れた所で、多摩川の水の淀んだ所で練習をやつたといふやうに、青年團の人は逆も苦勞をしてやつて居ります。それであれだけのレコードを出したのです。

西本 それでやつて居る人はどんな人ですか。

高石 皆農業をやつて居る人なのです。

松澤 プールで泳いだことはないといふのはたしかなんですか。東京府はどうですか。

中村 八王子の人達はあそこ(多摩川)でやつてますね。所があそこ迄夜分は練習に行かないやうですね。又仕事の歸りといふやうなわけにも行かないらしいですね。

石本 泳ぎ方はどうですか。プールでやる練習と違つて邪道に這入つて居るかどうか。

高石 別に邪道に這入つて居るといふこともないのですがね、正式にコーチされたことはないし、殆んど我流でやつて居ります。幾分は人のやるのを見て覺えたといふこともありますね。

中村 得點なんかの立場から唯這入りさへすればよいと思つて居る人があるやうですね。

西本 實際問題として、さういふ青年團の人に根本的の練習は出来ないものですかね。さういふ人達にコーチしてうんと仕込み、結極さういふ人達の俱樂部等に對して力を入れてやつたら何といひますか、普通の一般の人よりも強い人かも知れませんね。

高石 皆の氣分がさうなればそれがいゝかも知れませんが、青年團の人にさういふやうな氣持があるかどうかですか。

松澤 一般的に見て今度の競技會で豫選で落ちる人は別ですが、可成りはつきりして居るのは海軍の技術と比べて青年團の豫選はよくないやうに覺えて居ります。

高石 僕は青年團の泳ぎ方は、大體に於て正式にコーチされない人が多く、人の泳いで居るのを見たりして覺えたのだから大體の型に於て殆んどなつて居ない人が多いと思ひます。

中村 つまり自己流で固まつて居るのですね。

松澤 僕は青年團競技即ち今高石君がいつたやうに、非常に苦しい練習をやるとか、非常に不自由な練習を受けるやうな階級の人々の競技運動といふことに就ては、今後非常に氣をつけてやる問題だと思ひます。それから今度の神宮大會で參加した府縣の数が此の前と大差がないといふことの理由、殊に日本で青年團競技を始めてから今年で三年目であつて、實際に參加する府縣の数が増加して居ないことです。全日本が非常に水泳に就いて刺戟されて居るといふが、青年團の数が増えて居ないといふことは考ふべきことだと思つて居ります。

西本 全般からいつて増えて居りますが、練習して

總裁宮殿下令旨

爰ニ第七回明治神宮體育大會ヲ開クニ際シ全國ヨリ參集セル選手諸子ニ對シ一言セムトス本大會カ特ニ明治ノ佳節ヲ選ヒ此ノ神域ニ於テ舉行セラル、所以ノモノハ競技精神ノ作興ヲ念トスルニ因ル今ヤ我國競技ノ名聲愈々揚リ之カ選手タルモノノ地位益々向上ヲ致シツツアルハ世ノ認ムル所ナリ諸子ハ應ニ運動ノ眞義ヲ體得シ國家多事ノ此ノ秋ニ於テ國民ノ一員トシテ新日本ヲ雙肩ニ擔フノ覺悟アルヲ要ス予今日親シク此ノ式ニ莅ム能ハスト雖モ語ヲ寄セテ諸子ノ奮勵ヲ希ヒ本會素志ノ貫徹セムコトヲ望ム

式 辭

榮エアル明治神宮體育大會ノ劈頭ヲ飾ル水上競技ヲ大會ノ第一期トシテ開催スルニ付キマシテ茲ニ全國各地カラ選抜セラレマシタ代表選士諸君ヲ迎ヘツノ發會式ヲ舉行致シマスコトハ吾等ノ衷心欣幸トスル所デアリマス惟フニ明治神宮體育大會ハ國民カ舉ツテ之ニ參加シ體育運動ヲ通シテ

明治大帝ノ御懿德ヲ懷仰シ奉リ併セテ心身ノ鍛鍊ニ資スル處ニソノ目的カアルノデアリマシテ本年ヲ以テ第七回ニ及ヒ回ヲ重ヌルト共ニ益々ソノ内容ヲ充實シ吾國ニ於ケル唯一ノ綜合體育トシテ進展シテ參ツタノデアリマス

今ヤ參加スル競技ノ種類ハ二十餘種ニ及ヒ殆ント我カ國ニ於テ行ハレテキル體育運動ノ總テヲ網羅シ之ニ參加スル選手モ約一萬人ヲ數ヘ而モ回ヲ重ヌル毎ニソノ數ヲ増加シテキルノデアリマス本日から行ハレマス水上競技ニツイテ見マシテモ第一回ニ於ケル參加選手一百人ニ比シ今回ハ約四百五十餘名ノ參加ヲ見タノデアリマス而モソノ内容ハ一層健ニシテ剛ヲ加ヘ益々意義ノ深キヲ加ヘツ、アルノデアリマス今ヤ我カ國ノ水泳ハ昨年ロスアンゼルスオリムピック大會ニ於テ世界ノ水上制覇ノ偉業ヲ成シ遂ケ我カ國運動史ニ光輝アル一頁ヲ飾ツテキルノデアリマス此ノ榮アル世界ノ霸權ヲ將來ニ維持スルモノハ諸君デアリマス諸君カ本日ヨリノ競技ニ於キマシテ偉大ナル成績ヲ殘サレルコトハトリモナオサス大帝ノ聖旨ニ答フル所以ナノデアリマス今回參加セラレマシタ選手諸君ハ全國各地カラ選出セラレ或ハ郷土ヲ代表シ或ハ團ノ名譽ヲ擔ヒ或ハ又衆望ヲ負フテ出場セラレル諸君ノ事デアリマスカラ申スマテモナイコトデアリマスカ層一層斯道ニ精進シ明治大帝ノ鑑ス御前ニ於テ日頃ノ鍛鍊ノ結果ト運動精神ノ精華トヲ遺憾ナク發揮セラシルヤウ希フ次第デアリマス

昭和八年九月三十日

明治神宮體育會會長男爵 阪谷 芳郎

祝 辭

第七回明治神宮體育大會水上競技大會ハ本日ヲ以テ開始セラレ全國五百ノ男女選手來リテ覇ヲ中原ニ爭フ壯ナリト謂フベシ茲ニ開會ノ典ヲ舉グルニ當リ畏クモ秩父宮殿下ノ台臨ヲ辱ウシ志氣頓ニ振ヒ榮光場ニ滿ツ感激曷ゾ勝ヘン顧ミルニ海國日本ノ眞面目ハオリムピック競技大會ニ於テ遺憾ナク發揚セラレタリ一タビ水上選手ヲ其ノ第七回大會ニ送ルヤ嶄然群ヲ抜イテ忽チ頭角ヲ見ハシ第十回大會ニ參加スルヤ優ニ列國選手ヲ凌ギテ世界ノ首位ヲ占ムルニ至ル然レドモ既往ノ成績ハ必ズシモ以テ將來ヲ推スニ足ラス來ルベキ第十一回オリムピックニ備フル一大試煉トシテ世ノ選手諸子ニ期待スル所ヤ蓋シ甚ダ大ナルモノアラン

今ヤ帝國ハ非常ノ時難ニ遭遇ス文トイハズ武トイハズ農ニ商ニ將タ工ニ我ガ國策ヲ遂行シ以テ我ガ國力ヲ充實センニハ一國民ノ元氣ト體力トニ竣タザルベカラズ而シテ水上ニ於ケル各種ノ運動ガ元氣ノ涵養體力ノ鍛鍊ニ資スル所特ニ大ナルモノアルヲ想ヘバ今明兩日ニ亘ル水上競技大會ノ意義ヤ更ニ一段ノ重キヲ加ヘン

選手諸子、深クソノ使命ノ重大ナルニ顧ミ全力ヲ傾ケテ平素修練ノ効果ヲ十分發揮セラレンコトヲ望ム

昭和八年九月三十日 文部大臣 鳩山一郎

宣 言

第七回明治神宮體育大會水上競技大會ヲ開催セラル、ニ當リ總裁宮殿下ノ御臺臨ヲ仰キ奉リ明治大帝ノ御神前ニ於テ技ヲ競フコトハ無上ノ光榮トスル所デアリマス

茲ニ謹ミテアマチュアー運動精神ニ則リ正々堂々競技ヲ行フコトヲ誓フモノデアリマス

昭和八年九月三十日

第七回明治神宮體育大會水上競技大會

選手代表 清川 正二

出て来た所が、豫選にも這入らないし、點も取れないから出て来るのがいやになるのではないですか。數字的に幾ら位参加して居りますか。

松澤 數は三十二、三府縣ですが、實際の所は或縣がやめて或縣が一つ増えたといふことでたつた一つ變つただけです。

高石 學生選手の出る居る縣も全國的ではないですね。學生選手の出る居る縣の青年團選手は殆んど出る居るのではないですかね。

松澤 さうですね、言ひ換えるとまだ其の以外の縣、つまり學生選手に刺戟されて居ない縣には中々水上競技が潛入して行かないことになるのですかね。

白山 要するに其の縣に熱心な指導者がないといふことが原因ではないですかね。纏める人が居ないで、これを纏めて競技會に出る機會を與へてやらないといふことが主ぢやないですかね。

西本 少し弱がつて居る所は指導者がないと出ないといふことになるでせうね

白山 一度出ればどんなものか様子が判るし、従つて外の者も出よくなりますがね。

石本 上に立つて居る人でさういふ氣持の者が多いと非常によいことですが、まあ一種の違つた意味の普及といふことが必要でせうね。

高石 それで例へば縣のさういふ人が出られるやうなチャンスと與へて呉れないことも一つの原因になりませうね。青年團とか縣の後援會のやうなものが主になつて呉れるといふでせうね。

西本 學生の方は水泳を一種の體育的としてやるが、青年團の方は陸上の方や兵式訓練の方はあるかも知れないが、水上の方は餘程力を入れて呉れる人がないと駄目ですね。

白山 水上聯盟で講習會をやつた時の指導者を集めて、さういふことを奨めるといふこともよいと思ひます。そして度々話をしてやるとよいと思ひます。

松澤 言ひ換えると、指導者として熱心家が居るか居ないかの問題ですね。

西本 指導者を集めるといふことはよいが面倒な仕事ですね。

松澤 それに關聯して京都府のことは

白山 それは西條が出ないことです。西條が出れば自信があつたのですが、西條は職業を持つて居て、月末で金を集めなければならぬといふので、親父に話したら今度だけは勘辨して呉れ、彼奴が金を集めて呉れなければ困るので、今度だけは是非といふので樋口が我慢して居ります。

高石 何しろ人數が少ないのですからね。

白山 あの青年團の立場から行くと月末に競技會があるといふことは困るやうですね。

松澤 其の點は今後考慮ませう。

西本 寧ろ二十五六日頃にしてしまつたらどうでせう。

松澤 京都と静岡の得點を西條を出して比べて見るとどうです。

白山 静岡の強味は、非常に強いのは居ないが平均してゐるチームだから非常に有望だと思ひますね。

松澤 それから得點のことに關聯して、かういふ競技會でかういふ得點方法にしたら果してどうか、非常に種目は少いし今後参加府縣の數も多くなることを豫期してさういふ場合に今迄の方法でやれば如何に點がばら撒かれても隨分得點の少い縣が出て來たりして各府縣の力といふものは判然しないことになる。これはもう一つインタカレヂなんかも考へてよいと思ひます。

西本 具體的にいひますと。

松澤 實際からして参加した府縣の半分しか點が付かないで、あとは参加して居りながら無得點の府縣が多い。折角やるには同じコンディションでもつとよい成績方法がないといふのは問題ですね。

西本 それは最後迄得點をしやうといふ方法ですか。

松澤 得點といふよりは何か成績が見えて來る方がよいと思ひます。

西本 併し六等迄取つて居ればインターカレヂなんかもそれ以上は無理かと思つて居りますね。

中村 何時でも點が取れないと出て來るのも一寸考へますね。

西本 一部二部三部制のやうにやつてはいけませんか。

松澤 青年團は一部二部三部制は殆んど六ヶしい。ブランが同じになつて居るのもあるし。

西本 九等迄といふのは出來ますね實際問題として

白山 種目を減らすといふのはどんな風にですか。

松澤 今年は参加規定が變りまして、今迄よりは人の數も二人計り増やし得るやうになつて居りますので、一人の人が回數を多く出られるやうになりました。今迄の府縣六名が八名に増えまして、一府縣から一つの種目へ二人迄出場し得たので、少ない人數で皆活躍されるやうな點では合理化されたと思ふ。之れで豫選でも矢張り探點して見る方法もあるぢやないかと思ひます。

石本 と申しますと

松澤 豫選でも六等迄位點を附けて分けて見るとも

う少し澤山の府縣が點を取れるだらうと思ふ。

西本 豫選と決勝との點數の區別は

松澤 之れは幾らか輕重をつけて

石本 リレーにはもう少し順位をつけてやつたらどうですか。

中村 準決勝にいけないものは又やつて順を決めてもいいですね。

西本 具體的のことはゆつくり考へるとしませう。

松澤 もう少し参加府縣が増えたらもう少し獎勵法を講じて見たいと思ひます。

西本 さういふことは、吾々の誰でも思ふことですね。

松澤 豫選の點を取るといふことは、少くともいけないかも知れないが、豫選の優賞の點については殆んど同様のことをやつて居ります。其の外に青年團競技に三等から上の新記録を作つた度に一點づゝをやるといふことにすれば面白い方法ではないかと思ひます。

西本 併しそれは或點迄自分のやることを犠牲にするといふことになると思ひます。

松澤 犠牲にしてもチームが點が取るといふことに就ては褒めて然る可きだと思ひますね。

西本 かういふことはどうです。自分は百米を一番得意とするけれ共、二百米に出なければならぬ場合に、其の人は無理してチームの爲めに自分を犠牲にして出る、點を取る爲め學校の名譽の爲めに無理な、勝算がないといふ場合は點數を餘計にしてやるといふことがいゝぢやないかと思ひます。今六等迄といふのを九等迄として、あとは一點づゝやつてレコードをやることは、獎勵法からいつて非常によいことではないですか。

松澤 それは色々な見方があるでせうね。

西本 點を増やして全般のレベルを見るといふことはいゝでせうね。

白山 事實に於て餘り點が取れないでやめるといふことはないですか。

松澤 今年點が取れて嬉しい裏には、取れないで悲觀して居るのはあるでせう。

白山 現實に或縣から見ると、自分は全然見込みないとなると餘程考へなければならぬでせうね。

西本 やめて了ふのが多ければもつと點を増やすことにして、何時かは點が取れるだらうといふことにして現在のまゝで置いた方がよいではないですか。三年間點が取れなかつたけれ共今年を取るといふやうになつて來ることが、全體のレベルを上げることになるといふことになり、點を増やすことが反對に

レベルを下げることになりはしないでせうか。

石本 青年團としては全國的に餘程しつかりした團體にしないと、いゝ時には出て悪い時には出ないといふことになりはしないでせうかね。

松澤 現在でも既に中々得點するといふことは困難な状態になつて居るので新しく参加する府縣が中々参加しない。水上競技は陸上競技と違つて、種目は少しい現在の種目を總ての府縣が取り合つた所で、三十二、三府縣で六種目で六等迄しかないから、中々入賞圏内に這入らないといふことに就いて、これから先も考ふべきことだと思ひます。

白山 此の青年團競技といふのは非常に有意義なもので、指導者があつて指導してやれば出られると思ひます。そして例へば日本が初めてオリンピックに参加した時、豫選に一人でも入選出来れば結構だといふ氣持で行つたがあの氣持が 青年團にあつて呉れゝばよいが、その氣持が吾々には一寸判らない。

松澤 出来ることなら實際當事者に會つて其の氣持を聞きたいものですね。

西本 種目はもう一つ二つ増やしてよいと思ひますが、來年あたりからもつと増やしたらどうですか。

白山 種目を一つ増やせば餘程よくなりませう。

松澤 青年團競技からいへば、わざわざ遠い所からやつて來て、現在の参加規定では苦しいでせうね。

松澤 今迄の六名を八名にしたけれ共、實際に八名出した府縣は殆んどなく、在來のやうに五名、六名が多くて一種目増えた爲めに却つて苦しかつたといふことがあります。

石本 所によつては長い方の得意な人が多くそれが獎勵されて居るのではないでせうか、例令ば八百米とか千五百米とかいふやうな。

中村 種目を増やすと短距離の選手は非常に苦しいが、長距離の選手は一つ手頼になつて了ふ。

西本 先刻の問題を種目を増やすといふことに依つて解決出来ませんか。

海 軍 競 技

松澤 青年團に於て思ひ出すことは、こんなものですかね。それでは次は海軍競技と行きませう。海軍方面は今年は大演習があつた爲に、練習が充分出来なかつたといふ憾みはあるけれ共、これも相當將來あるやうに思ひますね。

白山 あれは見えて居て氣持がよいですね。

西本 來年からは海軍と折衝して地域の協定をしたらどうですか。

高石 海軍はもつと人員が増えないものでせうか。
松澤 それは今年も既に前に参加して居るチームに就て海軍としては、それは非常に考慮しました。吳鎮守府の舞鶴がいゝとなると佐世保は馬港、横須賀は大湊から連れて来てもいゝといふことになる。海軍は来いといふ命令で呼び出せるが、旅費を支給することになる。費用を限定されて居る爲めに茲の所は餘り判然いへない譯で、大湊あたりから一人呼ぶと、横須賀の豫算を其の爲めに食つて了ふことになる。海軍は豫算だからそうは行かない。
高石 一種目の参加選手をもつと増やしていいですね。
西本 さうすると豫算を増やしますかね。
松澤 所が現在でも種目が多いといつて嘆いて居るですね。
白山 それはチャンピオンシップであつて對抗競技でないから。
松澤 技術方面から見て技術が落ちて居るやうです。レベルはさうでもないが、あれなどは適當に指導してやれば非常によくなると思ひますね。
石本 去年砲術學枚で指導して、來年からは毎年やらうといふことにして、今年の大演習が済んだら講習會をやることになりませう。
西本 それは海軍當局と折衝して、水上聯盟から優秀な指導者を送つて指導することにでもしたらよいでせうね。
松澤 僕は青年團よりは海軍の方が練習の機會が多くなり、そこに統制方法を教えたなら絶對的によい結果を來たすだらうと思ひます。
白山 僕は今年横濱で觀艦式の時水泳大會をやつたのを見ましたが、其の時大尉の人が館山から船でやつて来て、翌日すぐ無線電信で選手を呼んだが決勝する暇がないからやつて來た順に片つ端から泳がせたが、一生懸命にやつて、中々いゝタイムを出し、百米を一分六秒位出す人があつたといふ譯で、あの調子で練習したらあの人は今に中々いゝタイムが出ると思ひますがね。
松澤 潜水の泳ぎ方は殆んど横潜り泳でしたね。羽交ひ延びを使つて居らないですね。僕の見た所で四人位は水中諸手のやうなものですね。
高石 あれが一番早いのがやないですかね。
石本 早いやうな氣がするですね。
西本 併し其の水中潜水業家といふのは外に存在するが、海軍は一寸水上聯盟とは違つて例令ば水中に於ける作業といふのが目的なのだからでせう。
石本 あれは海軍の方で希望して入れたのですね。

松澤 併し六人揃つて皆五十米潜るといふことは大したことです。五十米潜るといふことは偉いですね。それからもう一つ大したことは、六人揃つて誰もコースからはづれた者がなかつたのは單に珍しい計りでなく中々すばらしいですね。
白山 日本の泳ぎ方で潜水といふものは非常な勢を現はして居ります。
西本 來年からもう一つ競技の中に水中作業といふものを入れたらどうですかね。
石本 太田さんなんかの話では、着物を着た儘這入つてやることなどもよいではないですかね。
西本 着物を着て飛び込んで其の氣持を味つて置くといふことは一寸よいですね。
高石 海軍の靴を履いて軍服をつけてやるか、いゝ、いゝ。
松澤 水兵服の儘で一定の距離を泳ぐこともよいですね。それから海軍競技で現在の外に特別の種目を入れるといふことは
西本 入れることもよいでうせね。
松澤 それは海軍側に聞いて見ることにしませう。
高石 海軍の競技でブレストは非常によいと思つて居ります。
白山 海軍は最初觀海流が這入つたのです。
高石 鶴田君も海軍に居つた當時は、さう優れた男ではなかつた。が、海軍をやめてから本當に強くなつたんですね。
白山 さうですね、初めて三分を切つたのは海軍をやめるといふ時ですね。
高石 本當に練習法が判つたら鶴田君のやうな人が澤山出るでせうね。
松澤 海軍の種目の中ではブレストはよいと思つたが、平泳ぎに於て普通一般の選手と著しく違ふので海軍を餘程よく指導しなければならぬと思ひます。
石本 海軍の人にいはせると、指導する人が大ぜい居て、それぞれ色々なことをいふので、一々命令に従はなければならぬから、困るといふがさういふ原因もありませう。

一 般 競 技

松澤 一番新人の多い一般競泳の新人競技に於て思ひ出すことは何でせうね。
西本 競泳の成績は別として、始めは殆んど棄權すると思つたけれ共、反對に出たといふことは非常に偉いと思つて居ります。それだけ新人が今迄出る機會がなかつたといふことを思はせるので、かういふ

機會に新人競技をやるといふことは結構と思ひます
松澤 棄権者が少いことは今度の神宮大會の誇りと
する所ですね。そして新人競技の成績は相當によか
つたですね。

高石 百米を一分一秒の人がありましたね。

西本 それは同志社大學の田口君ですよ。

松澤 新人競技の辛さといふものは大したものだと思ひます。

西本 大體に於て新人競技が判然り判る迄は此の儘
でせうね。

松澤 僕の大したものといふことは方法から來て居
ることで、かういふ競技を神宮競技以外に試る必要
があるでせうかね。

西本 選手權大會の二部と一緒に如何です。

高石 新人大會もいゝですけれ共新人を得るのが迎
も大變ですね。新人の新人もあるでせうがそれを探
すのが大變ですね。

松澤 全國的に見たなら或る意味での新人ですね。
併し新人といふ言葉は悪いですね。英語のジュニア
に相當する心算だが悪いですね。

高石 けれ共これからプログラムを決めるに調べる
必要がありますね。

松澤 一般競技で其の外に例の記録をつくる種目と
郷土對抗競技について

西本 練習をして居ないから嫌だといふことになる
ので郷土對抗といふのは時期の問題でせうね。

高石 兎に角此方から郷土對抗といふお膳立てで拵
てやつて、練習を続けさせることは常に必要でせう。

西本 何なら諄くて仕様がな、これからかういふ
ものがあるといふことを豫告したらどうですか。

松澤 郷土對抗は僕は實際的にいふとチームに参加
した學生が少なかつたといふことは、選手が興味を
起し得なかつた爲めで、水上聯盟の方でもう少し一
生懸命に纏めてやらうとしなかつたのは失敗の原因
ですね。

白山 郷土對抗の範圍は府縣ですか。

松澤 それは府縣ですね。府縣の日本水上聯盟の加
盟團體だつたのです。

白山 加盟團體とうたつてしまつたらどうですか。
自分の水泳團體の名譽となると無理でも集めるとい
ふことになるでせう。それから加盟團體にもつと責
任を持たせるやうにしたらどうですか。

松澤 可成り持たせたのですがね。

白山 所屬も大阪大會とか濱松大會とかいふことに
したらどうですか、さうすれば大會に出る選手は何
處かの所屬になつて居りますね。

高石 郷土對抗といふことは非常によいことですね

西本 其の方法をよく考へる必要がありますね。

松澤 さうすると各府縣に熱が出て來ることになり
ますね。

高石 おそらく今年の郷土對抗を見てあんなのなら
出るのだつたと思つた人が多いと思ひ出ます。

白山 殆んど新人の郷土對抗でしたね。

西本 意味も徹底しなかつたこともあるし、手續の
濟まなかつた所もあるでせう。

松澤 今度選手諸君が此のチャンスを逸してしまつ
たことは惜しいと思ひます。

西本 それは意味が判然徹底しなかつたからでせう

高石 今年は趣意が徹底してゐなかつたこともある
が、例へば宮崎君が出なかつたり北村君が出なかつ
たりしたのが實際の原因だつたと思ひますね。

西本 直接交渉する間がなかつた。

石本 直接世界的記録を作るといふことは

松澤 世界的記録とか日本記録とかも頼んで置いた
が今後の日本の競泳大會に對する價值といふ點も比
較的考へが足りなくて一つの催しもの位にしか考へ
て呉れなかつたことを残念に思ひます。

西本 時期もなかつたですね。

松澤 僕の考へて居ることは非常に緊張して出るカ
ンカンになつて出て始めて世界記録が出ることがあ
ると思ひますね。

西本 其の所は六ヶ敷いですね。

白山 兎に角種類が非常に多くて意味が判らないと
いふことがありますね。

松澤 今迄とは違つてまるで型破りの會でしたから
ね。

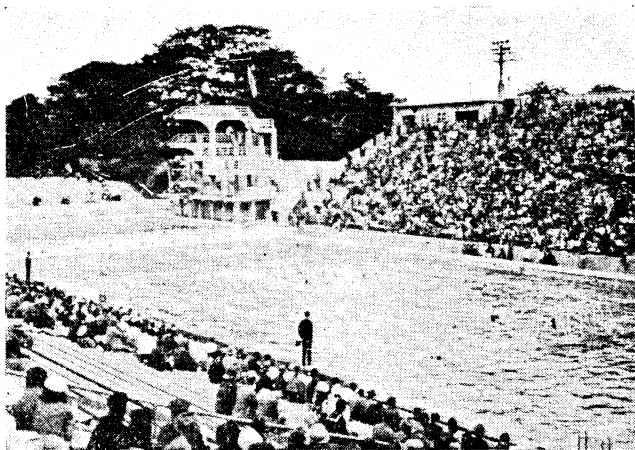
西本 併し世界記録を幾つも破つたといふことは成
功でしたね。

高石 目的からいへば相當のものですね 併し評判
の悪かつたのがもう一つありますね。

西本 まあ一度やつて置けばいゝですね。

石本 僕はちつとも見なくてかういふことをいつて
はいけないですが今後は三日間あつてもいゝと思ふ
ですね。

松澤 併しこれを二日と決めたといふ理由は、愈々
プログラムを決めることに就いて今年の三月に考へ
た。青年競技で二日は手頃だらうと思つて居つたの
で實際はこれ程になると思はなかつたが、プログラ
ムを決めることになつてからこれが二日に這入るか
如何かといふことになつたが、神宮競技の方は豫算
の關係もあるし思ひ切つて二日でやつて了つたやう
な譯であります。



第七回神宮大會

競泳成績

大會記録員

多幸なりし本年度の水上競技も慇々本大會を以てその幕を閉ぢることになつた。過去二年間我々日本人が努力して達成し得た輝き成果を、此の大會に於て明治神宮へ御前に奉告奉納し得たことを喜びつつ競技の経過を省みやう。常とは云ふものゝ、吾がスポーツ界の第一線に立つ水上競技が神聖なる神宮體育大會の先陣を承るのも、その名に適はしいものであらう。青年團對抗、海軍競技、それに新しく新人競技、郷土對抗リレー及記録の爲の試泳の三つが加へられ、有り來りの水上競技とは全然異つた芬圍氣の中に、豊富な番組を切りつめられた所定の時間を些も狂はずことなく、進行し得たことは我々大會役員として喜ばしき限りである。

新人競技

は男子にあつては(1)従來のベストテンに載らぬ者、(2)全國學生水上競技一部、中等學校東西對抗及日本選手權の決勝に参加したことのない者、女子にあつてはオリムピック選手以外の者といふ條件で行はれた。従つて此れと云ふ程の記録が出なかつたのも當然である。此の競技に於ては海軍競技、青年團競技に比べて棄權者が頗る多かつたのは競技の本質上已むを得まいが、その棄權者が地方の人よりも東京近在の人に多かつたのは頗る遺憾である。以下決勝記録とその感想をのべて行かう。

男子100米自由形 去る八月の始め大阪で行はれた大阪對京都の水上大會で好記録を出した田口が出場するので相當期待された。果して彼は豫選で1分2秒2準決勝、決勝で同じ1分1秒6の良記録を示した。現在の日本でも此のタイムを確實に出し得るものは10人とは居ない。又豫選で1分4秒4を出した佐世保の山村が海軍競技の爲か、準決勝で棄權したので決勝は波瀾のないレースとなつてしまつた。

1. 田口正治 (同志社大) 1:01.6
2. 壺田重三 (東都) 1:04.4
3. 篠塚陽助 (セントポール) 1:06.2

男子400米自由形 インターカレッジの二部より、數段良い。決勝は同じ様な實力を有する關西の三人が争つて、結局古武者の新人島本が勝つた。寺石も島本も西部中等の

時に比べて元氣が無い様に見えた。

1. 島本信善 (和歌山) 5:20.0
2. 寺石延也 (京一高) 5:22.0
3. 前川重樹 (三水會) 5:22.2

男子100米背泳 西部中等にも顔を出さなかつた大分佐伯中學の吉田が準決勝で1:14.0といふ素晴らしい記録を見せて、斷然優勝した。14秒とあれば日本選手權でも樂に四着である。後繼者の少い背泳界に同君の出現は嬉しい限りである。

1. 吉田喜一 (佐伯中) 1:14.4
2. 古川正 (聖ポール) 1:22.6
3. 古田信一 (静岡青年) 1:23.2

男子200米平泳 新人競技の中で最も奮はなかつたのが平泳である。

1. 三鴨清 (朝鮮) 3:05.0
2. 本間篤二 (喜多方中) 3:09.2
3. 後藤勝造 (三水會) 3:11.0

女子50米自由形 今年は當り年の種目である。一昔前、玉川でグランシー夫人が作つた33秒6といふ記録に松澤が漕ぎつけたのが昭和五年であつた。それから三年間、この記録を破る者が現れなかつたが今年には既に松澤、荒田、横井の三名が新記録を出してゐる。本大會に於ては、松澤の最高記録31秒4には及ばなかつたが、横井が新記録を、鹽見が對記録を出して舊記録を一蹴した。

1. 横井キヌ (京都) 32.6 (日本新)
2. 鹽見梅子 (根山) 33.6 (日本對)
3. 渡部コマツ (淑徳) 34.6

女子100米自由形 本年慧星の様に飛出し忽ち、短距離の第一線に立つた、僅か14歳の少女鹽見は泳ぐ毎に記録を縮めて刻々15秒臺に達してしまつた。あのピッチの速い泳法が、更に洗練されたなら、恐るべきものとならう。ベテラン横井も歳と共に強くなるのは女子水泳界にとつて大に慶賀すべきことである。次に注目すべきは東京第六高女の進出であらう。立派な室内プールと栗村名コーチの元に昨年からメキメキと乗出し、關東女子水泳界の重要なエレメントになつた。名古屋の梶山、淑徳、京都の二條等と肩を並べるのも近いことであらう。遅れた關東女子軍の爲に奮起を希望する。

第七回神宮大會番組

第 一 日	第 二 日																																																																																																																																				
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. 開 會 式</td><td style="text-align: right;">午前 9.00</td></tr> <tr><td>2. 青年團 400米自由形豫選 (4)</td><td style="text-align: right;">9.30</td></tr> <tr><td>3. 新人男子 100米自由形豫選 (8)</td><td style="text-align: right;">10.05</td></tr> <tr><td>4. 女子新人 100米平泳豫選組 (2)</td><td style="text-align: right;">10.45</td></tr> <tr><td>5. 青年團 100米背泳豫選 (4)</td><td style="text-align: right;">10.55</td></tr> <tr><td>6. 新人男子 200米平泳豫選 (5)</td><td style="text-align: right;">11.15</td></tr> <tr><td>7. 新人女子 100米自由形豫選 (3)</td><td style="text-align: right;">11.50</td></tr> <tr><td>8. 青年團 300米メドレーリレー豫選(3)</td><td style="text-align: right;">午後12.05</td></tr> <tr><td>9. 男子初等飛板飛込決勝</td><td style="text-align: right;">12.35</td></tr> <tr><td>10. 試 泳(記録作成ノタメ)</td><td style="text-align: right;">1.35</td></tr> <tr><td>11. 女子初等高飛込決勝</td><td style="text-align: right;">2.20</td></tr> <tr><td>12. 日本 泳 法</td><td style="text-align: right;">2.30</td></tr> <tr><td>13. 男子初等高飛込決勝</td><td style="text-align: right;">2.55</td></tr> <tr><td>14. 水球中學校東西對抗決勝</td><td style="text-align: right;">3.20</td></tr> <tr><td>15. 女子初等飛板飛込決勝</td><td style="text-align: right;">4.05</td></tr> <tr><td>16. 郷土對抗男子300米 メドレーリカー豫選 (2)</td><td style="text-align: right;">4.20</td></tr> <tr><td>17. 青年團 100米自由形豫選 (6)</td><td style="text-align: right;">4.35</td></tr> <tr><td>18. 新人男子 400米自由形豫選 (6)</td><td style="text-align: right;">4.50</td></tr> <tr><td>19. 青年團 200米平泳豫選 (4)</td><td style="text-align: right;">5.50</td></tr> <tr><td>20. 郷土對抗女子300米 メドレーリレー決勝</td><td style="text-align: right;">6.15</td></tr> <tr><td>21. 青年團 200米リレー豫選 (3)</td><td style="text-align: right;">6.25</td></tr> <tr><td>22. 郷土對抗男子300米 メドレーリレー決勝</td><td style="text-align: right;">6.45</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">終了豫定</td></tr> </table>	1. 開 會 式	午前 9.00	2. 青年團 400米自由形豫選 (4)	9.30	3. 新人男子 100米自由形豫選 (8)	10.05	4. 女子新人 100米平泳豫選組 (2)	10.45	5. 青年團 100米背泳豫選 (4)	10.55	6. 新人男子 200米平泳豫選 (5)	11.15	7. 新人女子 100米自由形豫選 (3)	11.50	8. 青年團 300米メドレーリレー豫選(3)	午後12.05	9. 男子初等飛板飛込決勝	12.35	10. 試 泳(記録作成ノタメ)	1.35	11. 女子初等高飛込決勝	2.20	12. 日本 泳 法	2.30	13. 男子初等高飛込決勝	2.55	14. 水球中學校東西對抗決勝	3.20	15. 女子初等飛板飛込決勝	4.05	16. 郷土對抗男子300米 メドレーリカー豫選 (2)	4.20	17. 青年團 100米自由形豫選 (6)	4.35	18. 新人男子 400米自由形豫選 (6)	4.50	19. 青年團 200米平泳豫選 (4)	5.50	20. 郷土對抗女子300米 メドレーリレー決勝	6.15	21. 青年團 200米リレー豫選 (3)	6.25	22. 郷土對抗男子300米 メドレーリレー決勝	6.45	終了豫定		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. 新人男子 100米背泳豫選 (4)</td><td style="text-align: right;">午前 9.00</td></tr> <tr><td>2. 新人女子50米自由形豫選 (4)</td><td style="text-align: right;">9.20</td></tr> <tr><td>3. 青年團 100米自由形準決勝(2)</td><td style="text-align: right;">9.20</td></tr> <tr><td>4. 新人女子 100米背泳豫選 (2)</td><td style="text-align: right;">9.45</td></tr> <tr><td>5. 海 軍 400米自由形決勝</td><td style="text-align: right;">9.65</td></tr> <tr><td>6. 新人男子 200米自由形準決勝(2)</td><td style="text-align: right;">10.05</td></tr> <tr><td>7. 青年團 200米平泳決勝</td><td style="text-align: right;">10.15</td></tr> <tr><td>8. 新人男子 100米背泳非決勝 (2)</td><td style="text-align: right;">10.25</td></tr> <tr><td>9. 海 軍 100米自由形決勝</td><td style="text-align: right;">10.35</td></tr> <tr><td>10. 新人男子 200米平泳準決勝 (2)</td><td style="text-align: right;">10.40</td></tr> <tr><td>11. 青年團 100米背泳決勝</td><td style="text-align: right;">10.55</td></tr> <tr><td>12. 新人男子 400米自由形準決勝(2)</td><td style="text-align: right;">11.00</td></tr> <tr><td>13. 試 泳(記録作成ノタメ) (3)</td><td style="text-align: right;">11.25</td></tr> <tr><td>14. 新人女子 100米自由形決勝</td><td style="text-align: right;">11.40</td></tr> <tr><td>15. 海 軍 100米平泳決勝</td><td style="text-align: right;">11.45</td></tr> <tr><td>16. 新人女子 100米平泳決勝</td><td style="text-align: right;">11.50</td></tr> <tr><td>17. 青年團 300米メドレーリレー決勝</td><td style="text-align: right;">12.20</td></tr> <tr><td>18. 海 軍 800米リレー決勝</td><td style="text-align: right;">午後12.1</td></tr> <tr><td>19. 新人女子 100米背泳決勝</td><td style="text-align: right;">12.25</td></tr> <tr><td>20. 海 軍 400米平泳決勝</td><td style="text-align: right;">12.3</td></tr> <tr><td>21. 東西對抗男子高飛込決勝</td><td style="text-align: right;">12.45</td></tr> <tr><td>22. 試 泳(記録作成ノタメ)</td><td style="text-align: right;">1.15</td></tr> <tr><td>23. 日本 泳 法</td><td style="text-align: right;">2.</td></tr> <tr><td>24. 東西對抗女子飛板飛込決勝</td><td style="text-align: right;">2.4</td></tr> <tr><td>25. 東西對抗水球決勝</td><td style="text-align: right;">2.55</td></tr> <tr><td>26. 東西對抗男子飛板飛込決勝</td><td style="text-align: right;">3.4</td></tr> <tr><td>27. 海 軍 500米潜水決勝</td><td style="text-align: right;">4.2</td></tr> <tr><td>28. 青年團 100米自由形決勝</td><td style="text-align: right;">4.25</td></tr> <tr><td>29. 新人男子 200米平泳決勝</td><td style="text-align: right;">4.39</td></tr> <tr><td>30. 海 軍 800米自由形決勝</td><td style="text-align: right;">4.4</td></tr> <tr><td>31. 東西對抗女子高飛込決勝</td><td style="text-align: right;">4.45</td></tr> <tr><td>32. 海 軍 200米平泳決勝</td><td style="text-align: right;">5.1</td></tr> <tr><td>33. 郷土對抗女子 400米リレー決勝</td><td style="text-align: right;">5.2</td></tr> <tr><td>34. 郷土對抗男子 800米リレー決勝</td><td style="text-align: right;">5.3</td></tr> <tr><td>35. 新人男子 100米行泳決勝</td><td style="text-align: right;">5.3</td></tr> <tr><td>36. 新人女子 100米自由形決勝</td><td style="text-align: right;">5.45</td></tr> <tr><td>37. 青年團 400米自由形決勝</td><td style="text-align: right;">5.55</td></tr> <tr><td>38. 新人男子 100米自由形決勝</td><td style="text-align: right;">6. 5</td></tr> <tr><td>39. 新人男子 400米自由形決勝</td><td style="text-align: right;">6.1</td></tr> <tr><td>40. 海軍 400米メドレーリレー決勝</td><td style="text-align: right;">5.2</td></tr> <tr><td>41. 青年團 200米リレー決勝</td><td style="text-align: right;">6.35</td></tr> <tr><td>42. 開 會 式</td><td style="text-align: right;">6.35</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: right;">終了豫定 9.5</td></tr> </table>	1. 新人男子 100米背泳豫選 (4)	午前 9.00	2. 新人女子50米自由形豫選 (4)	9.20	3. 青年團 100米自由形準決勝(2)	9.20	4. 新人女子 100米背泳豫選 (2)	9.45	5. 海 軍 400米自由形決勝	9.65	6. 新人男子 200米自由形準決勝(2)	10.05	7. 青年團 200米平泳決勝	10.15	8. 新人男子 100米背泳非決勝 (2)	10.25	9. 海 軍 100米自由形決勝	10.35	10. 新人男子 200米平泳準決勝 (2)	10.40	11. 青年團 100米背泳決勝	10.55	12. 新人男子 400米自由形準決勝(2)	11.00	13. 試 泳(記録作成ノタメ) (3)	11.25	14. 新人女子 100米自由形決勝	11.40	15. 海 軍 100米平泳決勝	11.45	16. 新人女子 100米平泳決勝	11.50	17. 青年團 300米メドレーリレー決勝	12.20	18. 海 軍 800米リレー決勝	午後12.1	19. 新人女子 100米背泳決勝	12.25	20. 海 軍 400米平泳決勝	12.3	21. 東西對抗男子高飛込決勝	12.45	22. 試 泳(記録作成ノタメ)	1.15	23. 日本 泳 法	2.	24. 東西對抗女子飛板飛込決勝	2.4	25. 東西對抗水球決勝	2.55	26. 東西對抗男子飛板飛込決勝	3.4	27. 海 軍 500米潜水決勝	4.2	28. 青年團 100米自由形決勝	4.25	29. 新人男子 200米平泳決勝	4.39	30. 海 軍 800米自由形決勝	4.4	31. 東西對抗女子高飛込決勝	4.45	32. 海 軍 200米平泳決勝	5.1	33. 郷土對抗女子 400米リレー決勝	5.2	34. 郷土對抗男子 800米リレー決勝	5.3	35. 新人男子 100米行泳決勝	5.3	36. 新人女子 100米自由形決勝	5.45	37. 青年團 400米自由形決勝	5.55	38. 新人男子 100米自由形決勝	6. 5	39. 新人男子 400米自由形決勝	6.1	40. 海軍 400米メドレーリレー決勝	5.2	41. 青年團 200米リレー決勝	6.35	42. 開 會 式	6.35	終了豫定 9.5	
1. 開 會 式	午前 9.00																																																																																																																																				
2. 青年團 400米自由形豫選 (4)	9.30																																																																																																																																				
3. 新人男子 100米自由形豫選 (8)	10.05																																																																																																																																				
4. 女子新人 100米平泳豫選組 (2)	10.45																																																																																																																																				
5. 青年團 100米背泳豫選 (4)	10.55																																																																																																																																				
6. 新人男子 200米平泳豫選 (5)	11.15																																																																																																																																				
7. 新人女子 100米自由形豫選 (3)	11.50																																																																																																																																				
8. 青年團 300米メドレーリレー豫選(3)	午後12.05																																																																																																																																				
9. 男子初等飛板飛込決勝	12.35																																																																																																																																				
10. 試 泳(記録作成ノタメ)	1.35																																																																																																																																				
11. 女子初等高飛込決勝	2.20																																																																																																																																				
12. 日本 泳 法	2.30																																																																																																																																				
13. 男子初等高飛込決勝	2.55																																																																																																																																				
14. 水球中學校東西對抗決勝	3.20																																																																																																																																				
15. 女子初等飛板飛込決勝	4.05																																																																																																																																				
16. 郷土對抗男子300米 メドレーリカー豫選 (2)	4.20																																																																																																																																				
17. 青年團 100米自由形豫選 (6)	4.35																																																																																																																																				
18. 新人男子 400米自由形豫選 (6)	4.50																																																																																																																																				
19. 青年團 200米平泳豫選 (4)	5.50																																																																																																																																				
20. 郷土對抗女子300米 メドレーリレー決勝	6.15																																																																																																																																				
21. 青年團 200米リレー豫選 (3)	6.25																																																																																																																																				
22. 郷土對抗男子300米 メドレーリレー決勝	6.45																																																																																																																																				
終了豫定																																																																																																																																					
1. 新人男子 100米背泳豫選 (4)	午前 9.00																																																																																																																																				
2. 新人女子50米自由形豫選 (4)	9.20																																																																																																																																				
3. 青年團 100米自由形準決勝(2)	9.20																																																																																																																																				
4. 新人女子 100米背泳豫選 (2)	9.45																																																																																																																																				
5. 海 軍 400米自由形決勝	9.65																																																																																																																																				
6. 新人男子 200米自由形準決勝(2)	10.05																																																																																																																																				
7. 青年團 200米平泳決勝	10.15																																																																																																																																				
8. 新人男子 100米背泳非決勝 (2)	10.25																																																																																																																																				
9. 海 軍 100米自由形決勝	10.35																																																																																																																																				
10. 新人男子 200米平泳準決勝 (2)	10.40																																																																																																																																				
11. 青年團 100米背泳決勝	10.55																																																																																																																																				
12. 新人男子 400米自由形準決勝(2)	11.00																																																																																																																																				
13. 試 泳(記録作成ノタメ) (3)	11.25																																																																																																																																				
14. 新人女子 100米自由形決勝	11.40																																																																																																																																				
15. 海 軍 100米平泳決勝	11.45																																																																																																																																				
16. 新人女子 100米平泳決勝	11.50																																																																																																																																				
17. 青年團 300米メドレーリレー決勝	12.20																																																																																																																																				
18. 海 軍 800米リレー決勝	午後12.1																																																																																																																																				
19. 新人女子 100米背泳決勝	12.25																																																																																																																																				
20. 海 軍 400米平泳決勝	12.3																																																																																																																																				
21. 東西對抗男子高飛込決勝	12.45																																																																																																																																				
22. 試 泳(記録作成ノタメ)	1.15																																																																																																																																				
23. 日本 泳 法	2.																																																																																																																																				
24. 東西對抗女子飛板飛込決勝	2.4																																																																																																																																				
25. 東西對抗水球決勝	2.55																																																																																																																																				
26. 東西對抗男子飛板飛込決勝	3.4																																																																																																																																				
27. 海 軍 500米潜水決勝	4.2																																																																																																																																				
28. 青年團 100米自由形決勝	4.25																																																																																																																																				
29. 新人男子 200米平泳決勝	4.39																																																																																																																																				
30. 海 軍 800米自由形決勝	4.4																																																																																																																																				
31. 東西對抗女子高飛込決勝	4.45																																																																																																																																				
32. 海 軍 200米平泳決勝	5.1																																																																																																																																				
33. 郷土對抗女子 400米リレー決勝	5.2																																																																																																																																				
34. 郷土對抗男子 800米リレー決勝	5.3																																																																																																																																				
35. 新人男子 100米行泳決勝	5.3																																																																																																																																				
36. 新人女子 100米自由形決勝	5.45																																																																																																																																				
37. 青年團 400米自由形決勝	5.55																																																																																																																																				
38. 新人男子 100米自由形決勝	6. 5																																																																																																																																				
39. 新人男子 400米自由形決勝	6.1																																																																																																																																				
40. 海軍 400米メドレーリレー決勝	5.2																																																																																																																																				
41. 青年團 200米リレー決勝	6.35																																																																																																																																				
42. 開 會 式	6.35																																																																																																																																				
終了豫定 9.5																																																																																																																																					
<h3 style="margin: 0;">大 會 役 員</h3> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">役 員 長</td> <td style="width: 30%;">末 弘 嚴 太 郎</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>競泳審判長</td> <td>田 畑 政 治</td> <td></td> </tr> <tr> <td>審判主任</td> <td>松 澤 一 鶴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出發合圖員</td> <td>小 林 榮 三</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>西 本 龍 三</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>高 石 勝 男</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>松 楠 武 雄</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計時主任</td> <td>飯 田 光 太 郎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>記録主任</td> <td>山 崎 三 郎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>召集主任</td> <td>岩 田 二 郎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水球役員主任</td> <td>吉 本 祐 一</td> <td></td> </tr> <tr> <td>飛込役員主任</td> <td>島 崎 保 正</td> <td></td> </tr> </table>		役 員 長	末 弘 嚴 太 郎		競泳審判長	田 畑 政 治		審判主任	松 澤 一 鶴		出發合圖員	小 林 榮 三			西 本 龍 三			高 石 勝 男			松 楠 武 雄		計時主任	飯 田 光 太 郎		記録主任	山 崎 三 郎		召集主任	岩 田 二 郎		水球役員主任	吉 本 祐 一		飛込役員主任	島 崎 保 正																																																																																																	
役 員 長	末 弘 嚴 太 郎																																																																																																																																				
競泳審判長	田 畑 政 治																																																																																																																																				
審判主任	松 澤 一 鶴																																																																																																																																				
出發合圖員	小 林 榮 三																																																																																																																																				
	西 本 龍 三																																																																																																																																				
	高 石 勝 男																																																																																																																																				
	松 楠 武 雄																																																																																																																																				
計時主任	飯 田 光 太 郎																																																																																																																																				
記録主任	山 崎 三 郎																																																																																																																																				
召集主任	岩 田 二 郎																																																																																																																																				
水球役員主任	吉 本 祐 一																																																																																																																																				
飛込役員主任	島 崎 保 正																																																																																																																																				

1. 鹽見梅子 (梶山) 1:15.8
2. 横井キヌ (京都) 1:16.8
3. 渡部コマツ (淑徳) 1:17.4

女子100米背泳 横田を除いた我が女子背泳界の第一線の人達であるが依然30秒を切るものは一人もなかつた。

1. 小木曾治子 (淑徳) 1:30.4
2. 吉田文子 (愛知一女) 1:32.2
3. 初田久子 (京都) 1:32.4

女子100米平泳 眞下の元氣と浅井の不元氣が目についただけであつた。

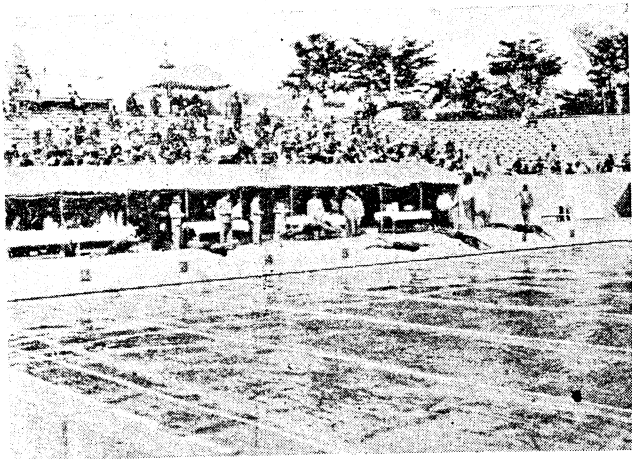
1. 眞下京子 (京都) 1:32.6
2. 杉倉愛子 (岡山) 1:36.8
3. 浅井品子 (愛知一女) 1:39.4

青年團對抗競技

神宮競技の骨子である本競技は對抗競技であるだけに、棄権者も極めて少く、至る所で面白いレースが繰返へされたが、記録の上からは目新しいものがなかつたのは残念である。

100米自由形 古参樋口が依然ピカールであるが他のレベルが前回に比し大に昇つたことを見逃してはならない。青年團新記録が出なかつたのは遺憾。

1. 樋口榮一(京都) 1:02.8
2. 笹尾虎男(広島) 1:04.4
3. 正木敬造(福岡) 1:04.4
4. 坂倉晴(静岡)
5. 須永安治(東京)
6. 向井久男(兵庫)



(青年團100米自由形のスタート)

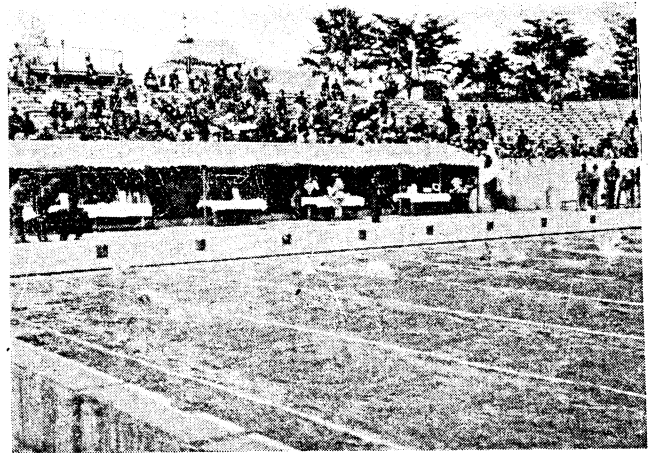
400米自由形 短距離の樋口は此所でも活躍した。豫選で30秒を切つたものは此の他に松原(岐阜)一人だつたが決勝では奮はず四等にもなり得なかつた。

1. 樋口榮一 (京都) 2:20.6 (青年新)
2. 春日良人 (熊本) 5:30.0
3. 石田勘藏 (神奈川) 5:32.6
4. 遠藤宏治 (宮城)
5. 伊藤茂治 (和歌山)
6. 木島正枝 (千葉)

100米背泳 青年團競技で最も花々しかつたのが此の競

技で豫選の各組で全部舊記録を破るの盛況であつた。嘗ては中等學校の花形角田が青年として出てくるのも面白いし、關西學院の雄吉瀬が現れて来るのも何となく親しいものである。

1. 角田賢三 (新潟) 1:17.4
2. 井上清 (高知) 1:19.6
3. 吉瀬智雄 (広島) 1:19.8
4. 森重雄 (和歌山)
5. 大瀧光夫 (静岡)
6. 佐藤泰夫 (東京)



(100米背泳のゴール前)

200米平泳 オリンピック選手申川にとつて切つても切れぬは此の競技である。前回に於て2:57.0はといふ記録で優勝し榮あるオリンピック選手となつたのである。が本年は元氣はく、日本選手権でも反則でオミットされる等氣の毒であつた。本大會に於ても、優勝することはしたが3:02.0といふ甚だ香しくないものであつた。

1. 中川重雄 (愛知) 3:02.0
2. 北村肇造 (静岡) 3:05.4
3. 眞間竹次郎 (静岡) 3:06.8
4. 加藤直次 (和歌山)
5. 高橋正一 (山形)
6. 寺石好夫 (京都)

200米リレー 第二日最後のレース。前回もそうであつたが、慌たしい中にも最後の淋しさを含む競技である。決勝に残つたものは1:57.0内外の實力を有するもののみ、広島が豫選で1:55.4を出して稍抜きんで居た。結局は広島が2米ばかりの差で優勝したがタイムは何れも前回より悪かつた。

1. 広島 (吉田、吉瀬、大林、笹尾) 1:54.4
2. 大阪 (佐藤、赤松、岡村、駒井) 1:56.0
3. 兵庫 (饒村、平野、前田、向井) 1:57.0
4. 東京 (岡松、小田、佐藤、須永)
5. 福岡 (正木順、角野、森本、正木敬)
6. 静岡 (坂倉、小早川、竹内、鳥居)

300 米メドレーリレー 今回新に加へられたものである

- | | | |
|----------|-------------|--------|
| 1. 兵 庫 | (中村、魚井、向井) | 3:50.6 |
| 2. 静 岡 | (大瀧、北村、坂倉) | 3:50.6 |
| 3. 和 歌 山 | (森、加藤、土浦) | 3:54.0 |
| 4. 京 都 | (穂田、寺石、樋口) | |
| 5. 廣 島 | (吉瀬、長谷川、笹尾) | |
| 6. 福 岡 | (佐藤、重松、森本) | |

得 点

静 岡	20点	京 都	18点	廣 島	14点	和歌山	12点
兵 庫	12点	福 岡	4点	新潟縣	7点	東 京	6点
熊 本	5点	高 知	5点	大 阪	5点	神奈川	4点
徳 島	4点	宮 城	4点	山 形	2点	千 葉	1点



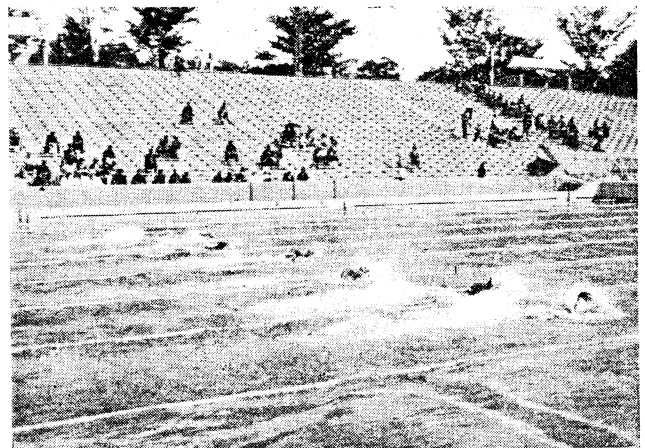
青年團得点表(上)
優勝せる静岡県チーム(下)

海 軍 競 技

今回は内容がずつと多くなり、400 米自由形、100 米平泳、400 米平泳、400 米メドレーリレーが加はり、従来の400 米リレーは800 米リレーに振替へられた。記録を見て先づ眼につくことは、何れも前回に比して著しく悪かつたことである。これは出場選手が今夏の海軍大演習終了後、国防第一線に立つて練習の時間が少なかつた爲である。海軍の人々が疲労全く癒えぬ中にあつても、尙進んで本大會に参加せられたことに對して唯々感激するのみである。

以下全部決勝記録である。(豫選なし)

- | | | |
|----------|---------------------|---------|
| 100 米自由形 | 1. 山 村 武 彦(佐世保) | 1:05.0 |
| | 2. 高 梨 隆(横須賀) | 1:06.0 |
| | 3. 古 田 清 人(吳) | 1:08.0 |
| 400 米自由形 | 1. 松 下 昌 住(佐世保) | 5:18.0 |
| | 2. 簀 戸 正(佐世保) | 5:27.0 |
| | 3. 森 谷 一 雄(横須賀) | 5:32.0 |
| 800 米自由形 | 1. 知 念 繁 夫(佐世保) | 11:10.6 |
| | 2. 簀 戸 正(佐世保) | 11:13.0 |
| | 3. 沖 本 正 治(吳) | 11:28.4 |
| 100 米平泳 | 1. 山 崎 恒 三 郎(佐世保) | 1:20.6 |
| | 2. 野 呂 高 藏(吳) | 1:23.8 |
| | 3. 二 瓶 章(横須賀) | 1:25.8 |
| 200 米平泳 | 1. 野 呂 高 藏(吳) | 3:07.6 |
| | 2. 佐 々 木 守 雄(横須賀) | 3:10.4 |
| | 3. 岩 本 義 雄(吳) | 3:11.2 |
| 400 米平泳 | 1. 片 岡 又 右 衛 門(佐世保) | 6:35.4 |
| | 2. 中 濱 安 一(吳) | 6:37.8 |
| | 3. 岩 本 義 雄(吳) | 6:39.0 |



(海軍100米自由形決勝)

50米潜泳 海軍獨特のもので、ピストルの合圖と共にスタートし、途中身體の何れの部分も水面に出してはならぬ。且つ手が決勝而にふれたときを以て競技の終了とする。着順はタイムに依り決定することになつて居る。

- | | |
|---------------|--------|
| 1. 柳瀬 勝得(横須賀) | 0:35.0 |
| 2. 糸満 福男(佐世保) | 0:36.6 |
| 3. 澤井 繁一(吳) | 0:36.8 |

柳瀬は前回の此の競技にも優勝した。(柳瀬勝得君)



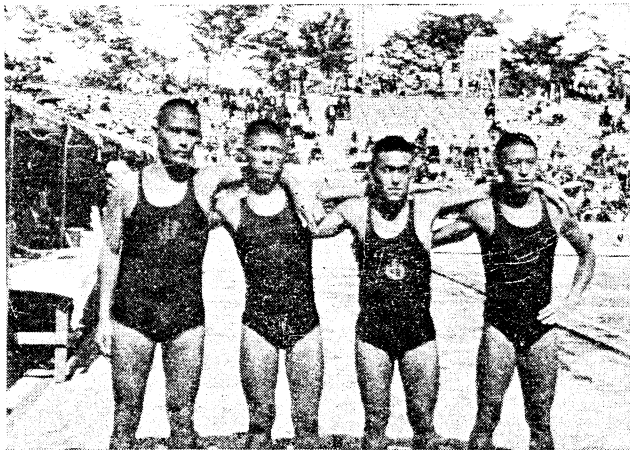
400 米メドレーリレー 此も海軍獨特のもので、四人の中二人は平泳他の二人は自由形を泳ぎその順序は任意といふことになつて居るが全部、第一、第四が自由形第二、第

三が平泳であつた。

- | | | | |
|----|-----|-----------------|--------|
| 1. | 佐世保 | (山村、片岡、山崎、知念) | 4:56.6 |
| 2. | 吳 | (岩木秀、野呂、岩本義、古田) | 5:06.2 |
| 3. | 横須賀 | (高梨、二瓶、佐々木、森谷) | 5:08.0 |

800 米リレー

- | | | | |
|----|-----|-----------------|---------|
| 1. | 佐世保 | (知倉、蟹戸、山村、松下) | 9:59.0 |
| 2. | 吳 | (古田、岩本秀、岩本政、中西) | 10:07.6 |
| 3. | 横須賀 | (代田、石川、高梨、森谷) | 10:16.0 |



(海軍800米リレーに優勝せる佐世保チーム)

郷土對抗競技

此は各府縣を單位としてその地方出身の人々に依るリレーチームを作る所謂お國自慢の競技であつた。戦前には、静岡が牧野、片山、新聞、宮崎、廣島が大横田、河石、長谷川、高知が北村、横山(隆)、横山(清)、杉本、片岡等と勝手なメンバーを作つて期待したものだつたが、いざとなると棄權が續出して案外つまらぬものになつた。併し我々は優勝せる静岡が何事にも依らず熱心に出場してくれることを心から喜んで居る。

男子 800 米リレー

- | | | | |
|----|-----|---------------|---------|
| 1. | 静岡 | (中村、新井、高木、牧野) | 9:55.0 |
| 2. | 神奈川 | (濱川、守野、西田、須崎) | 10:25.4 |
| 3. | 朝鮮 | (鄭、宮本、唯池、林原) | 10:57.8 |



(郷土對抗 800リレーに優勝せる静岡チーム)

男子 300 米メドレーリレー

- | | | | |
|----|-----|------------|--------|
| 1. | 静岡 | (鈴木、小池、牧野) | 3:39.6 |
| 2. | 愛知 | (清川、中川、小林) | 3:39.6 |
| 3. | 神奈川 | (坪、川島、須崎) | 3:56.6 |

一着争ひが面白かつた。静岡、愛知共日本の見えて第一流の選手を擁してゐる。愛知スタートで先づ清川が斷然出て静岡を抑へ。二番中川は小池の猛襲にあつたが10米近くの差で最後に渡す、静岡のラスト牧野は得意のスプリントを利かせて250米で早くも5米近くに迫り、最後にタツチの差で優勝した。全競技中一番面白いレースだつたらう。牧野のラツプタイムは非公式ではあるが60秒6であつた。

女子 400 米リレー 出場メンバーから見て愛知の優勝は確定的だつた。三等とは云へ富山の出場は嬉しい。

- | | | | |
|----|-----|----------------|--------|
| 1. | 愛知 | (鹽見、小木曾、水野、渡部) | 5:17.0 |
| 2. | 神奈川 | (増山、須藤光、吉田、河村) | 5:43.8 |
| 3. | 富山 | (五十嵐、中田、明石、小崎) | 5:56.0 |

390 米メドレーリレー 愛知のメンバーは女子水泳界の第一線を網羅してゐるので新記録を期待したが惜しい所で破れなかつた。

- | | | | |
|----|-----|------------|--------|
| 1. | 愛知 | (吉田、前畑、小島) | 4:17.6 |
| 2. | 岡山 | (石井、杉倉、多賀) | |
| 3. | 神奈川 | (俣野、柳下、河村) | |

記録を作る爲の試泳

此を行つたことに二つの大きな理由がある、その一つ國際水上聯盟は500米以下の競泳に於ては短水路記録長水路記録を區別せず同一視して公認してゐるに反し、我が國には長水路記録を以て公式記録としてゐる。従つて、我が國の記録は實質的には世界記録を凌駕せるものがあるにも拘らず短水路記録に覆はれてゐるものが多い。依つて我が水泳選手が短水路で泳げば世界記録を出す力は十二分にあるのだといふことを實證する爲に本競技を行つたのである。第二の理由は、此の次のオリンピックである。次回は柏林で開かれる關係上當然低溫のプールを覺悟せねばならぬ。此の意味に於ての神宮プールはそのコンディションが柏林に似たものであり、此の時期に十分の試練をすべき必要を感じた。今回の試泳は次の大會に於ても再び覇權を握らんとする我々の第一回の試験と見做すことが出来やう。此所に聯盟は競技者諸氏と協議の上二日間に亘り若干の種目を擇んで、試泳を行つたのである。果せる哉、新記録の續出には今更乍ら驚かされた。擇んだ種目の日本記録は殆ど書きかへられ、女子平泳は前畑の奮闘で全部が世界新記録400米背泳は清川、入江、河津のトリオが世界新記録を出して再び榮財を取返し、牧野は400で公式記録を破つた。此の他期待された小池が0.2秒の差で世界新記録が出せなかつたことは、遊佐の病氣と共に返すがへすも残念である。

50米自由形 これは來年の極東大會の豫選として、タイムレースで行つた。A組で竹村は九月インターカレッジで作つた26秒2を更に26秒0に縮めて日本新記録を梅田、高

橋は26秒4の對記録を出し此の三人が極東選手と決定した。



(竹村公良君)

- A 1. 竹村公良(早大) 26.0 (日本新)
 2. 梅田利兵衛(高師) 26.4 (日本對)
 B 1. 岡部泰華(福島中) 27.8
 2. 森博(三水會) 28.4
 3. 東澤祚久(三水會) 28.4

- C 1. 高橋成夫(早大) 26.4 (日本對)
 2. 伊藤基保(三水會) 29.2

男200米自由形 横山隆志(早大) 2:13.6(短水路日本新)
 牧野正藏(早大) 2:13.8(短水路日本新)
 片岡寅次郎(早大) 2:16.8

男400米自由形 牧野正藏(早大) 4:46.8 (世界新)
 石原田愿(明大) 4:47.6(短水路日本新)
 横山隆志(早大) 4:58.0

牧野の300米正式計時 3:20.0 (短水路日本新)

男500米自由形 石原田愿(明大) 6:07.2(短水路日本新)
 ラップタイム

100 1:06.0 200 1:18.8 300 3:32.0 (短水路日本新)

男100米平泳 岡田達男(日大) 1:17.8

男200米平泳 小池禮三(慶大) 2:42.8(短水路日本新)
 葉堂鐵夫(修猷館中) 2:53.0

小池 ラップタイム 100米 1:16.6

男400米平泳 小池禮三(慶大) 5:56.8(短水路日本新)
 葉堂鐵夫(修猷館中) 6:06.2(短水路日本新)



(400米背泳に揃って世界記録を破る)

山田弘(早大) 6:15.6(短水路日本新)

小池1ラップタイム 1:19.0 2:47.4 4:20.8

男200米平泳 清川正二(東商大) 2:35.8

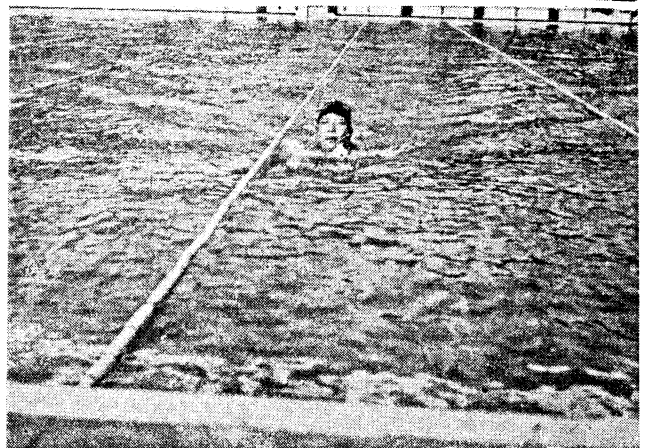
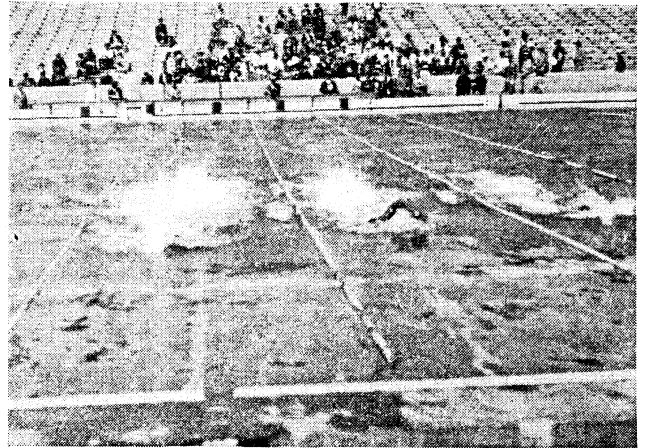
河津憲太郎(明大) 2:36.0

明文一(小松商) 2:43.4

400米背泳 清川正二(東商大) 5:31.4

入江稔夫(早大) 5:34.1 (世界新)

河津憲太郎(明大) 5:37.6



(男子200米自由形(上)と前畑の200米平泳)

明文一(小松商) 5:47.6

秋吉龍二(日大三中) 6:06.2

清川のラップタイム 1:14.8 4:04.6

女100米自由形 小島一枝(椋山) 1:13.4(短水路日本新)

女400米自由形 小島一枝(椋山) 5:53.8(短水路日本新)

300米の正式計算 4:19.6 (短水路日本新)

ラップタイム 1:18.0 2:46.6

400米の記録は七本松プールで小島の出した 5:49.6 (未公認)に及ばない。

女子800米自由形 此は50米コースを使用した。

守岡初子(茨木) 12:39.0 (日本新)

500米正式計時 7:46.0 (短水路日本新)

女子200米平泳 前畑秀子(椋山) 3:00.4 (世界新)

ラップタイム 1:26.4

女子500米平泳 前畑秀子(椋山) 8:03.8 (世界新)

400米の正式計時 6:24.8 (世界新)

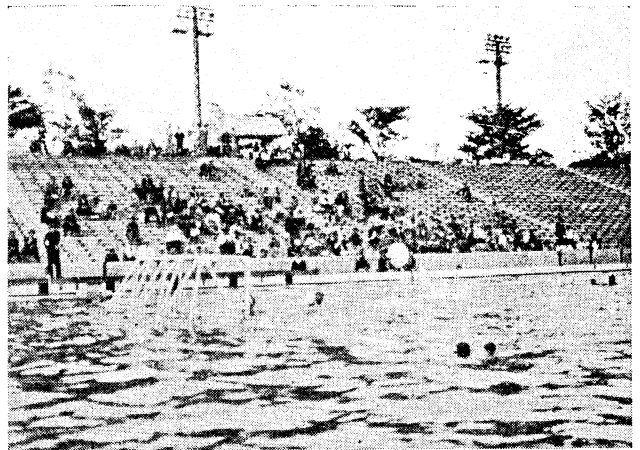
ラップタイム 1:30.6 3:09.2 4:47.0

神宮競技の水球を顧みて

本大會水球役員 吉 本 祐 一

第七回明治神宮水上競技の水球は在來の神宮競技で行はれた水球試合とは著しく其趣を異にしてゐる。従來の神宮水球は日本選手權大會とむすび、又それと別個に行はれる場合とても選手權大會のそれに似た方法によつて行はれ同様のゲームを日をかへて行ふに過ぎず、従つてそこに現はれる結果には何等の新鮮さも見出されぬ至極平凡なものであつた。そこで本年の神宮競技には全日本的國民運動の現はれであるこの神宮競技本來の使命と一見行きづまれる如き感ある我國水球界打開の二様の意味を持たせて神宮水球に諸種の準備を進めたのである。日本の水球界は東西兩地方を比較した時何人も東部に於て優れりとなすに異論は無いであらう。一國の水球を盛大にそして強大に爲すには全國各地方に於てその競技が樂まれ普及せられねばならないと云ふ事が必要であり且各地が充分の強さを以て對戦する處に平均せる進歩と相互の練磨が生れて來るのである。この目的に對して我國の各種運動競技は在來東西對抗の形式を以て一は大阪を中心とする西部チームを造り一方東都を中心とする東部チームを造り龍虎の對戦を目的として發展の道程を進めて來た様である。ここに於て水球も一般の通念に従つて東西二地方に分け東西各其の最強のチームを編成毎年對戦せしめその目的を把握するに努める事としたのである。其の具體的方法として兎角お祭り扱されるこの神宮競技を眞劔なものとして大なる目的達成の一手段としてそこに又重大なる意義を見出しそして隔年のゲームはこの神宮競技に於て行ふことを企圖し其の第一歩を本年踏み出したのである。そして又この東西對抗のゲームを以て我國に於ける最高の名譽ある試合と爲さしめ様と意圖したのである。斯くして東西の最強チームを求めて我國の水球の水準を上げ又その強さを持續する爲には單に大學専門學校を對照としての水球でなく現在の水球の領域を中等學校のフェールドまで擴張しなければならぬとしたのである。この爲に東西選抜試合の他にこの榮ある神宮競技の水球に東西中等學校の對抗試合が加へられたのである。この二つの試合の目的とする處が完全に遂行される様になつたならばその時こそは我國水球チ

ームがオリンピックに日章旗を擧げる時であらふ。是等の目的を持つた二つの試合が先づ本年の神宮競技に行はれる事となつたのであるが何分にも第一年の事として充分の準備の整はざる爲一般東西對抗として行はれる現在勢力を以てする東西兩チームの對戦は期日眞際に於て不止得理由の爲西部チームの上京不能となり形をかへて東都在住者に有力なる西部在住者を交へた東西出身地別による郷土對抗と變じて行はれる事となつた。東西中等學校の對校は豫定の通り東部代表、神奈川商工實習、西部代表茨木中



中學對抗水球(茨木中學對神奈川商工實習)

學に依つて堂々其の對戦が行はれたのである。吾々の目的に對して多少の差違は第一年目として諦めねばなるまい。

競技の第一日は中等學校東西對抗、東部代表は神奈川商工實習、九月十四日より二十日に亘つて行はれた東部豫選會の申込校は、早稻田實業、早稻田中學、成城尋常校、慶應普通部、慶應商工部、附屬中學、府立四中、横濱商工實習、横濱二中の9校、早慶兩大學プールに於てトーナメント式にて豫選が行はれ結局、横濱二中と早稻田實業を破つた慶應普通に勝つた商工實習と成城、附屬中を破つた慶應商工と府立四中に勝つた早稻田中學とが決勝戦に於て對戦し商工實習の勝利となつた。

西部中等學校豫選は九月十七日大阪市立運動場水泳場に於て行はれた大阪府男子中等學校の水球競技大

會に於て今宮中學を 11對0富田林中學を 9對0岸和田中學を 2對0にて破つた大阪府代表茨木中學と兵庫縣代表瀧川中學の間に九月二十四日に行はれる筈であつたが瀧川中學棄權の爲茨木中學西部代表となつて東上した。大阪代表選抜戰の結果次の如し。

第一回戰

茨木中學	5—0	今宮中學
富田林中學	5—3	桃山中學
岸和田中學	0—0	天王寺中學
市岡中學	2—1	都島工業學校

準決勝

茨木中學	6—0	富田林中學
岸和田中學	3—0	市岡中學

決勝

茨木中學	6—0	岸和田中學
------	-----	-------

神宮水泳場に於ける兩軍は好く戰つた。杉本傳氏の獨特のトレーニングを遵奉する疲れを知らざる如き茨木中、外川正君、岡田辰雄君直傳の敏捷なる商工實習、最後の笛聲までよく奮闘したが商工實習が有する唯一の強者坂君の活動をガツチリとマークされて大兵の茨木中に呑まれた態にて6-1がのスコアにて茨木中學に勝を讓つた。茨木中學のチーム策戦に於ては流石杉本名コーチャーをしのばせるに充分。體力が充分にして中等學校チームとは思はれぬ様な試合振りをして見る者をして感嘆せしめた。然

商工實習		茨木中學	
坂 信 義	LF	杉 本 博 一	
高 木 信 雄	CF	田 所 嘉 宜	
池 田 豪 夫	RF	島 田 益 男	
川 島 諄 介	HB	平 田 稔	
石 橋 晃 一	LB	籾 内 弘	
荒 井 武 義	RB	庄 田 俊 治	
二 宮 章	GK	西 山 良 之	
	13 FT	8	
	4 GT	0	
	0 PT	0	
0 } 1	GOAL	6	{ 4
1 }			2 }

しながら選手の聯絡を密にする爲か競技時間を通じて味方の競技者は呼ぶ聲高く、爲に廣瀬審判員の判

定を妨げる如き時すらあつた。大成の途上にあるチームとして無理なからんも他の競技者を顧みるの餘り自己の位置を間違ふ如き事あつては一大事、他を呼ぶ前に先ず自己の位置を正しくして球を待つべきであらふ。又プレーする競技者に對して各員同時に聲援する事は一瞬の停止をも許さぬこの競技に自己の位置を忘れしむる行爲であり又聞く者をして徒らに燥音として感ぜしむるに過ぎぬ事であらふ。自重して大成せられむ事を望む。

第二日は東西郷土別による對抗、豫定の通り二時五十五分吉本レフリーにて對戰、兩者のチーム編成並に當日の結果次の如し。

西 部		東 部	
上野 克己(早OB)	LF	澤海 東助(慶大)	
熊野 佐一(早大)	CF	磯部 義助(慶大)	
勝久 重隆(早大)	RF	高木 茂雄(早大)	
坂上安太郎(早大)	HB	時 任 嚴(早OB)	
藤 田 明(早OB)	LB	平岡 良二(慶OB)	
若山 瀧美(早大)	RB	黒川 武夫(慶大)	
松本 隆重(早大)	GK	小紫 義清(慶大)	

8	FT	5
7	GT	2
0	PT	0
1 } 3	GOAL	1 { 1
		0

前記記載の如く初めこのゲームは現勢による東西對抗の豫定が、都合により急遽郷土對抗と變更された爲、又競技の二日前まで對戰した同志が兩チームに配屬された爲か一面潑刺さを缺いてゐた様であつたが、流石に百戰練磨の士、郷土の名譽を擔つて比較的安全な戰を觀衆の前に展開してゐた。西部チームはOB藤田、上野兩君を交へて早大を主力とし、東部チームは時任、平岡兩君を後衛として慶大を中心とした編成、西軍の強砲坂上君はOB藤田君に擁せられてブルーバイに活躍して東軍の小柴ゴールキーパーを強襲して得點を續けた。東軍の闘將澤海君等屢々ゴールを狙つたが何れも松本君の好守に阻まれて成らず第一回戰を失つた。いつも乍ら藤田、上野、平岡、時任君の現役に劣らぬ元氣に敬意を表し、益元氣に後進諸君を指導せられん事を望む。將來の東西對抗は如何なる形式で行はれるにせよ東西兩チームに對して充分の練習の日が與へられ兩チームは水球の最高標準を示すに努力すべきであらふ。尙又今回の神宮競技を期として中等學校にこの競技が行はれる様になつたことは大收獲である。



第十二回

全國學生水上競技 選手權大會

我が國水上競技の最大要素の一つである本大會は事實上本シーズンのエピローグとして九月十五日から三日間神宮プールで花々しく開催された。幸ひ好晴に恵れ、新人の活躍、舊人の返り咲き等、従來に見ない盛況を見せ、幾多の快記録を生んで、日本選手權大會と共に我が國水上競技の眞價を發揮するに十二分の成績を挙げたのである。今試みに、出場選手の顔觸れを見渡すと、二三年前の中等學校大會をそつくり移した感がある。牧野、横山、武村、石原田、遊佐、杉本、等は皆往年中等學校の花形であつた。換言すれば、嘗て日本水上競技の重要分子であつた中等學校選手が、巢立し一人前となり、元の巢には先輩に劣らぬ少年水豪が活躍を續け、此所に日本水上競技界は第二段の構へを全く完成したものと云へやう。

参加校は一部九校で新顔は東京高師と名古屋高商、二部は二十一校で昨年より二校の増加である。大會の成績は別項の通りであるが、先づ第一に目につくことは、二部が著しく劣つて居ることである。中には過日行はれた小學校大會の記録にも劣る様なものがある。二部諸君の奮勵を希望し、少くとも決勝レースに出たものが、一部の豫選で戦へる様にしたいも

のである。第二には立教の中村、根上、早大の松本、等ベテランの活躍である。嘗ては野田、米山等が此れと同じであつたが、慶賀すべきことと云はねばなるまい。

大會は結局早大が87點を獲得して四年連勝し、明治は日大と競ひ61點で二位、日大は一點の差で60點、以下慶大13點、立大13點、高師5點、法政1點、横濱高工1點、名古屋高商0で最後の三者は、明年より二部に下り、二部の優勝校商大は47點を得、42點の商船學校と共に一部に昇進することになった。清川故に一部に昇つた名古屋高商が清川を失つて又二部に轉落し清川を得た商大が一部に昇進したのも又奇しき運命である。

気温 水温

第一日(十五日)	25°0	23°5
第二日(十六日)	27°5	24°5
第三日(十七日)	27°0	25°0

第一部

50 米 自由形

豫選 (十五日、午後 4.45)

A	1. 豊田 久吉(日 大)	0:26.8
	2. 梅田利兵衛(高 師)	0:27.2
	3. 河石 達吾(慶 大)	0:27.4
B	1. 藤野 長節(明 大)	0:27.8
	2. 服部 卓造(横高工)	0:28.0
	3. 關口正三郎(立 大)	0:28.6
C	1. 高橋 成夫(早 大)	0:26.4
	(日本對)	
	2. 片山 兼吉(明 大)	0:27.0
	3. 遠藤 信男(立 大)	0:29.0

D	1. 高木 茂雄(早 大)	0:28.0
	2. 山川金之助(慶 大)	0:28.2
	3. 浦邊 秀夫(高 師)	0:28.6

準決勝 (十六日、午後 3.40)

A	1. 片山 兼吉(明 大)	0:27.0
	2. 豊田 久吉(日 大)	0:27.0
	3. 河石 達吾(慶 大)	0:27.2

B	1. 高橋 成夫(早 大)	0:26.4
---	---------------	--------

(日本對)

	2. 梅田利兵衛(高 師)	0:26.6
--	---------------	--------

	3. 服部 卓造(横高工)	0:28.0
--	---------------	--------

決勝 (十七日、午後 3.45)

1.	高橋 成夫(早 大)	0:26.4
----	------------	--------

(日本對)

2.	豊田 久吉(日 大)	0:26.8
----	------------	--------

3.	梅田 利兵衛(高 師)	0:26.8
----	-------------	--------

4.	片山 兼吉(明 大)
----	------------

5.	河石 達吾(慶 大)
----	------------

6.	服部 卓造(横高工)
----	------------

100 米 自由形

豫選 (十五日、午後 1.20)

A	1. 坂上安太郎(早 大)	1:00.8
---	---------------	--------

	2. 片山 兼吉(明 大)	1:01.0
--	---------------	--------

	3. 梅田利兵衛(高 師)	1:02.0
--	---------------	--------

	4. 高木 茂雄(早 大)
--	---------------

B	1. 遊佐 正憲(日 大)	0:58.8
---	---------------	--------

(大會新)

	2. 高橋 成夫(早 大)	1:00.6
--	---------------	--------

	3. 關口正三郎(立 大)	1:05.6
--	---------------	--------

	4. 服部 卓造(横高工)
--	---------------

C	1. 志村 義久(早 大)	1:00.4
---	---------------	--------

	2. 河石 達吾(慶 大)	1:03.0
--	---------------	--------

	3. 山川金之助(慶 大)	1:06.0
--	---------------	--------

	4. 下平 登(明 大)
--	--------------

準決勝 (十六日、午後 2.45)

A	1. 遊佐 正憲(日 大)	0:58.0
---	---------------	--------

(日本對)

	2. 坂上安太郎(早 大)	0:59.6
--	---------------	--------

	3. 志村 義久(早 大)	1:00.4
--	---------------	--------

B	1. 高橋 成夫(早 大)	1:00.0
---	---------------	--------

インターカレッジイト



(上) 四年連捷の早大チーム

ゴールイン

(下) 100米自由形に580の日本新記録四回も出した遊佐君のゴールイン

2. 河石 達吾(慶大) 1:00.8
3. 片山 兼吉(明大) 1:01.0

決勝 (十七日 午後 2.15)

1. 遊佐 正憲(日大) 0:58.0
(日本新)
2. 坂上安太郎(早大) 0:59.8
3. 高橋 成夫(早大) 1:00.0
4. 志村 義久(早大)
5. 河石 達吾(慶大)
6. 片山 兼吉(明大)

200 米自由形

豫選 (十五日、午後 5.30)

- A 1. 志村 義久(早大) 2:18.4
2. 小森 正己(慶大) 2:29.4
3. 篠 忠夫(明大) 2:34.0
4. 濱田 道男(日大)
B 1. 遊佐 正憲(日大) 2:14.2
(日本新)
2. 大横田 勉(明大) 2:16.4
3. 坂上安太郎(早大)
4. 武村 清(明大)

決勝 (十七日、午後 4.05)

1. 遊佐 正憲(日大) 2:13.2
(日本新)
2. 大横田 勉(明大) 2:16.0
3. 志村 美久(早大) 2:17.2
4. 坂上安太郎(早大)
5. 小森 正己(慶大)
6. 武村 清(明大)

400 米自由形

豫選 (十六日、午後 2.05)

- A 1. 大横田 勉(明大) 4:57.8
2. 杉本 盛(日大) 5:00.4
3. 田中 一男(早大) 5:01.4
4. 根上 博(立大)
B 1. 石原田 愿(明大) 4:54.6
(大會新)

2. 横山 隆志(早大) 5:56.8
(大會新)
3. 市村 定幸(法政) 5:17.8
4. 田野 耕精(立大)

決勝 (十七日、午後 1.45)

1. 石原田 愿(明大) 4:51.6
(大會新)
2. 横山 隆志(早大) 4:55.6

(大會新)

3. 大横田 勉(明大) 4:57.2

(大會新)

4. 杉本 盛(日大)

5. 根上 博(立大)

6. 田中 一男(早大)

ラップタイム 1:08.4 (根上)

2:25.0 (根上) 3:40.6 (石原田)

800 米自由形

豫選 (十五日、午後 3.30)

- A 1. 石原田 愿(明大) 10:25.6
(大會新)

2. 横山 隆志(早大) 10:35.0

(大會新)

3. 杉本 盛(日大) 10:45.8

4. 田中 一男(早大)

- B 1. 根上 博(立大) 10:38.6

(大會新)

2. 豊田 久吉(日大) 10:45.8

3. 武村 寅雄(明大) 10:52.4

4. 鈴木 重孝(明大)

決勝 (十七日、午後 4.35)

1. 石原田 愿(明大) 10:18.2

(大會新)

2. 横山 隆志(早大) 10:29.0

(大會新)

3. 根上 博(立大) 10:30.2

(大會新)

4. 杉本 盛(日大)

5. 田中 一男(早大)

6. 豊田 久吉(日大)

ラップタイム 1:10.8 (根上)

2:30.4 (根上) 3:50.2 (石原田)

5:10.4 (石原田) 6:28.2 (石原田)

7:44.6 (石原田) 9:— (石原田)

50 米背泳

豫選 (十五日、午後 2.55)

- A 1. 河津憲太郎(明大) 0:32.6

2. 入江 稔夫(早大) 0:32.8

3. 古川 正(立大) 0:35.6

4. 安岡 正博(日大)

- B 1. 秋吉十九男(日大) 0:32.6

2. 清政 武夫(早大) 0:35.0

3. 松下 信一(立大) 0:35.0

4. 鹽田 芳久(高師)

- C 1. 勝久 重隆(早大) 0:33.0

2. 井上賛二郎(慶大) 0:33.6

3. 若山 瀧美(早大) 0:32.8

4. 松下 敏博(明大)

準決勝 (十六日、午後 3.05)

- A 1. 河津憲太郎(明大) 0:31.8

2. 勝久 重隆(早大) 0:32.8

3. 若山 瀧美(早大) 3:34.4

- B 1. 秋吉十九男(日大) 0:33.0

2. 入江 稔夫(早大) 0:33.2

3. 井上賛二郎(慶大) 0:34.0

決勝 (十七日、午後 1.25)

1. 河津憲太郎(明大) 0:32.0

2. 勝久 重隆(早大) 0:33.2

3. 秋吉十九男(日大) 0:33.2

4. 若山 瀧美(早大)

5. 入江 稔夫(早大)

6. 井上賛二郎(慶大)

100 米背泳

豫選 (十六日、午後 1.30)

- A 1. 河津憲太郎(明大) 1:11.4

2. 入江 稔夫(早大) 1:12.6

3. 根来 幸成(慶大)

- B 1. 秋吉十九男(日大) 1:13.2

2. 勝久 重隆(早大) 1:14.8

3. 若山 瀧美(早大) 1:15.2

決勝 (十七日 午後 3.15) 1:16.2

1. 河津憲太郎(明大) 1:11.2

2. 入江 稔夫(早大) 1:13.0

3. 秋吉十九男(日大) 1:13.2

4. 勝久 重隆(早大)

5. 若山 瀧美(早大)

6. 根来 幸成(慶大)

100 米平泳

豫選 (十五日、午後 2.05)

- A 1. 安永 弘(日大) 1:20.6

2. 調子 光二(早大) 1:22.8

3. 安藤 眉男(立大) 1:23.2

4. 田邊 孝三(明大)

- B 1. 松本 隆重(早大) 1:22.6

2. 寺田 忠雄(明大) 1:22.6

3. 中島 利直(明大) 1:25.0

4. 角田 基(日大)

- C 1. 岡田 達男(日大) 1:18.6

(大會新)

2. 奥藤 修(明大) 1:19.6
3. 前田 倍三(早大) 1:20.2
4. 中村 秀吉(立大)

準決勝 (十六日、午後 4:30)

- A
1. 岡田 達男(日大) 1:19.4
 2. 前田 倍三(早大) 1:21.4
 3. 中村 秀吉(立大) 1:21.8

- B
1. 奥藤 修(明大) 1:18.0
(大會新)

2. 安永 弘(日大) 1:20.6
3. 松本 隆重(早大) 1:20.8

決勝 (十七日、午後 1:05)

1. 岡田 達男(日大) 1:19.0
(大會新)

2. 奥藤 修(明大) 1:19.6
3. 松本 隆重(早大) 1:19.6
4. 中村 秀吉(立大)
5. 安永 弘(日大)
6. 前田 倍三(早大)

200 米 平 泳

豫選 (十六日、午後 0:50)

- A
1. 岡田 達男(日大) 2:57.4
(大會新)

2. 前田 倍三(早大) 2:58.6
3. 古莊 次平(早大) 3:00.6

- B
1. 奥藤 修(明大) 2:54.2
(大會新)

2. 松本 隆重(早大) 3:00.4
3. 安永 弘(日大) 3:00.6

決勝 (十七日、午後 2:45)

1. 岡田 達男(日大) 2:55.4
(大會新)

2. 奥藤 修(明大) 2:55.6
(大會新)

3. 前田 倍三(早大) 2:59.2
4. 古莊 次平(早大)
5. 松本 隆重(早大)
6. 安永 弘(日大)

200米リレー決勝 (十七日、午後 5:10)

1. 早稲田大學 1:44 (日本新)
(坂上、志村、横山、高橋)
2. 日本大學 1:49.0
(遊佐、秋吉、杉本、豊田)
3. 明治大學 1:49.6
(大横田、河津、石原田、片山)

4. 慶應大學
(山川、小森、山本、河石)

5. 立教大學
(關口、由本、遠藤、根上)

6. 高等師範
(浦邊、福島、鹽田、梅田)

800米リレー決勝 (十七日、午後 0:30)

1. 早稲田大學 9:12.0
(坂上、志村、田中、横山)

2. 日本大學 9:21.2
(豊田、秋吉、杉本、遊佐)

3. 明治大學 9:34.4
(大横田、武村寅、武村清、石原田)

4. 慶應大學
(小森、根來、山川、河石)

5. 立教大學
(田野、關口、藤岡、根上)

6. 法政大學
(山村、村松、丹下、市村)

第 二 部

決勝記録のみ掲ぐ

50 米 自 由 形

1. 多田 精一(商大) 0:28.4
2. 栖原 正(早大) 0:28.4
3. 後藤 眞吉(一高) 0:28.6
4. 岡 日三郎(大倉高商)
5. 妹尾満喜夫(水産)
6. 山田 英男(帝大)

100 米 自 由 形

1. 井上 茂(國學) 1:01.6
2. 細谷 定一(中央大) 1:05.0
3. 川名 武(商船) 1:05.4
4. 藤原 豊(帝大)
5. 後藤 眞吉(一高)
6. 多田 精一(商大)

井上の豫選記録は 1:01.2

200 米 自 由 形

1. 井上 茂(國學) 2:27.0
2. 川名 武(商船) 2:28.4
3. 須崎 秀夫(横商專) 2:29.4
4. 藤原 豊(帝大)
5. 前島彌太郎(商船)

6. 松川 西吉(東京齒)

400 米 自 由 形

1. 須崎 秀夫(横高專) 5:29.6
2. 山口 貞一(國學) 5:38.6
3. 前島彌太郎(商船) 5:38.8
4. 久保田知義(中央大)
5. 松川 西吉(東京齒)
6. 高岡 丈夫(商船)

800 米 自 由 形

1. 高岡 丈夫(商船) 12:02.4
2. 山口 貞一(國學) 12:06.6
3. 久保田知義(中央大) 12:25.4
4. 倭島 定雄(商船)
5. 瀬野 正一(商大)
6. 小林 連(拓大)

50 米 背 泳

1. 清川 正二(商大) 0:32.0
2. 大島 正夫(横商專) 0:34.8
3. 上野 大藏(商船) 0:34.8
4. 大西 正助(帝太)
5. 岡田 傑(明薬)
6. 堀 一郎(帝大)

清川は豫選に於て 30.8 (日本新記録) を出した。準決勝の記録は 33.0

100 米 背 泳

1. 清川 正二(商大) 1:11.8
2. 上野 大藏(商船) 1:16.4
3. 細谷 定一(中央大) 1:18.4
4. 水谷卯三郎(商大)
5. 須山 正典(大倉高商)
6. 堀 一郎(帝大)

豫選に於ける清川の記録は 1:10.6 準決勝の記録は 1:15.0

100 米 平 泳

1. 鷲尾 弘賢(中央大) 1:26.0
2. 井上 博司(横專)
3. 富田 國男(一高)
4. 満田 静夫(國學)
5. 星野 保夫(帝大)
6. 鳥飼 岐(商船)

200 米 平 泳

1. 鷺尾 弘賢(中央大) 3:09.8
2. 井上 博司(横 専) 3:14.2
3. 富田 國男(一 高) 3:17.6
4. 鳥 飼 岐(商 船)
5. 満田 静夫(國 學)
6. 大井 忠紀(商 大)

10. 慈 大 4點
11. 東 齒 3點
12. 明 藥 2點
- 水 産 2點
14. 青 學 1點
- 拓 大 1點

2. 竹村 公良(早 大) 1:03.2
3. 富樫 誠助(法 大) 1:04.4

400米自由形決勝

1. 牧野 正藏(早 大) 4:49.0
(日本新)
2. 新聞 六炳(早 大) 4:56.8
3. 永見 達明(早 大) 5:06.2

牧野のラップタイム

1:07.0 2:21.2 3:35.0

200 米 リレー

1. 東京商科大学 1:54.4
(多田、栖原、青木、清川)
2. 東京帝国大学 1:56.0
(大西、山田、藤井、藤原)
3. 国学院大学 1:57.6
(山口、岡田、佐野、井上)
4. 東京高等商船学校
(上野、小野寺、前島、川名)
5. 第一高等学校
(後藤、富田、瀧藤、永岡)
6. 横濱商業学校
(平塚、田邊、大島、須崎)

昨年(の)種目の外に、極東大會50米自由形選手詮衡の爲に50米自由形が加へられた。此の種目に於ては無名の新人、竹村(早大・京都三中出)が26秒2の日本新記録を作つて我々を驚かせた。50米に長すると共に50米専門にならぬ様希望する。100米では片岡がスプリントを効かせて一着となり、400米では牧野相變らず元氣で公認記録を破り、同僚新聞も又日本選手權に劣らぬ活躍を見せた。背泳には昨年(の)中等學校第一人者渡邊(慶大修道中出身)が一着となつたが昨年より元氣がない。平泳では小池(慶大)の他に山田(早大・廣島一中出)伊藤三郎(明大中泉農業出)が見えたが何れも過去の方が花々しかつた様である。尙新人競技は來年から廢止され、新人も直に本競技に出場し得ることになつた。

100 米 背 泳

1. 渡部 卓一(慶 大) 1:16.4
2. 門田 梅治(法 大) 1:19.2
3. 秋竹 博司(早 大) 1:19.6

200 米 平 泳

1. 小池 禮三(早 大) 2:47.6
2. 山田 弘(早 大) 2:57.0
3. 伊藤 三郎(明 大) 2:58.2

800 米 リレー

1. 東京商科大学 10:22.0
(水谷 栖原、青木、清川)
2. 国学院大学 10:38.0
(山口、岡田、佐野、井上)
3. 慈惠會醫科大學(参考10:52.4)
(石山、耳塚、引地、三井)
4. 東京帝国大学
(大西、山田 藤井、藤原)
5. 第一高等学校
(圖師、後藤、永岡、赤澤)
6. 青山學院
(山本、松原、相原、川寺)
商船學校は二番と三番との引繼に反則があつた爲失格

得 點	1. 商 大	2. 商 船	3. 國 大	4. 中 大	5. 帝 大	6. 一 高	7. 横 商 専	8. 横 専	9. 大倉高商
	47點	42點	38點	30點	22點	18點	17點	10點	5點

50 米 自由形

豫 選

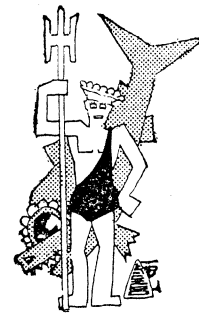
- A 1. 竹村 公良(早 大) 0:26.6
2. 片岡寅次郎(早 大) 0:27.4
3. 鶴岡 榮(立 大) 0:28.2
- B 1. 新聞 六炳(早 大) 0:28.0
2. 水野 寛(拓 大) 0:28.0
3. 門田 梅治(法 大) 0:28.4

決 勝

1. 竹村 公良(早 大) 0:26.2
(日本新)
2. 片岡寅次郎(早 大) 0:27.2
3. 水野 寛(拓 大) 0:27.4

100米自由形決勝

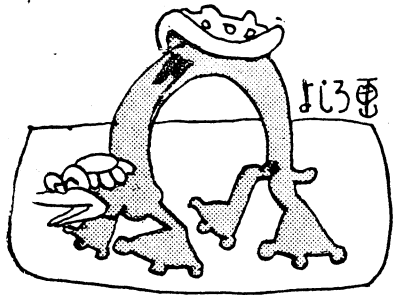
1. 片岡寅次郎(早 大) 1:01.0



御 知 ら せ

「水泳」の發行日を 1. 3. 5. 7. 8. 9. 10. 12の第一日と變更いたしました。

之で都合年八回發行される譯になりました。



秋季
學生

水球リーグ戦概評

時 任 嚴

専門的立場から見る時は、非をうつつ餘地のない好試合と云ふべきものはそうざらにあるものでない。眞に感激を以て後々まで味はへる程の良いゲームは、年に一つか二つでもあれば、先づ大成功と云わなければならぬ。この意味に於て秋季水球リーグは、模範的好試合早慶戦を有した故にその価値を高めた。我々はスコアが六一〇に開いたが故に、その内容を割引きしてはならぬ。否、寧ろ點が開き勝敗が既に明かになつた後も、尙ほ我々の緊張と感激のゆるむのを許さなかつた所に、この試合の価値を見出さなければならぬ。優勢な早大は飽くまで氣をゆるめずに、追すがる慶應を引放さんとし、慶應又最後まで點差を縮めんとして死物狂ひに奮闘し、そこに展開するクリーンなプレーと相俟つて、我々に六點の開きを忘れしめたのである。このゲームは技術上から見ても見事な好試合であつたばかりでなく、選手の試合に對する態度から云つても、或いは反則の少なかつた點から云つても、總べての點に於て我々水球人の模範とすべき好試合であつて、斯くの如き好試合を味はふことの出來たことを筆者は心から喜ばざるを得ないのである。

この日早大は實に完璧の試合をした。彼等はこの日今シーズン最良のコンディションにあつたばかりでなく、實にあの強さはこれまで存在した日本水球チームとして最強のものであつたと云つても過言でない。これに反して慶應は木村の缺を若林を上げて補ひ、廣瀬を新たにバックに起用すると云ふ苦しい布陣で對し、これも又なかなかの好調で善戦大いに努めたが、開始直後高木の一點で出鼻をくじかれ、次いで磯部と勝の間隙を高橋に極められて前半を終り、後半は早大の鋭い動きに疲れて遂に刀折れ矢盡きた。實力から云つて先づ順當と云ふべきであるが、敗軍の中にあつての澤海のひるまざる全員督勵と黒川が勝、廣瀬の分まで引受けての奮闘は特に印象深かつた。

今回のリーグ戦は早慶戦以外にも得點の接近したゲームは他にあつたが、こゝに述べる程の内容ある

ゲームは殆んど見當らなかつた。慶立・帝立の兩試合は共に前者の接戦が爲さずもがなの延長戦に導いたのであつて、結局は順當な結果に終つたのであり、スコアの接近してゐた割に緊張もせず、左程の豊富な内容を持つた試合ではなかつた。ましてその他のゲームに於ては推して知るべしである。

今回のリーグ戦で特に感じたことは参加校の實力が二つの階段に判然と別れたことである。Aクラスとも云ふべき早慶立帝と他の明商法拓とは實力から云つても、ゲームに對する態度から云つても、或いはルール理解の程度から見ても、實に確然たる相違が見られた。云わば未だ眞のチームとしての體を作してゐないと云わなければならぬ。未熟や規則に通じてゐないのは、一步退いて止むを得ないとしても、反則を見えざる所で行つて審判員を胡魔化さんとし、或ひはゲームに對して不眞面目な態度の往々にして見られたのは誠に遺憾にたえない。スポーツマンらしく飽まで眞面目な競技態度、如何に不利でも決して反則を犯さざらんとする眞摯な研究があつてこそ、一時は損の如く見えても、將來に大成するのである。始めよりインチキに終始しては、その將來は絶対に期待出來ない。以上の如き點に於て少しでも思ひ當る競技者があつたなら日本水球の健全なる發達のために直ちに改められんことを希望する。

法政、拓大は久し振りの再参加であるから、その技術を彼れ此れ云ふのは無理かも知れない。商大は春よりは多少實力がおちたような氣がする。それとも一般のレベルが上つたにめだらうか。兎も角も今秋の戦ひ振りは餘り香ばしくなかつた。捲土重來を期待したい。メンバー移動については多田君如き重量あり、スピードあるプレーヤーを、バックに下げたのは成功であらう。フォーワードは繊細な技術と鋭敏な感とを最も必要とするのであるから、大味な同君には確かに不向きである。前へ前へとひたむきにダツシュするのみでなく、飛び出すための豫備的技術を會得されたなら同君のバックとしてのドリブル・ダツシュは同チームの一威力とならう。明大は

眞の水球を學ぶ必要がある。そして規則を研究して反則を少なくする必要がある。このことを無視しては、明大チームの進出は望まれない。以上の外豫想された、日大、一高、成城高校の出場がなかつたのは淋しかつた。

A クラスとも云ふべき四校の内、帝大はプレーヤーの素質は非常に優れてゐるにもかかわらず、チーム・プレーとして最も重要なコンビネーションに缺けてゐた故に、期待程の好成績を擧げることが出来なかつた。由來帝大は高等學校の名選手を多數迎えて、多士濟々を誇りながら、コンビネーション不足の傾があるが、今年は特にその感が深かつた。大西、藤原、村上の均勢と土屋、野知、藤井の頑強はどこから見ても不足のない立派なスタッフである。要は今後の科學的猛練習により如何に合理的なコンビネーションを養成するかにある。

立教のフォワードは實に良くなつた。遠藤、關口、田野のトリオはスピードと云ひバランスと云ひコンビネーションと云ひリーグ第一に位するものである。惜むらくはバックマンの無力である。立教のバックは防禦に於て無力なばかりでなく、攻撃に於ても味方のフォワードのために何らの貢献をしてゐない。ドリブルダツシュに見るべきものなく、パスは實に下正確である、あれだけのフォワードを持ちながら帝大にはバックのファイテング不足で苦戦し、慶應には同じくバックの反則とミスで敗れ、對早大戦には殆んどフォワードに球が行かなかつた。立教チーム目下の急務はバックの強化であらう。免まれ同チームの躍進は今シーズンに於ける大きな收穫の一つたるを失わないと思ふ。

慶應は今春清水、平岡の二重鎮を送つて大打撃を受けた所に今秋又木村の病氣缺場となり、實に受難のシーズンだつた。然しよく新進を養成して早大に次いで二位を確保し、傳統をけがさなかつたのは流石である。多難の同軍中にあつて澤海、黒川の奮闘は一際目立つて見事だつた、然しながら不審に思はれるのはG・K・小柴がボールを持つた際の處置である。味方がボールを支配してゐてこそ得點チャンスがおとずれるのではないか。人の居ない所に盲パスするのは味方攻撃の特權を放棄するに等しい。キーパーの責任は敵のシュートを止めるばかりでなくて、得たボールを如何に有効に味方の攻撃に移すかと云ふことも、前者よりも寧ろ重要な役目であることを知らねばならぬ。消極的に弱氣になつてはその瞬間既に負けてゐるのである。味方支配のボールは飽まで大切に支配しつゝ積極的に攻撃する心掛けこそ勝利

の鍵であることを忘れてはならぬ。それにしても慶應チームのメンバーが年々小粒になりつゝあることは寒心にたえぬ。水球にはテクニクと共に重量、スピードの重要な要素は去るオリンピックによつて經驗濟みのことである。この邊でチーム體格の向上を計らなくては往年の強味を回復することは困難ではあるまいか。最近の慶應の試合振りに無理強引が多くなつて合理的なコンビネーションの影を没しつゝあるのはこの點に恵まれない故でなからうかと思ふ。

早大は帝大に不覺の一點を與へたのみで慶立を零敗せしめて破竹の勢を以て覇權を握つた。高橋の球を持つた時の強さ、熊野の鋭い動きと機に應じたパス、この二人の間を行く高木の刺すような動きと、正確なパスと素早いシュート、三人三様各々異つた特徴を持つたフォワードを揃へ、頑強と巧妙を兼ね備えた名ハーフ坂上を中心に確實な若山、頑強志村をバックにして、好パスに猛ドリブルに敵陣を掻き亂し、加ふるに冷靜確實な松本を後盾としてゐるのであるから調子に乗つたこのチームには現在の諸大學チームが相手にならないのは當然である。然しこのチームが眞に完璧な試合振りを示したのは唯最後の早慶戦一つのみ過ぎない。他の數試合に於ては可成の拙戦を演じたことも少なくなかつた。それ故一早慶戦のみの試合振りを以て同チームを完璧なりと云ふは或ひは早計であらう。長いシーズンを數試合に恆つて常にあの實力を出し得た時に、始めてこれまでにかつて存在したチームの内、最強のものとして譽めらるべきなのである。然も假りにメンバー中よりリーダー坂上を缺いた場合を想像して、果して同じようにあの強味を發揮し得るかは甚だ疑問と云わなければならぬ。

早大の強さの原動力は彼等のバックにある。坂上、若山、志村のトリオは尙ほ未熟な點少なからずとは云へ、その強豪さに於ては世界の檜舞臺に出しても恥かしくないものがあらう。これに比してフォワードの技術は物足らぬ。彼等の猛威を振り得るのは國內に在つてこそで、國際的大舞臺では未だ未だ道遠しの感が深い。國內に於てあれ程の強力を發揮したのも、強豪バックの協力があつてこそで、慶立のフォワードもあのバックに支持された時は、早大フォワード以上の働きが出来ないとは誰が保證出来よう。筆者をして云わしむれば、早大は今一人バックの適任者を見出して坂上の跡をうめしめ、坂上を本來の彼のポジション左ウイングに据えて、フォワードの訓練を完成せしめた時に、歐洲諸國

(32頁へつゞく)

昭和八年度競泳新記録

昭和八年十一月九日 日本水上競技聯盟

本表は今年度中に各加盟團體より新記録として申請せられた 105 件に對し、昭和八年十月三十日、本聯盟記録委員會に於て審査し、同十一月九日常務理事會に於て承認發表せられたものである。

尙日本記録は、昭和七年度より長水路 (50米及それ以上のプール) に於て作られたるものを正式の記録とし、短水路 (50米以下のプール) に於て之を凌駕するものが作られた場合に於てのみ別に短水路記録として認めることになつてゐる。短水路記録にして日本記録とタイなるものは之を認めない。

之に依つて見ると、本年度に於て日本記録を彼つたもの總計 100 に及び、之内譯は男子競泳に於ては長水路38、短水路14、女子競泳に於ては長水路36、短水路12の新記録が含まれ、尙又この内には10個の世界記録をも包含してゐる。

() 内は從來の日本記録 世は世界記録 對は日本對記録

男子競泳

時間	氏名	所屬	競技會名	場所	水路	年月日	申請團體
50米自由形							
(舊) 26.4	宮本武夫	早大	早關對抗	神宮	50米	6.6.24	N. S. R.)
(舊) 26.4	高橋成夫	早大	全國學生	神宮	50	7.9.25	學生聯盟)
26.0	竹村公良	早大	神宮競技	神宮	50	8.10.1	N. S. R.
26.2	遊佐正憲	日大	第七回名古屋市民	振甫	50	7.2	名古屋體協
26.2	竹村公良	早大	第十二回學生新人	神宮	50	9.17	學生聯盟
對 26.4	高橋成夫	早大	第十二回學生水上	神宮	50	9.15	學生聯盟
對 26.4	高橋成夫	早大	第十二回學生水上	神宮	50	9.16	學生聯盟
對 26.4	高橋成夫	早大	第十二回學生水上	神宮	50	9.17	學生聯盟
對 26.4	梅田利兵衛	東京高師	神宮競技	神宮	50	10.1	N. S. R.
對 26.4	高橋成夫	早大	神宮競技	神宮	50	10.1	N. S. R.
100米自由形							
(舊) 58.0	宮崎康二	日大	オリンピック	羅府	50	7.8.6	N. S. R.)
對 58.0	遊佐正憲	日大	日本選手權	神宮	50	8.8.12	N. S. R.
對 58.0	遊佐正憲	日大	日本選手權	神宮	50	8.13	N. S. R.
對 58.0	遊佐正憲	日大	第十二回學生水上	神宮	50	9.16	學生聯盟
對 58.0	遊佐正憲	日大	第十二回學生水上	神宮	50	9.17	學生聯盟
200米自由形							
(舊) 2:14.6	大横田勉	明大	オ最終豫	神宮	50	7.6.12	N. S. R.)
2:13.0	遊佐正憲	日大	日本選手權	神宮	50	8.8.14	N. S. R.
2:13.2	遊佐正憲	日大	第十二回學生水上	神宮	50	9.17	學生聯盟
2:13.4	遊佐正憲	日大	日本選手權	神宮	50	8.13	N. S. R.
2:13.6	遊佐正憲	日大	日本選手權	神宮	50	8.12	N. S. R.
2:13.8	遊佐正憲	日大	選手權神奈川豫選	横濱市立	50	7.29	横濱水協
2:14.2	遊佐正憲	日大	第十二回學生水上	神宮	50	9.15	學生聯盟
短水路							
2:13.6	横山隆志	早大	神宮競技	神宮	25	9.30	N. S. R.

時間	氏名	所屬	競技會名	場所	水路	年月日	申請團體
2:13.8	牧野正藏	早大	神宮競技	神宮	25	9.30	N. S. R.
300米自由形							
(舊 3:37.2	大横田勉	明大	オ最終豫	神宮	50	7.6.12	N. S. R.)
3:32.2	牧野正藏	稻泳會	日本選手權	神宮	50	8.8.12	N. S. R.
3:33.0	牧野正藏	稻泳會	日本選手權	神宮	50	8.14	N. S. R.
3:36.0	北村久壽雄	高知商業	日本選手權	神宮	50	8.12	N. S. R.
短水路							
3:32.0	牧野正藏	早大	神宮競技	神宮	25	10.1	N. S. R.
3:34.4	石原田愿	明大	神宮競技	神宮	25	10.1	N. S. R.
400米自由形							
(舊 4:50.4	大横田勉	明大	オ最終豫	神宮	50	7.6.12	N. S. R.
世 4:46.4	牧野正藏	稻泳會	日本選手權	神宮	50	8.8.14	N. S. R.
4:47.6	牧野正藏	稻泳會	日本選手權	神宮	50	8.12	N. S. R.
4:49.0	牧野正藏	早大	第十二回學生水上	神宮	50	9.17	學生聯盟
4:9.0	北村久壽雄	高知商業	日本選手權	神宮	50	8.12	N. S. R.
短水路							
世 4:46.8	牧野正藏	早大	神宮競技	神宮	25	10.1	N. S. R.
4:47.6	石原田愿	明大	神宮競技	神宮	25米	10.1	N. S. R.
500米自由形							
(舊 6:22.6	横山隆志	日本	日米對抗	神宮	50	6.8.7	N. S. R.)
6:14.0	牧野正藏	早大	早關對抗	神宮	50	8.6.25	學生聯盟
短水路							
6:07.2	石原田愿	明大	神宮競技	神宮	25	9.30	N. S. R.
800米自由形							
(舊 10:16.6	牧野正藏	東部中等	全國中等	大阪築港	50	6.8.30	關西學生
世 10:08.6	牧野正藏	早大	早關對抗	神宮	50	8.6.25	學生聯盟
10:12.8	北村久壽雄	西部中等	八年中東西對抗	大阪築港	50	8.27	學生聯盟
1000米自由形							
(舊 12:54.7	牧野正藏	日本	オリンピック	羅府	50	7.8.13	N. S. R.)
世 12:42.6	北村久壽雄	高知商業	日本選手權	神宮	50	8.8.13	N. S. R.
世 12:51.6	牧野正藏	稻泳會	日本選手權	神宮	50	8.12	N. S. R.
1500米自由形							
(舊 19:12.4	北村久壽雄	日本	オリンピック	羅府	50	7.8.13	N. S. R.)
19:03.0	北村久壽雄	高知商業	日本選手權	神宮	50	8.8.13	N. S. R.
50米背泳							
(舊 31.6	清川正二	名古屋	全國學生	神宮	50	7.9.23	學生聯盟)
30.8	清川正二	東京商大	第十二回學生水上	神宮	50	8.9.15	學生聯盟
200米背泳							
(舊 2:36.6	清川正二	名古屋	日本選手權	神宮	50	7.10.2	N. S. R.)
(舊短 2:35.2	清川正二	名古屋	清川歡迎	七本松	25	7.9.18	名古屋體協)
2:35.8	清川正二	東京商大	日本選手權	神宮	50	8.8.14	N. S. R.
400米背泳							
(舊短 5:42.0	入江稔夫	茨木中學		和歌山中	25	3.10.14)
世 5:30.4	清川正二	東京商大	神宮競技	神宮	25	8.9.30	N. S. R.
世 5:34.0	入江稔夫	早大	神宮競技	神宮	25	9.30	N. S. R.

時間	氏名	所屬	競技會名	場所	水路	年月日	申請團體
世 5:37.6	河津 憲太郎	明大	神宮競技	神宮	25米	9.30	N. S. R.
100米平泳							
(舊 1:16.0)	小池 禮三	沼津商	日本選手權	神宮	50	7.10.2	N. S. R.
(舊短 1:14.8)	鶴田 義行	明大	選手權豫選	京都八瀬	25	4.7.27	京都體協
1:14.8	小池 禮三	靜浦游協	日本選手權	神宮	50	8.8.14	N. S. R.
200米平泳							
(舊 2:44.9)	小池 禮三	日本	オリンピック	羅府	50	7.8.12	N. S. R.)
2:44.2	小池 禮三	慶大	早慶對抗	神宮	50	8.6.11	學生聯盟
2:44.6	小池 禮三	靜浦游協	日本選手權	神宮	50	8.14	N. S. R.
短水路							
2:42.8	小池 禮三	慶大	神宮競技	神宮	25	9.30	N. S. R.
400米平泳							
(舊 6:24.4)	鶴田 義行	日本	國際大會	大阪築港	50	大正15.9.12	大阪體協
(舊短 6:17.8)	小池 禮三	沼商	記錄會	明大	25	7.4.10	N. S. R.)
短 5:58.8	小池 禮三	慶大	神宮競技	神宮	25	8.10.1	N. S. R.
短 6:06.0	葉室 鐵夫	修猷館中	神宮競技	神宮	25	10.1	N. S. R.
短 6:15.6	山田 弘	早大	神宮競技	神宮	25	9.30	N. S. R.
200米リレー							
(舊 1:46.8)	日本チーム						
	宮本 武夫 益田 佐武郎	高橋 成夫 高石 勝男	極東大會	神宮	50	5.5.28	N. S. R.)
1:46.4	遊佐 正憲 河石 達吾	片山 兼吉 高橋 成夫	振甫プール開	振甫	50	8.7.1	名古屋體協
1:46.6	早大チーム						
	阪上 安太郎 志村 義久	横山 隆志 高橋 成夫	全國學生	神宮	50	9.17	學生聯盟

女子競泳

時間	氏名	所屬	競技會技	場所	水路	年月日	申請團體
50米自由形							
(舊 33.6)	松澤 初穂	京岡高女	第七回全國女子	大阪築港	50	5.9.21	大阪體協
31.6	松澤 初穂	大阪水泳團	三地方關西像選	大阪築港	50	8.8.29	大阪體協
32.2	松澤 初穂	關西	第一回女子對抗	名古屋振甫	50	9.3	名古屋體協
32.6	横井 キヌ	京都二條女	第十回健母會	寶塚	50	9.10	大阪體協
32.8	横井 キヌ	京都二條女	神宮競技	神宮	50	10.1	N. S. R.
32.8	荒田 雪江	京都二條女	三地方關西像選	大阪築港	50	8.29	大阪體協
33.2	横井 キヌ	京都二條女	三地方關西像選	大阪築港	50	8.29	大阪體協
對 33.6	鹽見 梅子	椋山女學園	神宮競技	神宮	50	10.1	N. S. R.
短水路							
33.0	横井 キヌ	京都二條女	第一回京都女子中等	京都二高女	25	9.16	京都體協
100米自由形							
(舊 1:14.8)	小島 一枝	椋山女學園	日本選手權	神宮	50	7.10.1	N. S. R.
短 1:13.4	小島 一枝	椋山女學園	神宮競技	神宮	25	8.10.1	N. S. R.
200米自由形							
(舊 2:49.4)	小島 一枝	椋山女專	日本選手權	神宮	50	7.10.2	N. S. R.
2:45.0	小島 一枝	椋山女學園	選手權名古屋豫選	名古屋振甫	50	8.7.30	名古屋體協

時間	氏名	所屬	競技會技	場所	水路	年月日	申請團體
2:47.2	小島 一枝	椋山女學園	第五回中部中等	名古屋振甫	50	9.10	名古屋體協
2:47.4	小島 一枝	椋山女學園	第七回名古屋市民	名古屋振甫	50	7.2	名古屋體協
2:47.6	小島 一枝	椋山女學園	日本選手權	神宮	50	8.13	N. S. R.
2:48.2	小島 一枝	椋山女學園	日本選手權	神宮	50	8.14	N. S. R.
短水路							
2:42.8	小島 一枝	椋山女子園	第一回愛知中等	七本松	25	8.17	名古屋體協
300米自由形							
(舊 4:31.0	守岡 初子	茨木水泳團	第八回全國女子	大阪築港	50	6.9.24	大阪體協
4:22.8	守岡 初子	關西	第一回女子對抗	名古屋振甫	50	9.9.3	名古屋體協
4:26.6	守岡 初子	茨木水泳團	日本選手權	神宮	50	8.13	N. S. R.
4:26.8	守岡 初子	茨木水泳團	三地方關西豫選	大阪築港	50	8.29	大阪體協
4:27.8	守岡 初子	茨木水泳團	日本選手權	神宮	50	8.14	N. S. R.
短水路							
4:19.6	小島 一枝	椋山女學園	神宮競技	神宮	25	9.30	N. S. R.
4:26.6	守岡 初子	茨木水泳團	神宮競技	神宮	25	10.1	N. S. R.
400米自由形							
(舊 6:04.4	守岡 初子	茨木水泳團	神宮競技	神宮	50	6.10.2	N. S. R.)
5:53.0	小島 一枝	椋山女學園	第四回東海女子	清洲	50	8.8.20	名古屋體協
5:55.2	守岡 初子	關西	第一回女子對抗	名古屋振甫	50	9.3	名古屋體協
5:57.0	小島 一枝	中部	第一回女子對抗	名古屋振甫	50	9.3	名古屋體協
5:59.0	小島 一枝	椋山女學園	第五回中部中等	名古屋振甫	50	9.10	名古屋體協
5:59.8	守岡 初子	茨木水泳團	三地方關西豫選	大阪築港	50	8.29	大阪體協
6:00.4	守岡 初子	茨木水泳團	日本選手權	神宮	50	8.14	N. S. R.
6:00.8	守岡 初子	茨木水泳團	日本選手權	神宮	50	8.13	N. S. R.
短水路							
5:49.6	小島 一枝	椋山女學園	第一回愛知中等	七本松	25	8.27	名古屋體協
5:53.8	小島 一枝	椋山女學園	神宮競技	神宮	25	9.30	N. S. R.
6:02.0	守岡 初子	茨木水泳團	神宮競技	神宮	25	1:01	N. S. R.
500米自由形							
(舊 7:53.6	守岡 初子	茨木水泳團	第八回全國女子	大阪築港	50	6.9.24	大阪體協)
7:46.0	守岡 初子	茨木水泳團	神宮競技	神宮	50	8.9.30	N. S. R.
短水路							
7:35.6	守岡 初子	茨木水產團	神宮競技	神宮	25	10.1	N. S. R.
800米自由形							
(舊 12:50.2	守岡 初子	茨木水泳團	第八回全國女子	大阪築港	50	6.9.24	大阪體協)
12:39.0	守岡 初子	茨木水泳團	神宮競技	神宮	50	8.9.30	N. S. R.
對 12:50.2	守岡 初子	茨木水泳團	第十回健母會	寶塚	50	9.10	大阪體協
1000米自由形							
(舊 16:18.8	守岡 初子	茨木水泳團	選手權大阪豫選	大阪築港	50	6.9.6	大阪體協)
15:57.0	宋岡 初子	茨木水泳團	選手權大阪豫選	大阪築港	50	8.7.30	大阪體協
1500米自由形							
(舊 24:42.2	守岡 初子	茨木水泳團	選手權大阪豫選	大阪築港	50	6.9.6	大阪體協)
24:08.6	守岡 初子	茨木水泳團	選手權大阪豫選	大阪築港	50	8.7.0	大阪體協
50米背泳							
(舊 短 40.2	橫田 みさを	同志社高女	第四回全國女子	京都八瀨	25	6.9.6	京都體協)

時間	氏名	所屬	競技會技	場所	水路	年月日	申請團體
39.4	横田 みさを	京都武徳	三地方關西豫選	大阪築港	50	8.8.29	大阪體協
39.4	横田 みさを	關西	三地方對抗	振甫	50	9.3	名古屋體協
200米背泳							
(舊) 14.2	加藤 好子	愛知淑徳	全國女子	神宮	50	6.8.15	N. S. R.
3:10.4	横田 みさを	京都武徳	第十回健母會	寶塚	50	8.9.10	大阪體協
100米平泳							
(舊) 1:27.6	前畑 秀子	椛山高女	第七回全國女子	大阪築港	50	5.9.21	大阪體協)
1:27.0	前畑 秀子	中部	女子對抗	振甫	50	8.9.3	名古屋體協 N. S. R.
1:27.5	前畑 秀子	椛山女子園	選手權名古屋豫選	振甫	50	7.29	名古屋體協
200米平泳							
(舊) 3:06.4	前畑 秀子	日本	オリムピック	羅府	50	7.8.9	N. S. R.
3:05.2	前畑 秀子	中部	女子對抗	振甫	50	8.9.3	名古屋體協 N. S. R.
3:06.0	前畑 秀子	椛山女子園	第五回中部中等	振甫	50	9.10	名古屋體協
短水路							
世 3:00.4	前畑 秀子	椛山女子園	神宮競技	神宮	25	9.30	N. S. R.
400 平泳							
6:37.6	前畑 秀子	椛山女子園	第四回東海女子	清洲	50	8.8.20	名古屋體協
短水路							
世 6:24.8	前畑 秀子	椛山女子園	神宮競技	神宮	25	10.1	N. S. R.
500米平泳							
世 8:03.8	前畑 秀子	椛山女子園	神宮競技	神宮	25	10.1	N. S. R.

(27頁よりつづく)

にも劣らぬ強チームを完成し得ると思ふ。元來現在の早大の如く優秀な素質の選手を揃へて、非力な慶立との好試合に満足するのが間違ひと云わなければならぬ。對等の技術としたならば勝つのが當然なのである。願はくば早大チームが國內の覇權に満足することなく、世界を相手に益々精進研究されたい。多數の先輩を送り出して、今春殆んど新人のみを以て新チームを組織した早大を、半年にして斯くの如き強チームの編成に成功した松本、坂上兩君の努力に心から敬意を表するものである。そして斯くの如き素質あるチームを科學的組織的練習法によつて益々強化されるよう願ひたい。

それしにても他の慶立帝その他の諸チームの進歩は素質よき早大チームに刺戟を與える意味に於ても必要且つ望ましい事である、このまゝ進むときは早大は國內に好敵手に不足して、切角の素質を十分延ばし得ないような結果になりはせぬかと憂へられる。前記諸チームの憤起を希望するや切である。

尚ほ一言付け加へたい事は日本のキーパーが如何にも進歩しておらぬことである。筆者は普通素人が考へる如く得點されるは總べてキーパーの責任なりと云ふ如き浅い考へから斯く云ふのではない。歐米のキーパーとの間に餘りに懸隔が甚しい故に斯く云

ふのである。このことを論ずるに當つて筆者がキーパーに對する最も深い同情者であることをこゝに斷つておく。試みに歐洲のキーパーの技術を説明しよう。歐洲に於ては四碼より外からのシュートが得點となれば、キーパーの責任なりと云ひ、ペナルティー・スローは入り難きものとされてゐる。そして單純なシュート、強球は大抵キーパーに止められる故、多くフェイントを用ひ、ループシュート(緩シュート)を用ひて始めて得點出来るのである。斯くの如きはバックの策應にも與つて力があるけれどもキーパーの技術も餘程素晴らしくなくては不可能である。又彼等は球を得た後の處理法も實に見事であつた。持つべきは持つて敵のチャージを誘ひ、或ひはサイドへドリブルし機に應じた正確なパスをするなど必ず味方の有効な攻撃に導びく。兎も角も種々のポジションの内日本はキーパーが一番後れてゐるようだ。次のオリムピックのために日本にも彼等に匹敵する名キーパーの出現が是非望ましい。筆者は未だ日本の水球で眞に體質的に適したキーパーを見たことがないような氣がする。今少し廣い範圍から適當な人をさがして猛練習せしめる必要があるのではないだらうか。そしてキーパーが上達するならばシュートの技術も今少し變つて來る筈だ。斯くして日本水球も歐洲のそれと同一水準に上り得るのであらう。妄言多謝

〔八・十・十二〕

昭和八年度

水泳指導者講習會概略

山松崎三次

本聯盟主催に依る第二回水泳指導者講習會は去る七月一日より十日迄十日間、明治神宮プール及慶應醫大細菌學教室に於て開催せり、過去四ヶ年我が聯盟はオリムピック第一主義の本に全力を盡して來たが今や我々は新に國內普及、國民皆泳の旗標に向つて進まんとして居る、此の時に當り、其の實限の第一歩として指導者講習會は重大なる意義を有するものである、今回の講習會に於て我々は改良す可き點を多く教へられた、今後益々諸君と共に研究して本講習會をして完全なるものたらしめ國民皆泳の實を擧げる様努力して行きたい。

本年は文部省の多大なる御助力に依り豫定人員を超過すること十四名の多きに達し、尙又特別講演として東京帝大教授醫學博士、石原忍氏、増田胤次氏及び、日本赤十字社、森秀臣氏等の御助力を給り厚く感謝の意を表する次第であります。

今回の講習時間は毎日午後一時より五時までとし、中講義十三時間、實習二十六時間とした。然し時間不足に依り充分の練習出來ぬ爲午前中を自習時間とし講師及助手数名出席して其の指導の任に當る事とした、尙二日午前中神田基督教青年會を見學、八日夜四谷第四小學校に於てオリムピック映畫會と座談會とを開催せり。

水泳ト海軍
水泳豫備運動

水泳場建設ニ付テ

渡邊 延
西本 秀雄
根來 幸成
猿橋 清
小松崎三次
杉原 雪雄
原 酉三
水谷 泰夫
生江哲太郎
時任 嚴
笹島彦次郎
植田 武夫

岡本 勁一
太田 實
金子 魁一
柳田 享
飯田光太郎
鶴岡 英吉
米山 弘
浦木 義夫
杉本 俊夫
岩切 盛行
柴田 隆二
原 秀夫
奥平 俊二
石川 金繼
林 正之
若山 龍美
小柴 義清

以上講師、助手諸君の熱心なる努力に依り非常に好成績を上げ得たる事を深く感謝する次第であります本年度參加人員二百十四名中女子二十四名、資格試験に合格し指導員となりたる者二十四名内女子二名であつた。

講習會の種目及講師助手

本邦水泳界ノ趨勢
標準泳法

末弘嚴太郎
石本己四雄
本田 存
佐々木 救
原 正一
白山源三郎
飯田光太郎
松澤 一鶴
吉本 祐一
島崎 保正
本田 存
太田 正隆

水上競技概論

競 泳

水 球

飛 込

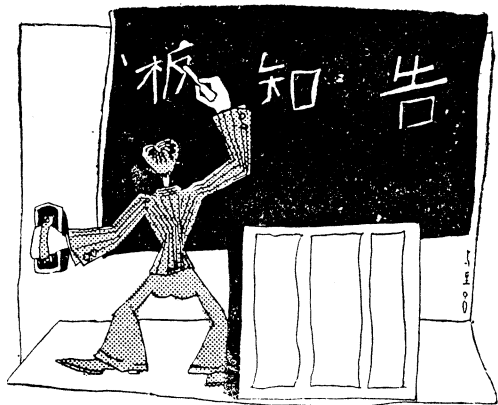
水泳指導者心得

水泳醫事及救急法

田中 幸生(福岡)
平石 秀壽(東京)
豊田 和知(東京)
稻田 千年(東京)
氣賀 清治(東京)
富樫 隆平(神奈川)
山口 直臣(東京)
野寄 錦治(濱松)
原田 好美(山口)
本田 滋(東京)
高橋 一郎(福島)
横山 いと(東京)

宮下 茂樹(東京)
太田 徳治(千葉)
藤 森 福(東京)
吉井甚右衛門(山口)
柳瀬 勝得(神奈川)
田中 孝(神奈川)
幾地 秀二(石川)
吉田 專吉(兵庫)
關 雄次郎(東京)
鈴木 佐市(東京)
平戸 郡治(東京)
八木橋 美枝(新潟)

以上



漫 畫 の ペ ー ジ

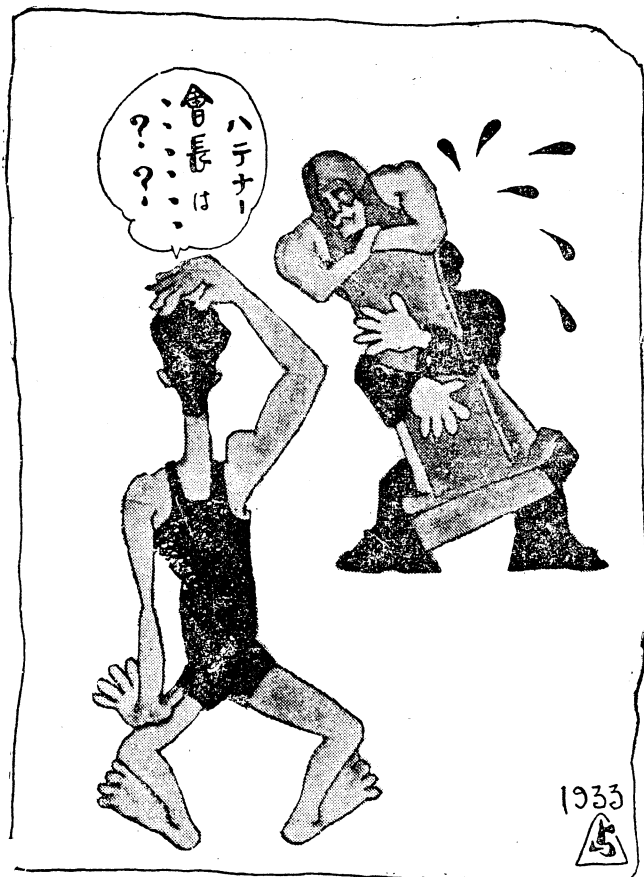
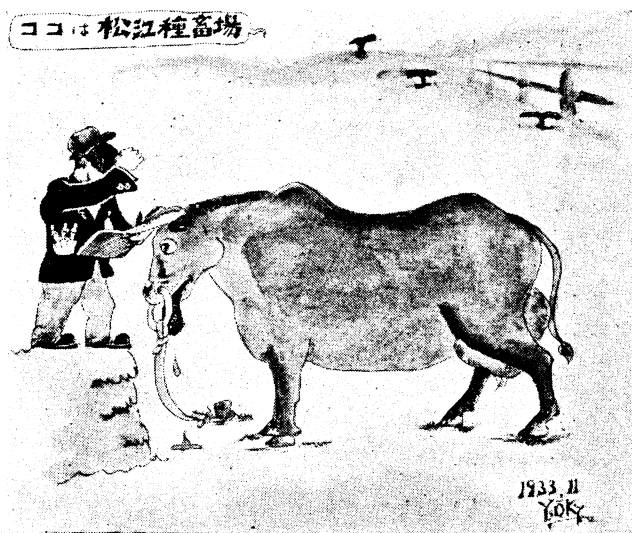
ちやんと云へば末弘會長を思ひ出すと共に、
 本年春東大農學部畜産科を卒業した林正之の
 あの元氣な姿が彷彿する。今回編輯室宛に奇しき縁
 とは云ひながらこの御二人の漫畫漫人が揃つて舞込
 んで來た。御二人共にその身長に於ては尙將來を約
 束された人々、末弘會長も時々林君をつかまえて、
 「おい嚴ちやん俺とどちらが高いか背くらべをしや
 う」と僅か五厘位の差に優越を感じて居られるから
 餘程の競争相手らしい。

○

右上は去る明治神宮大會の節、郷土對抗男子八百
 米リレーに優勝した静岡縣チームに日本水上聯盟寄
 贈の武神のトロフィーを會長御手づから授與される
 の圖、この武神いやに背が高いばかりか、體重も會
 長を凌がんの偉丈夫、會長赤くなつて早く受取つて
 くれ、ばよいと思ふに、牧野正藏君、ハテナー、會
 長は……？

○

東大在學中はプレストの選手として、又後年水球
 選手として頑張り、神宮ブルに於て水球競技の終
 つた際に、よそのチームはスリーチャーズをやつて



るる一方で「××チーム彌榮！」とやらかした林正
 之君、からだは小さいが元氣旺盛、水上聯盟の講習
 會等では骨身惜まず親切に働いてゐたが、去る八月
 の日本選手權を「最後の御奉公」として島根縣廳に
 奉職した。

○

人一倍小さい林君相手もあらうに牛の中でも一番
 大きい種畜を相手に毎日奮勵とは御同情に堪へな
 い。漫畫と共に到着した通信に曰く。

水球委員で「ガンチヤン」といへば、相當有名な
 彼氏、元來ちつぽけなのが玉にキズ、「牛の検査に
 は、俺しや實際くさる……」

○

漫畫漫文募集

水泳に関する漫畫及漫文を廣く募集致します。漫畫は墨
 汁で御書き下さい。漫文は原稿用紙に、薄謝贈呈

水上聯盟編輯部

神宮體育會並日本水上競技聯盟の態度

日本游泳聯盟との關係

NSR顧問 田 畑 政 治

九月二十六日附の東京朝日新聞鐵筆欄で、日本游泳聯盟の役員らしい人が「神宮大會は元來、武道の奉納を本體とするものであるから、古武道たる日本游泳各流派の聯盟たる日本游泳聯盟が、これを行ふとするのに、明治神宮體育會並に日本水上競技聯盟が、許さないのは不當である。」といふ意味の抗議をしたので、私は翌々日の同欄に寄稿し「明治神宮體育大會は元來、運動競技を明治神宮に奉獻するため内務省、明治神宮競技大會協賛會主催で、大正十三年、明治神宮競技大會の名の下に創始せられたものである。柔道、劍道、弓道等が参加したのは、武道だからといふ理由ではなくて、之等の武道は競技の一面を持つてゐるからである。然るに武道としての日本游泳は競技を嚴禁してゐる。それを武道としての日本游泳各流派の聯盟たる日本游泳聯盟の一部の人々が、流派游泳の傳統的精神を蹂躪して、競技をやらうとしたので、日本水上競技聯盟は、これを以て、日本游泳聯盟成立の根本義に反する行爲として、その競技會に非公認を宜したのである。この日本水上競技聯盟の處置は、武道としての日本游泳の墮落を防止するものであつて、日本游泳聯盟の本體たる各流派元も、妥當の處置とされてゐる筈である」と、神宮競技の歴史、日本游泳聯盟の沿革、武道としての日本游泳の本質を述べて、日本水上競技聯盟の正當なることを闡明にした。

これに對し、是が非でも競技をやらうといふ游泳聯盟（以下、日本游泳聯盟の略稱に用ふ）の二、三の人々は「武道は戰にして、體育を通じたる戰は即ち武道たる競技に他ならざるが故に、日本泳法の何處に競技を嚴禁すべきを發見すべけんや」といふ文書を出してゐるさうである。この文の意味は、はつきりしないが、結局「武道としての日本游泳は、競技を禁止してゐない」といふことを理論づけて云はうとしてゐると思はれる。然し、かういふことをいふのは、武道としての日本游泳即ち流派游泳について、全然無知か、然らずんば、爲にせんとする者の妄言であつて相手になるのさへ馬鹿らしいものである。

日本游泳と競技

元來、武道としての日本游泳は、徒歩或は牛馬以外に交通機關なく、各藩が夫々獨立の一國を形成してゐるやうな實情にあつた封建時代に、國防又は攻略に泳を必要とする藩の武士によつて、専ら研究され、發達して來たものである。元來が武道であるから、技術の鍊磨と共に精神の修養に重點を置いてゐる。従つて、その藩の地勢、人情によつて、他の藩と異つた特徴を持つ多くの流派を生じたのである。武道としての日本游泳は流派游泳として發達したものであつて、流派游泳以外には、武道たる日本游泳は絶対に存在しないのである。それ故に、武道たる日本游泳の聯盟だと名乗る游泳聯盟は、その規約に於て「本聯盟は全國各流派を以て組織す」と規定してゐるのである。武道を標榜する游泳聯盟は、因て立つ所の流派の主張、特徴を無視することは絶対に許されない。競技といふからには、如何なる競技も、一つの競技には一つの競技を通じての共通した一定の約束の存在が絶対必要の條件で、この一定の約束の下に勝敗を争ふのが競技である。然るに、異なる地勢に適合するため、異つた特徴を持つて發達して來た各流派游泳から、異つた特徴を取り去つて、共通した一定の規約を作ることは本質的に不可能である。各流派から傳統的特徴を取り去ることは流派游泳の否定であり、従つて武道としての日本游泳の否定である。水上競技聯盟（以下、日本水上競技聯盟の略稱として用ふ）のやうに、流派游泳から脱却して、交通の便も開け、封建制度も徹廢された現代の日本に、最も、合理的な泳法といふことを目標として「日本標準泳法」といふものを制定すれば、一定の規約も出来るから、始めて、競技として成立するが、異つた特徴を持つことを本質とする各流派によつて、組織された游泳聯盟は、各流派の特徴を無視することは絶対に出来ぬから、共通の規定を作り得ず、従つて、競技は出来ないのである。即ち競技をすることにより、各流の因つて生じた所の根本的特徴が消滅して、結局、流派そのものが消滅

することになるのだから武道としての日本游泳即ち各流派が競技を禁止するのは當然のことである。

この本質的の誤りを犯してゐる最も代表的のものが彼等の所謂「游泳採點競技」なるものである。これは流派の特徴を無視して、各流をごつちやにして、優劣をきめやうといふのであるから、こんな競技をやること自體が流派游泳の否定であり、従つて、武道としての日本游泳の否定である。又支重競技などといふものも、これを武道だなどといふことは全く目的をはき違へたものたわ言である。

これは物を支えて長く立泳をする競技であると云ふが、立泳の代表的のものは小堀流踏水術游泳である。これは専ら軍事に用ふる爲、修めるもので、甲冑を着たまゝで水を渡り、又は敵を射撃、射矢し、又は敵の矢をはらひ、水中にて敵に遭遇すれば刀を以つてこれを切り、又は指先をもつて敵の眼をつく爲の泳である。此處に武道としての精髓がある。勿論、この域に達する爲にその修練の段階として支重の練習をするならば意味はあるが、これで競技をやつて武道だなどと云ふのは全く見當違ひである。その誤りであることは劍道の場合を見れば、直ぐにわかる。劍道は敵を切るために劍を持つ。劍を持つからといつて、劍道とは劍を長く持ちこたへる競技であると解釋して、重い劍を作り、之を長く持ちこたへる競技をやつて、これが劍道といふ武道であるといつたらば、劍道家は何といふであらう。支重競技が武道だといふことは、これと全く同斷である。武道といふ立場を離れなければ、こんな競技が成り立たないことは、家元の小堀平七先生や、武徳會の城義核先生に伺ふまでもなく、小堀流に入門して、小堀流の ABC さへ教はれば直ぐわかることである。又、各流の古書を見れば「水に逆ふべからず、静かに泳げ」と云ふ點にもつとも力を入れて主張してゐる。これは競泳の主張とは全く相反するものである。流派游泳即ち、武道としての日本游泳は「遠く泳ぎ、長く潜り、淺く飛ぶ」ことを根本主張とするもので、一定の距離を無理をしてまで速く泳ぐと云ふ主張は絶対にないのである。クロール泳法がなかつた。内田、則末兩君の時代までは競泳には常に片拔手一重伸が用ひられたことは事實である。この泳法は水府流太田派の代表的泳法であるが、水府流太田派の家元、本田存先生はこれを競泳に用ふることは本格的の型を崩すから不可であるとはつきり弟子に教へてゐる。又平泳は觀海流の平泅をもつて代表的とするが、これも海洋乗切り等の遠泳を目的とするもので、三里の遠泳、五里の遠泳はあるが、一定

の距離を短時間で泳ぐなどと云ふことは、この根本主張と全く正反對であることは、家元の山田慶介先生が、はつきり云つてゐる。神傳流の草も、浮けば足りる心持で、長時間泳ぐことを目的とするものであることは流派の書物に明記されてゐる。日本游泳の潜水もこれと全く同様に長い時間遠い距離を潜ることを目的とするものであつて、一定距離を短い時間で泳ぐことを目的としないことはこれ又明瞭である。彼等の所謂

「體形に條件なき競泳」

に至つては、全く馬鹿らしくて話にもならないものである。

これは水上競技聯盟の自由形、國際水泳聯盟並にオリムピック競技のフリー・スタイルの直譯で、結局、一番速力のあるクロール競泳となるわけである。武道としての流派游泳にクロールの有りやうわけがなく、又、型はどうでも早ければよいなどといふことは、少くとも、武道としての日本游泳では口に出る筈のものではない。傳統的の型がなく、何處に武道たる流派游泳があるのか。型はかまわぬ、早ければよいといふ競泳が武道なら、水上競技聯盟の競泳も亦、皆武道と云はなければなるまい。游泳聯盟は今年の九月十日の競技會まで之を自由形競泳といつてゐたが、十月八日の競技會を行ふに際し、突如、「體形に條件なき競泳」と改稱した。この改稱によつて、水上競技聯盟の自由形競泳の摸倣でなくなつたと思つてゐるのであらうか。又、この改稱で一躍、スポーツから武道に轉向したと、ほんとに思つてゐるのであらうか。かうなると、もう批評の言葉さへない。

以上で、明らかなるが如く、武道としての日本游泳即ち各流派游泳は競技を嚴禁してゐるのは明瞭である。日本游泳で競泳をやることは六法を踏みながら競走するやうなもので、兩者は本質的に兩立しない。現に、競技をやつたからといつて、家元から、「流派の本格的型を崩した」と叱責された人々が水上競技聯盟の役員中に多數ある。これを知つてか、知らずか、游泳聯盟一部の人は、あれも武道、これも武道と、なんでもかでも、武道だ、武道だと騒ぎ立てて、徒らに競技をやりたいが、武道としての日本游泳の傳統的精神を蹂躪して、何等省りみる處がない。これを放置しておけば、今に武道としての、流派游泳は滅びてしまふ。過ちといはうか、愚かと云はうか、こゝまでになると黙つて見ては居られなくなつてくる

游泳聯盟顧問の辰野保君は

これを評して曰く「日本泳ぎで競泳をやらうと云ふのは、自動車でも遅い、飛行機だと云ふ時代に人力車で競走する様なもので、それ自體、三文の價値もない事だし、世間も相手にしない。同じゆつくり行くなら、駕籠で行け。駕籠なら駕籠で、又別の味がある」と。蓋し名言である。游泳聯盟の競技狂の人達よ、他山の石ではない、自分の山の石だ。よく味つて見るがよい。結局、游泳聯盟一部の人々の策動は、神宮競技大會、日本選手權大會、國際大會、極東選手權大會、オリンピック大會等に於ける水上競技聯盟の華やかにして、目覺しい活躍を嫉視して、身の程も考へずに、一途にこれを眞似やうとするものであつて、游泳聯盟の本來の目的たる武道としての日本游泳の研究、發達とか、その名聲の發揚とか云ふことから餘りに縁遠い極みである。然も、彼等はその策動に權威づけんが爲、恰も各家元の同意を得たるが如く装ひ、古武道たる岩倉流、觀海流、小堀流、神傳流、水府流太田派、水任流、野島流、水戸水府流、向井流、山ノ内流(五十音順)の全國十流を網羅してゐると僭稱してゐるが、各家元は勿論、各流派として、その傳統を無視したこんな企てに賛成する筈のものではなく、現に、彼等自身が「この企てに反對するものは、水府流二派と觀海流だけである」といつてゐるそうだが、この三流派の反對でも、古武道たる前記の全國十流を網羅してゐると云ふのは、全く虚偽ではないか。況や、他の七流宗家は、彼等を以て「縁なき衆生」として黙殺してゐるのである。黙つてゐるからといつて、賛成されたものと曲解し、これを看板するのは、流派の傳統に對しての無知か、然らずんば、羊頭を掲げて狗肉を賣らんとする類のインチキである。

水上聯盟の態度

全日本水泳の統轄代表團體たる水上競技競泳聯盟はかくの如き行動を以て、日本水泳界の統制を亂すものであり、その健全なる發達を阻害するとして、その競技會に非公認を宣し、水上競技聯盟のアマター名簿に登録されてゐる競技者の出場を禁止したのである。これは日本水泳界の健全なる發達と、競技者のアマター資格擁護に關し、責任ある水上競技聯盟としては當然にして必要なる處置であると共に、一方、各流派を本體とする游泳聯盟成立の根本義を否定せんとする行動に對する彈壓ともなり、武道としての日本游泳の墮落を防止するに有効なる處置として流派を守る人には妥當であるとしてゐる筈である。

然るに游泳聯盟の策動組の人々は、外部に對して、水上競技聯盟がオリンピックに於て、世界制覇に成功したのに有頂天となり、昔を忘れて、日本個有の武道たる流派游泳を壓迫してゐるかの如く宣傳し、「強木は風にあたる」の理を逆用して、只管、世間の同情に縋らんとしてゐるが、前記の如く、彼等の爲さんとする所は、武道としての流派游泳と全く無關係であるのみならず、反つて、その因つて立つ所の傳統的精神を無視する行爲であることが明瞭なる以上、彼等の宣傳は、全然、根據なき偽購であることは明白である。水上競技聯盟は流派游泳に對し、之を壓迫したことは未だ曾て一度も無きのみならず、之が研究、保存、發達には物質上にも、精神上にも援助を惜しまなかつたのである。大正十三年、水上競技聯盟が神宮競技を脱退した時、代つて、之を擔當した舊游泳聯盟は東京の水練場を中心とした一部の日本游泳をやる人々の集りで、競技の未だ走つて、武道としての日本游泳の傳統的精神を忘却してゐたので、水上競技聯盟は武道としての日本游泳の本質を明確にせんとして、昭和五年五月、極東選手權大會が新設の神宮プールで開かれた際、岩倉流、觀海流、小堀流、神傳流、水府流、野島流、向井流、山ノ内流の宗家に懇請し、前記八流の家元及び家元の推薦せる權威者に武道としての日本游泳を公開演武して頂いたのである。小堀平七先生が老齡で然も久しく水から遠かつてゐるに拘らず、この企に賛し「恐らく之が泳ぎじまひになるだらう」とまでいつて泳いで武道としての流派游泳の精髓を示して下さつたのは未だ記憶に新たな所である。しかるに、極東選手權大會の主催團體たる大日本體育協會は、陸上、水上、庭球、籠球、排球、野球等選手權種目の選手並びに役員には、旅費を支給するが、武道游泳の演武、體操のマスゲーム等はデモンストレーションの名の下に一括し、出場者にも役員にも一切、旅費も滞在費も支給しないことに決定したのである。當時、物質的に困窮してゐた水上競技聯盟は、武道游泳演武諸氏の旅費滞在費の捻出方法につき協議した結果、地方より上京した水上競技役員の旅費を總べて水上競技聯盟に寄附せしめ、これを以て、武道游泳諸氏の旅費並に滞在費に充てることに決定したのである。臺灣の藤本君、滿洲の小野田、宮畑兩君を初め大阪、京都、名古屋、濱松等より上京した役員は全部、日本水泳界未曾有の有意義なる企てに賛成して、その旅費を喜捨し、これによつて、演武諸氏の旅費並に滞在費は支拂はれたのみならず、この日本游泳の公開演武を機會として、水上競技聯

盟の膽入りで武道としての日本游泳の研究と發達のため前記八流の聯盟が創立されるまでの一切費用が支辨せられたのである。その上、この八流聯盟が游泳聯盟の名稱を繼稱して、現在の日本游泳聯盟を創立するや、その第一回の事業として、同年十一月三日、明治神宮十年祭奉祝日本游泳奉納會に於ける日本游泳奉納を擔當せしめるため盡力したのみならず當時、水上競技聯盟が所有してゐた神宮プールを無償にて提供した外に、演武費用として三百圓寄附したのである。財政不如意の當時の水上競技聯盟が三百圓といふ大金を出すのは武道としての日本游泳を大切に思へばこそで、見榮では出來ないことである。即ち水上聯盟は初めて、武道としての日本游泳の公開演武の機會を作り、然も、多大の物質的の負擔をなす等、なすべきことは充分の誠意と熱意を以てやつて來たのである。それを、游泳聯盟一部の人達が、水上競技聯盟は武道たる日本游泳を壓迫するが如く宣傳して、不當の同情を買はんとする所に彼等の僞瞞がある。游泳聯盟の人達は水上競技聯盟が怪しからぬなどと宣傳する前に、一體、誰が現在の游泳聯盟を作つてやつたのかを、よく反省して見る事が大切である。現在の

游泳聯盟の生みの親は

實に水上競技聯盟ではないか。以上の如く水上競技聯盟は、武道としての日本游泳の研究、保存發達を目的として、水上競技聯盟の日本游泳に關する部門を擔當して貰ふ爲に、當時の水上競技聯盟としては、むしろ不當と言はれる程の物質的負擔をしてまで、八流聯盟を組織し、且、八流聯盟と舊游泳聯盟との問題も解決して現在の游泳聯盟を組織したのである。又、神宮競技は運動競技又は體育競技を明治神宮に奉納する爲の行事であることはその創立の歴史に鑑み、明らかであるが、それだからだと云つて水上競技聯盟は武道としての日本游泳の奉納を阻止せんとする意向なきのみならず神宮水上競技大會にも極東選手權大會の時と同様演武をなし、然も、その世話は游泳聯盟に願ひしやうとまでしたのである。水上競技聯盟が日本游泳の奉納を阻止せんとするならば、多大の物質的負擔をしてまで八流聯盟や現在の游泳聯盟を造るわけではないのである。これ等の點は、游泳聯盟の巽君が充分御承知の筈である。その後に至つて水上競技聯盟が游泳聯盟に神宮奉納の世話を願ひすることが出來なくなつた理由は、舊游泳聯盟系統の二、三の人が、實際上に游泳聯盟を乗取り、新生游泳聯盟の目的を全く蹂躪し、武道としての日本游泳の傳統的精神を否定するに至つた

のみならず、水上競技聯盟との正式契約書を無視して加盟の手續を取らず、徒らに競技、競技と騒ぎ廻る様になつたので、これを放置すれば水上聯盟が自己の統制下に非ざる水上競技團體を認めることになり、日本水泳界統制の上に萬全を期し難き傾向が見えてきたからである。今後と雖も、游泳聯盟が一部の人々に引づられて、かくの如き誤りを繰返してゆく以上、水上競技聯盟としては、日本水泳界の統制上、游泳聯盟にはいかなる部門の神宮競技奉納も、絶對にお願することは出來ないのみならず、その關係するいかなる競技會にも非公認を宣し、アマタ…競技者の参加を禁止すべきことは勿論である。

僕はこの、舊游泳聯盟と現在の游泳聯盟との關係並びにこの兩者と水上競技聯盟との關係更に水上競技聯盟及び游泳聯盟と神宮競技との關係を明確にする必要を感じるので、以下この點に付いて説明する。

舊游泳聯盟と新游泳聯盟

前述の如く極東大會に於ける武道游泳の公開演武を機會として、八流聯盟が結成されたが、舊游泳聯盟は水上競技聯盟の神宮競技脱退後、代つてこれを擔當した歴史を持つてゐるので、八流聯盟が水上競技聯盟に加入した際、武道游泳の神宮奉納の擔當問題につき、兩者の間に紛叫を來たす恐れがあつたことと、いま一つは、すべての水泳團體は水上競技聯盟の統制下に置かるべきと云ふ組織の根本問題から、昭和五年の始め以來、水上競技聯盟と舊游泳聯盟とは折衝の結果、次ぎの契約書を取交したのである。

昭和五年六月十一日、游泳聯盟と右の契約書を交換した。

鈴木和志理氏より石本已四雄氏に宛てた書翰
前略昨日御話申上げ候兩聯盟間契約書作製致し二
通同封致候間末弘君と貴兄との署名あるもの一通
御郵送被下度願上候

先は爲其

六月十一日

鈴木生

石本君

契約書

日本游泳聯盟ハ左ノ條件ヲ以テ日本水上競技聯盟ニ加入スル事。

一、日本游泳聯盟ハ此際從來ノ規則ノ一部ヲ改正シ『アマター』ヲ標榜スル競技團體トナリ日本水上競技聯盟ニ於テ制定サレタル規定ニ遵フ。

二、日本水上競技聯盟ハ日本游泳聯盟ヲ以テ全國的
日本游法團體ナル事ヲ認メ其ノ範圍内ニ於テハ自治ヲ認ム。

但日本游泳聯盟ハ全國的日本游法ノ代表機關タル組織ト實質ト有スル事ヲ條件トス。日本游法ノ定義ハ日本ニ行ハレタル各流傳統的游法及ビ此等游法ヨリ誘導サレタル游法ノ意味ナリ。

三、日本游泳聯盟ハ日本水上競技聯盟ニ役員トシテ理事一名代議員五名ヲ選出スルト同時ニ日本水上競技聯盟ヨリハ日本游泳聯盟中ニ數名ノ委員ヲ選出シ役員ニ加フ。

四、神宮體育會ニハ日本水上競技聯盟ガ全日本水泳ノ統轄代表團體タル資格ニ於テ加盟ス。但シ神宮體育會評議員ノ人選ハ日本水上競技聯盟理事會ニ於テ決定ス。

五、神宮水上競技會ニ於テハ日本游法ヲ存続ス。

六、日本游泳聯盟ガ單獨ニ競技會ヲ行フ場合、自己ノ分野ニ非ザル競技ヲ挿入セン！スル時ニハ日本水上競技聯盟ノ受諾ト競技役員ノ参加トヲ必要トス。

右條項ニ依リ日本游泳聯盟ガ日本水上競技聯盟ニ加入スル事ヲ契約シ契約書貳通ヲ作製シ兩聯盟ニ於テ各壹通宛ヲ保存ス。

昭和五年六月十一日

日本水上競技聯盟

末 弘 嚴 太 郎 團

石 本 己 四 雄 團

日本游泳聯盟

千 葉 眞 一 團

鈴 木 和 志 理 團

(千葉、鈴木兩君は舊游泳聯盟の代表者であるのみならず、ハ流聯盟の組織にも参畫し、現在の游泳聯盟副會長である)

舊游泳聯盟は從來「本聯盟は游泳指導に經驗ある者を以て聯盟員となす」と規定してあつたので、その規約上、プロフェシヨナル的傾向が頗る多い個人單位の團體であつたが、この契約書に依り「今後はアマターの團體となり然も流派單位の團體となるべきことを明確にせると同時に、日本水泳界の組織上の問題では「游泳聯盟は水上競技聯盟の規定に遵ひ、全國的の日本游泳團體として、全日本水泳の統轄代表團體としての水上競技聯盟に加盟す」べきことを契約した。

神 宮 競 技

神宮競技の問題については「神宮體育會に對しては水上競技聯盟が全日本水泳の統轄代表團體の資格に於て神宮體育會に加盟し、神宮體育會評議員の人選は日本水上競技聯盟の理事會に於て決定す」と公約したのである。

この契約書に基いて、水上競技聯盟は神宮體育會に加盟し、評議員は水上競技聯盟理事會の決定により僕がなつたのである。この水上競技聯盟の處置は、曾て、神宮競技を擔當した歴史を有する舊游泳聯盟と公約した所に基いて事務的の手續きをとつたまでで、これを少くも舊游泳聯盟から兎や角云はれる理由は絶対にないのである。それを、舊游泳聯盟系の人々が「神宮競技の参加を拒んだ不信の經歷を有する水上競技聯盟に神宮の水上競技部を單獨擔當せしめるが如きは常識で到底承認し得ざる奇怪至極の處置である」といつてゐるが、前記のやうな契約をしながら、後になつて、それを兎や角いふのこそ奇怪至極で、到底常識では考へられないことである。前號でも述べたやうに、

水上競技聯盟が神宮競技の参加を辞退した

理由は大正十五年八月十六日の聲明書に

依つて、明かなるが如く

一、學生を除外して事實上、水上競技會を行ふことは不可能である。

一、明治大祭日を中心として神宮水上競技を行ふことはと第一回、第二回の實驗に徴して、氣温並に水溫の關係で、實質上、不可能である。

の二點にあり、この問題が解決するまでは、水上競技聯盟が参加しても、實際問題として、神宮競技といふ名稱に、ふさわしい競技會を行ふことは不可能であるから、この二つ問題が徹廢されるまで、参加を遺憾ながら辞退したのである。この點は、あの聲明書を見れば明瞭である。神宮競技の費用は神宮體育會の負擔で行はれ、擔當競技團體は物質上の負擔にないからといつて、神宮競技の名にかくれ、實質的に空虚な競技會をやることこそ、不信な行爲で、出来ないものは出来ないといふこと位は、識者を待たずして明かである。その後に至つて、神宮競技に關し、文部省に依つて全學生の参加が許可され、水上競技の期日の問題も、明治神宮大祭日とは別に行ふことも認められたのである。即ち、水上競技聯盟の不参加の二條件は解決されたのである。その上、神宮競技を行ふべき最も、ふさわしい神宮プールも、水上競技聯盟の手に依つて建設されたのである。かうなれば、神宮競技に全日本水泳の統轄代

表團體である水上競技聯盟は當然參加すべき義務があるといふことは誰しも痛感する所である。

昭和四年五月三日、游泳聯盟の武下君から「游泳聯盟が神宮競技で現在のやうな仕事をするのは適任でないから、第五回（昭和四年度）の會に於ては、水上競技聯盟が自由形、背泳、平泳の審判をやつてくれ」といふ提案があつた。これに對し水上競技聯盟は神宮體育會から水上競技を擔當してくれといふ話があるなら考へるが、游泳聯盟の依頼で、競技會だそのものに對し、何等關係なく水上競技聯盟が審判を引き受けることは筋違ひであるからといつて謝絶したのである。この時、神宮體育會總務委員蘆田君と同評議員山岡君が「全日本的の運動競技行事であるべき神宮競技に全日本水泳の統轄代表團體たる水上競技聯盟が參加してゐないのは神宮競技のために遺憾に堪へぬ。從來の行きさつ等は云々せず、加盟手續をとつて參加してはどうか。水上聯盟にその意向があれば自分達が盡力する。との勧誘があつたのである。これに對し、昭和四年五月二十二日、水上競技聯盟は山岡君出席を求め理事會を開いて協議した結果、

- 一、不参加の二問題が解決した以上、水上競技聯盟は參加するのが當然であり、水上競技聯盟としても、その義務のあることも認める
 - 二、併し、實際問題として、水上競技聯盟が再參加した場合、游泳聯盟との關係が面倒であらうから、水上競技聯盟としては、この點が明確になつた上でないと無理をしてまで、入りたくない。
- といふことに意見が決つて、山岡、蘆田兩君には回答したのである。

同年六月六日、山岡君より神宮體育會總務委員會の意向として「水上競技部を第一部と第二部に分ち、國際的の種目を水上競技聯盟が擔當したらよいと思ふ。第一部、第二部は同一期日にやるやうにして貰ひたい、これに對する水上競技聯盟の具體的意見を提出してくれ。その上で神宮總務委員會は協議する。といふ申出があつた。水上競技聯盟は同日直ちに山岡君出席の上で、理事會を開いて協議した結果、

- 一、一部、二部の何れを水上競技聯盟がとるかなど名前はどうでもよい。又期日を連結せしむることもよいが、水上競技聯盟擔當競技會の日は游泳聯盟とは絶対に別にすること。
- 二、水上競技聯盟がやる以上、主催權と審判權兩方を貰ふこと。
- 三、水上競技聯盟擔當の競技は水上競技聯盟の規定

に従ひ、種目も之に従ふ。

の三條件が認められれば神宮競技に參加すべき旨を回答した。同年六月十一日、蘆田君より「水上聯盟は一度、神宮體育會から脱退したのであるから、一應、形式的加盟申請をしてくれ。現在、游泳聯盟が入つてゐるが、神宮體育會が水上競技聯盟を加盟せしむる所以は、全國的權威ある團體が參加しないのが残念であるからである。」といふ返事があつた。依つて水上競技聯盟は加盟申請をなし六月十九日の總務委員會で水上競技聯盟は神宮競技に再び參加し、水上競技第二部として、水上競技聯盟規定による一般競技及び、海軍競技並に青年團競技を擔當することになつたのである。この當時の経過は蘆田、山岡兩君に聞けば明であるのみならず、水上競技聯盟にも詳細なる議事録が保存されてゐる、かくの如くして、第五回神宮水上競技大會は第一部、第二部で行はれたのである。その後、昭和六年、極東大會の際、八流聯盟の成立せんとするや、從來、神宮競技を擔當してゐた舊游泳聯盟は同年五月十一日、前記の契約書に依り、水上競技聯盟が全日本水上統轄代表團體の資格に於て、神宮體育會に正式加盟することを公約したので、昭和六年、第六回神宮競技から一部、二部の制度が徹廢され、總べて、水上競技聯盟の責任に於て、

- 一、一般競泳
- 二、飛込
- 三、水球
- 四、海軍競技
- 五、青年團競技
- 六、日本游泳として行はれたのである。

これは第六回神宮競技のプログラムを見れば明である。

現在の游泳聯盟

次に現在の游泳聯盟は昭和五年十一月三日に創立されたものであり、舊游泳聯盟とは全然の別個の團體であることは次の書面に依り明である。

拜啓 秋冷之候愈御適奉賀候陳者來ル十一月三日
明治神宮鎮座十年祭當日ヲ期シ日本游法武道ノ形
奉納其ノ他ノ游泳大會終了後日本游泳聯盟發會式
ヲ舉行續イテ聯盟懇親會左記通り相催候ニ付テハ
何卒御臨席ノ榮ヲ賜度此段御案内申上候 敬具

昭和五年十月二十九日

日本游泳聯盟創立委員代表

千葉眞一

松澤一鶴殿

記

午後六時ヨリ京橋際第一相互館七階東洋軒、追而
御來否ハ乍御手数同封葉書ヲ以テ御一報願上候

然るに游泳聯盟は昭和五年六月の契約書を無視して、水上競技聯盟に加盟しない理由として、契約書を交換した舊游泳聯盟と現在の游泳聯盟とは全く別個の團體であると言明した。そこで、神宮體育會から「游泳聯盟は曾て水上競技聯盟脱退後、神宮競技を引き受けた義理があるから、何とかして神宮競技に参加出来るやうに水上競技聯盟に話してやらうと思つたのだが、別の團體であるのなら神宮體育會として何の義理も恩もない。神宮水上競技は一切水上競技聯盟に委任してあるのだから問題にすまい」といはれたので、狼狽して「組織は擴大されてゐるが舊游泳聯盟と現在の游泳聯盟とは同一團體である」と前言を翻した。両者が別個の團體であることは前記書面で明であるが、若し同一團體であるならば、昭和五年六月の契約書をどうする積りであるのか。署名捺印のある契約書が口頭で然も一方的に破棄出来ないことは敢て三百代言の智慧を借らずとも法治國では法律に依つて規定された事實である。そんな言ひ逃れは少くも日本では通用しないのである。又游泳聯盟一部の人々は水上競技聯盟が無關係な游泳聯盟の競技會に非公認を宣するのは奇怪であると云つてゐるさうだが、水上競技聯盟は大正十四年、大日本體育協會組織變更以來、全日本選手權大會の主催を繼承し、實質的には全日本水泳の統轄代表となつたが、昭和五年、アムステルダムに於ける國際オリンピックを機とし、全日本水泳の代表權を體協より讓渡され、全日本水泳の統轄代表團體(Governing Body of Swimming Diving and Water polo)として直接國際水泳聯盟に加盟し茲に名實共、全日本水泳の統轄代表團體となつたのである。オリンピックを初め如何なる國際水泳大會も水上競技聯盟の證明したアマター競技者以外には参加出来ないのである。依つて水上競技聯盟としては、自己に無關係なるものの主催する競技會の責任まで負ふことは出来ないで、これに對しては非公認を宜し、アマター競技者の出場を禁止するのは、アマター資格の擁護の爲必要にして缺くべからざる水上競技聯盟の當然の職責である。これを不思議がるのは、自己の運動競技團體の組織に關する無智を暴露するだけである。游泳聯盟では水上競技聯盟が兩者は全然別個の團體であると云ふことを認めたと云つてゐる。そうであるが、それは游泳聯盟が昭和五年六月の契約書を無視し、加盟の手續きをとらず、昭和五年十二月三日、「日本水上競技聯盟は日本游泳聯盟が本邦固有の游泳各流を以つて組織する武道團體たると共に、日本游泳競技を擔當する競技團體たることを認

め、日本游泳聯盟は從來日本水上競技聯盟の非公式たる分野を認む云々」と云ふことを認めてくれと云ふ申出が游泳聯盟からあつたので、水上競技聯盟は直ちに「競技團體たるが爲めには昭和六年の契約書により全日本水泳の統轄代表團體である水上競技聯盟に加盟しない限り、水上競技聯盟としては游泳聯盟を競技團體と認めるわけには行かぬ。游泳聯盟が、どうしても水上競技聯盟に加盟しないと云ふならば、水上聯盟としては游泳聯盟は本邦固有の游泳各流の團結たる武道團體であつて、運動競技團體にあらずと認める外はない。と返事をした。それ以後も水上競技聯盟は日本に於ける競技者の大半を有する全國學生競技聯盟と同等の待遇をすゝめまで誠意を披歴して加盟をすゝめたが、游泳聯盟は加盟手續をとらないのである。游泳聯盟が加盟しないと云つても日本水泳界の大した問題でもないで、水上聯盟はその後積極的交渉をうち切つたのである。依つて水上競技聯盟としては無關係な游泳聯盟の主催する競技會までの責任を負えないので、これを非公認を宣し競技者に注意を與へるのである。これは水上競技聯盟の職責上當然の處置である。又游泳聯盟では「今年の神宮競技に關し水上競技聯盟にその要求を提出したが、水上競技代表の神宮體育會評議員は即坐にこれを峻拒した」と云つてゐるさうだが、そんな事實は絶対にない。本年のシーズン始めに游泳聯盟の代表者と稱する成富君に面會を申込み、一度は同君の事務所で、二度目は水上競技聯盟事務所で會つたが成富君は神宮競技の事には一言もふれなかつた。二度目の時、僕の方から「君は神宮競技の事で何にか游泳聯盟の要求を持つて來たのだろう。はつきり云つて見給へ」と云つたのである。これに對し成富君は「いや、そんな問題は枝葉末節である。僕もつと大乘的な、泳ぎの根本問題を話しに來たのである」と云つた。この時は水上競技聯盟の松澤名譽主事、鶴岡常務理事も居合せて知つてゐる事である。それを成富君が「要求を出したが即座に峻拒した」などと游泳聯盟に報告したとすれば嘘をついたので實に不埒千萬であるが、僕は成富と云ふ人をそんな嘘をつくような下等な人間とは思ひ度くない。なにか游泳聯盟の人達の聞き違ひであろうが、もしそんな事を成富君が云つたと云ふなら、僕は松澤、鶴岡兩君立會ひの上で、何時でも面罵してやる。この成富君と二度會つた以外は僕は勿論水上聯盟の役員は誰れも游泳聯盟からいかなる申込も要求も受けてゐないのである。要するに游泳聯盟の言分は全然誤謬の上に立つた根據ない妄言で全く取り上げる

価値のないものである。現在の游泳聯盟がこんな二三の人の妄動に引きづられてゐるとすれば水上聯盟としては交渉の餘地はないのであるから、今後は直接各流派宗家を對照として話を進めて行く外仕方がないと思ふ。神宮競技に各派游泳の奉納をすることはたしかによい事であると思ふが、そうかと云つて徒らに功をいそいで、無定見なる一部策士と妥協することは日本水泳界の將來の爲に禍根を残すことになるからゆつくりと各流派そのものと懇談して可及的に速くその實現を期するのが、水上競技聯盟のとるべき道であると思ふ。水上競技聯盟の理事者も僕と同様の見解を持つてゐることは勿論である。

神宮體育會決議

次に游泳聯盟の行動に對し神宮體育會としては昨年十一月一日の評議委員會で游泳聯盟の加盟申込みはこれを否決すると同時に今後明治神宮の名を冠して體育大會、競技大會、奉祝大會等を行ふことは明治神宮體育會創設の主旨に反し、體育競技統制上尠らず支障を來たす爲、かかる競技會は本會及び關係官廳に於て嚴重にとりしまると共に、この種の競技會は明治神宮體育會の諒解を得るにあらざれば舉行し得ざることに決議したのである。この評議委員會の席には文部省、内務省、陸軍省、海軍省、東京府、東京市、明治神宮、神宮外苑監理署の各代表者も列席して、これに賛成の決議をしたのである。その上、平沼副會長、岩原總務委員はこの決議をもたらし神宮宮司、監理署長を訪問して諒解を得た結果この種の競技會には神宮外苑の使用は許可せざることに決定したのである。ついで本年九月六日總務委員會に於て游泳聯盟が神宮競技第一部水上競技大會を十月八日神宮外苑プールに於て舉行すると云ふ申出ではこれを許可せざると同時に外苑監理署にプールの使用を拒絶することに決定したのである。同じく九月廿一日神宮評議委員會に同問題について協議した結果總務委員會の決議を承認し游泳聯盟の申出では許可せず水上競技に關してはこれが擔當團體であるからして水上聯盟の處置に一任することに決議されたのである。

従つて十月八日、游泳聯盟が舉行する筈の神宮奉納なる名稱を冠した競技會は開催不可能となつたのである。この神宮體育會の處置は同會創立の根本義に照らし當然なる處置である。

結 び

最後水上競技聯盟の神宮競技脱退問題に關し游泳

聯盟がとやかく云ふ権利はないが、たゞ、文部省の神宮競技に對する壓迫の激げしかつた當時、よくこれと戦ひぬいて、神宮競技の繼續を死守してきた處の神宮體育會の平沼副會長、河本、宮木、蘆田諸君が「神宮競技の危機に際して水上競技聯盟が脱退したのは、自分たちの仕事に對し非常な打撃であつた。實に怪しからん」と云ふならばその言に對しては水上競技聯盟としては敬意をもつて聞くに吝ならざるものである。然し當時の水上競技聯盟としては「日本水泳の普及發達の爲には是非ともオリンピックに勝つと言ふことが、第一前提である」と云ふつきつめた氣持が一杯で、神宮競技に對する文部省の處置にまで、口を出す餘裕はなかつたのである。ロスアンゼルスズのオリンピックに際し米國の全新聞紙が、日本水泳の優勝はその統制の結果である」と言つた記事と、在米同胞が「自分達は汗の結晶であつた土地は白人に奪れ道を歩けば石をなけられ、食堂に入らんとすれば戸を閉ざされ、二十餘年間日本人であると云ふことの出來ぬ境遇にゐるのである。それが今日、水泳が優勝してくれた爲二十餘年にして始めて、米國の道路の眞中で、俺は日本人であると大聲で叫ぶことか出來だ。そして白人からはお前は日本人か、お目出度うと握手してくれる。こんなうれしいことは米國へ渡つて以來、否、生まれ以來始めてである。今日始めて日本人であることを有難く思ふ」と泣いて語つた言葉を以つて、水上競技聯盟のつた一筋の態度は決して悪かつたとは思つてゐない僕等の心持も諒解して欲しいのである。終り

松澤主事の講演旅行

松澤主事は昨年末も五十餘日に涉つて各地を廻りオリンピック映畫公開並に講演旅行をしたが、今回更に前同行かなかつた北海道、北陸方面に出かけた。

11月9日	札幌 公開 (豊平館)	600人
10日	小樽 高商 (講堂)	500人
	小樽 一般 (市役所)	800人
11日	北 大 (講堂)	500人
	J O I K より放送	
12日	定山溪プールにて講習	300人
13日	旭川中學 旭川商業 旭川師範	
	旭川 一般 (市役所)	400人
15日	函館 公開 (市民館)	800人
16日	函館 高女 (湯川溫泉プールにて講習)	100人
77日	秋田 公開 (師範講堂)	300人
18日	山形 公開 (第三小學)	800人

第一回 女子 關東中部關西對抗水上競技大會

關西二百二點にて優勝

關東選手監督 中川チエ子

待望久しきに亙つた眞に統制ある女子のみの競技會も、漸く今夏實現の運びに至り、その第一回が日本水上競技聯盟及び名古屋體育協會主催の下に、名古屋振甫プールに於て華々しく舉行せられた。

各地方の豫選をパスした五十餘名の代表選手。出場延人員百餘名。世界新記録一、日本新記録七。と云つた前提だけでも今度の大會の素晴らしさが充分に窺ひ知られる。戦前既に三部の勝敗は定つてゐた様なものゝ、この大會の興味はオリンピック選手松澤、荒田、横田、守岡、鎌倉に新進中村、竹村等を網羅した粒揃ひの關西軍の堅陣に、どれ丈け中部軍が前畑、小島、鹽見等をよりよく有効に働かして肉迫するか、その間に介在する關東軍が、優秀なる飛込選手と協力しての得点上の食ひ込み如何が問題で在つたと同時に強豪前畑の世界記録への躍進、小島、守岡に對する新人、竹村、鹽見の強氣、一時沈黙の裡にあつた松澤の五十米新記録目指しての返り咲き等々。團體對抗競技として觀るよりも寧ろ個人競技に切り離して觀る時に尙一層の面白味があつた様だ。自分として二三氣の付いた事を記して見やう。劈頭三百米メドレーレーに於ける中部は一番の小木會を四百リレーに使ふべく休息させ、吉田を起用すべきではなかつたらうか。その方が兩種目ともに中部の勝因をつくりはしなかつたらうか。四百リレーに於て、猛烈な守岡の追泳から、必死に逃げてゐた小木會の努力は、全く涙なくしては見られなかつた。

百米では首位から八位迄殆んど二十秒を切つてゐる有様であつた。今少しの研究と努力とで世界的レベルへの向上が約束されるであらう。一線になつてゴールへ雪崩れ込まれた時は、全く甲乙のつけ様もなかつた。

比較的進歩の遅い背泳も、五十米に於て二年振り

の新記録が得られた。横田の元氣なものには本當に感服してゐる。然し何時までも横田一人に背泳を泳がしておくわけでもあるまい。有望な新進が澤山居るのだ。百米に於ける三十秒臺の扉を一日も早く解放して頂きたい。

前畑の世界記録樹立に對しては只々感謝と感激の念のみ。嘗て前畑を懸命に追つてゐた山田（愛知一女）の引退後の平泳界に、久原、中村の擡頭は誠に祝福に堪えない。

東部選手の不振は、その多くが初めてこの遠征であり、加ふるに自己の力量と記録とに自信が持てなかつたところに大なる原因を置いて居る。今回は單に來年、再來年のための練習戦と云ふ形に終つて了つた。しかし河村、増山の頑張りは、その將來に大きな期待を残して呉れた。

飛込競技は何と云つても高飛込、飛板飛込ともに堅實味は關東軍にあつた。西部軍の香野の元氣さ潑刺さは、その無鐵砲さと共に大いに今後を期待させられた。希くは中部よりも飛込選手の参加を近い内に見たいものと思ふ。

今回の大會は得點争ひを基礎として觀る時は比較的興味が薄い様であつたが、今後三部の力量の平均する様になつた暁には、年々異常な興奮と刺激とを喚起し、記録の更新に暇がなくなり、漸時世界のレベルへ到達するのも遠からぬことになることと思ふ。

この一事からのみ見ても、この競技會の開催並びに發展は誠に意義深いものである。

又日本女子水泳界の發達に伴ひ、今後のこの大會を單なる三部對抗にのみ終始しないところの、名實共に兼備えた全日本女子大會たらしめたいと望んでゐる。遠く南は臺灣、九州、北は北海道、亦朝鮮から迄も馳せ參ずる程のものが一日も早く現れるやう切に祈つて筆を措く。

競 技 記 録

(○印は日本新記録)

昭和八年九月三日 氣温 30° 水温 27.5

名古屋市振甫プール (50米)

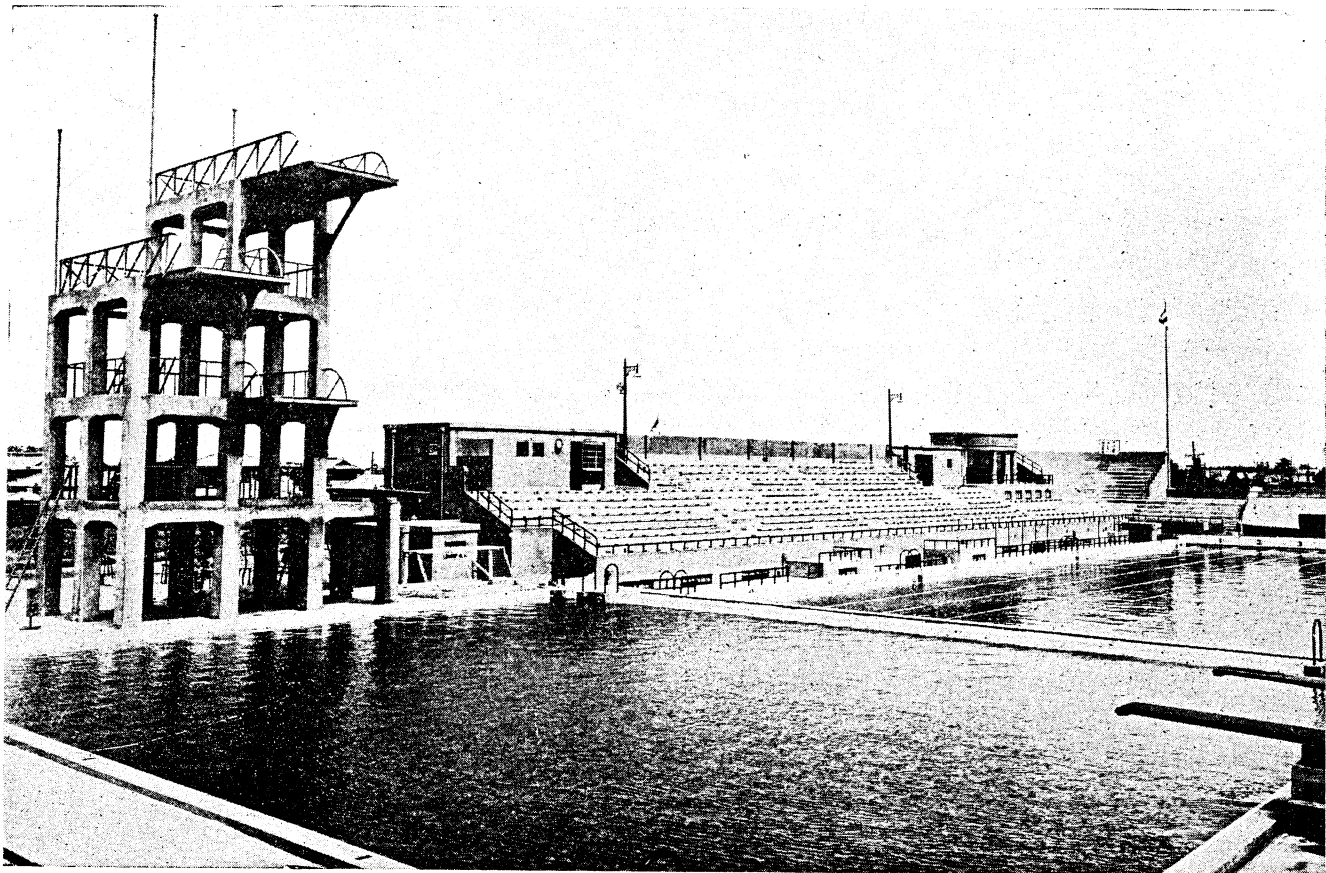
50米自由形

- 1. 松澤初穂(西) 32.2
- 2. 横井キヌ(西) 33.6

- 3. 鹽見梅子(中) 33.8
- 3. 荒田雪江(西)
- 4. 渡部こまつ(中)

プール巡り (その四) 名古屋市振甫游泳場

(日本水上競技聯盟公認)



游泳場概要

位置 名古屋市東区千種町字振甫

所屬 名古屋市

構造 競泳プール

長さ50米 幅22米 9コース(巾2.2米)
水深 両端1.5米 中央部2.2米
鉄筋コンクリート造 側壁上部白色磁器タイル、下部白色セメントモルタル、底部普通モルタル仕上、コース中央に黒色タイルを一枚連ね水路標示。

水中照明 両側壁6米間隔に500ワット水中照明器一個宛。

飛込プール

長さ21米 幅17.4米
水深 周囲稍浅く中央最深部5米
飛込臺 10米、7.5米、5米高飛込固定臺3米、1米(2個)飛板

側壁、水中照明等は競泳プールと同様なるもコース標示線なし、又水底に地下水浮

力に対する安全瓣6個設備

練習プール

長さ25米 幅20米

水深0.6米乃至1米の二段に調節可能

入水 名古屋市水道本管より各プールに200耗管二本(練習プール150耗管)により水道浄水を入水、尚配水池の餘水利用

排水 自然排水

殺菌 鹽素消毒

観覧席 競泳、飛込の二プールを巡り、西側をメインスタンドとし、約3000人收容、北隅に貴賓席を設く。一般観覧席は競泳プールの北東側及び飛込プールの東南側を圍ひ約5000人收容。

その他 メインスタンド下には、切符賣場、更衣室シャワー室、浴室、選手控室、醫務室、役員控室、事務等の設備あり。

6. 佐々木 浅子 (東)
 7. 時田 静子 (中)
 8. 須藤 光代 (東)
 9. 川田 泰代 (東)
- 得点 東 中 西
7 15 24

100 米 自由形

1. 小島 一枝 (中) 1.15.2
 2. 守岡 初子 (西) 1.16.8
 3. 鹽見 梅子 (中) 1.17.0
 4. 松澤 初穂 (西)
 5. 河村 静子 (東)
 6. 横井 キヲ (西)
 7. 増山 ちせ (東)
 8. 渡部 こまつ (西)
 9. 佐々木 浅子 (東)
- 得点 東 中 西
9 19 18

400 米 自由形

- 1. 守岡 初子 (西) 5.55.2
- 300 米正式計時
- 守岡 4.22.8
 2. 小島 一枝 (中) 5.57.0
 3. 竹村 令子 (西) 6.29.8
 4. 河村 静子 (東)
 5. 大澤 安子 (西)
 6. 府中美津子 (東)
 7. 木全美佐子 (中)
 8. 西尾美惠子 (東)
 9. 大倉 厚子 (中)
- 得点 東 中 西
12 12 22

50 米 背泳

- 1. 横田 操 (西) 39.4
 2. 吉田 文子 (中) 40.8
 3. 竹村 令子 (西) 41.6
 4. 菱木 ふさ子 (西)
 5. 小木 曾治子 (中)
 6. 大木 櫻子 (東)
 7. 鈴木 澄子 (中)
 8. 永井 千鶴子 (東)
 9. 藤田 芳子 (東)
- 得点 東 中 西
7 16 23

100 米 背泳

1. 横田 操 (西) 1.28.8

2. 吉田 文子 (中) 1.32.8
 3. 竹村 令子 (西)
 4. 小木 曾治子 (中)
 5. 菱木 ふさ子 (西)
 6. 鈴木 澄子 (中)
 7. 大木 櫻子 (東)
 8. 永井 千鶴子 (東)
 9. 藤田 芳子 (東)
- 得点 東 中 西
6 18 22

100 米 平泳

- 1. 前畑 秀子 (中) 1.27.0
 2. 中村 芳江 (西) 1.33.4
 3. 眞下 京子 (西) 1.35.0
 4. 久原 菊子 (西)
 5. 浅井 品子 (中)
 6. 柳下 治子 (東)
 7. 小島 千代子 (中)
 8. 原 日出子 (東)
 9. 盛 多賀子 (東)
- 得点 東 中 西
7 18 12

200 米 平泳

1. 前畑 秀子 (中) 3.05.2
(世界長水路新記録)
 2. 中村 芳江 (西) 3.20.0
 3. 久原 菊子 (西) 3.21.6
 4. 浅井 品子 (中)
 5. 眞下 京子 (西)
 6. 原 日出子 (東)
 7. 盛 多賀子 (東)
 8. 齋藤 房江 (東)
 9. 小島 千代子 (中)
- 得点 東 中 西
9 17 20

400 米 リレー

1. 中部 チーム {鹽見 小島 渡部} {小木 曾治子} 5.10.2
 2. 西部 チーム {横井 松澤} {守岡 荒田} 5.10.2
 3. 東部 チーム {増山 佐々木} {須藤 藤河 村} 5.31.4
- 得点 東 中 西
1 10 5

300 米 メドレーリレー

1. 西部 チーム (横田、眞下、荒田) 4.18.2
2. 中部 チーム (小木曾、前畑、鹽見) 4.18.4
3. 東部 チーム (大木、原、増山) 4.44.6

得点 東 中 西
1 5 10

飛板 飛込

1. 香野 夫佐子 (西) 49.94
 2. 大澤 政代 (東) 48.02
 3. 鎌倉 悦子 (西) 46.76
 4. 林 悦子 (東) 46.22
 5. 島崎 惠美子 (東) 41.30
 6. 横山 岡子 (西) 33.94
- 得点 東 西
19 21

高 飛込

1. 島崎 惠美子 (東) 29.22
 2. 大澤 禮子 (東) 28.86
 3. 横山 周子 (西) 27.68
 4. 林 悦子 (東) 26.50
 5. 鎌倉 悦子 (西) 25.58
 6. 香野 夫佐子 (西) 24.38
- 得点 東 西
24 16

得点合計

	東部	中部	西部
50自	7	15	24
100自	9	19	18
400自	12	12	22
50背	7	16	23
100背	6	18	22
100平	7	17	22
200平	9	17	20
400リ	1	10	5
300メ	1	5	10
飛板	19	0	21
高飛込	24	0	16
計	102	130	202



水 球 の 研 究 (一)

時 任 嚴

今後の技術進歩の方向に就いて

オリンピックを中心としての「水球の研究」は、前號を以て一先ず終つたわけであるが、水球のこれまで發達して來た跡より推して、今後その技術が如何なる方向に進歩して行くであらうかと云ふことは、臆氣ながら察し得られるのであつて、又他の競技の技術の進歩變遷の歴史と比較する時、より判然と想像することが出来ると思ふ。そしてこのことは云ふまでもなく非常な冒険ではあるけれども、若し此の判断にして多少でも正鵠な所があるならば、水球競技の今後の進歩發達に貢献する所少くないものがあらう。筆者は固より淺學非才、斯くの如き過大なる收獲を豫期する事業を計劃するに適しないが、その結果の成否は暫し問わぬとして、その企畫の無意義ならざることを思ふて、此の冒険を敢えて試みてみたいと思ふ。先輩同好諸氏の御批正を願ひたい。

一、競技の組織化

水球は歐洲に於ては相當にシステマテックな發達を遂げてゐるが今後益々この傾向が強くなるであらう事は明かに看取される。優勝したハンガリー選手が語つた如く、ドイツ選手は水球の三要素の内グッド・スキム (good swim) とグッド・テクニク (good technique) を有する點に於て寧ろハンガリーに優れてゐたにかゝらず、ハンガリーの最も得意とするグッド・タクテックス (good tactics) に於て斷然劣つたが故に優勝を逸したのであつて、然もこの事は、現在に於ては獨りハンガリー選手の言葉ではなくして、寧ろドイツ水球界に於て盛んに稱へられてゐる事は注目すべきことである。彼等はオリンピック敗戦の原因を具さに研究した結果、識者の意見はハンガリーの云ふ所謂タクテックスに缺陷ありし事に一致し、その後非常なる熱心さを以てその研究に没頭し、既にその結果が二三の書物となつて發表されてゐるときいてゐる。既にオリンピックの勝敗はタクテックスが支配したと輿論は一致してゐる

のである。然も優勝者ハンガリーは、早くも次回オリンピックのメンバー選抜を終つて、合同練習を開始した由であり、ドイツの次回に對する準備も既述の如く、又これらの二國と常に國際試合を行ふ便宜を有する他の歐洲諸國も前記二國にそれ程後れてゐるとは考へられない。従つて次回オリンピックの水球試合は今回よりも、タクテックスをより重視するであらう事は誰にも明かに想像されるのである。

扱てそれならばタクテックスとは如何なる事を云ふのであらうか。タクテックスの譯語は策戰であるがヨーロッパ水球界に稱へられてゐるタクテックスの意味は策戰なる譯語では餘りに意味が淺すぎる。彼等の云ふタクテックスとはシステマテック・チーム・プレーの意味で、換言するならば、チームはコーチの意圖に従つて、整然たるシステムと策戰の下に訓練され、ゲームすることを意味するのであつて、單にゲームに臨んでの策戰と云ふよりも、寧ろより廣義な、平常の訓練に重點を置かんとするものである。即ちコーチが必要なる人員を選抜し、これに必要なテクニクの訓練を加へ、成員に適したるフィールド・プレーを選び、且つ豫習し、訓練し、斯くしてこれをゲームに實用せんとするのが、洪獨の所謂タクテックスなのである。最も好き例を求むるならば、艦隊司令官の策戰と云ふよりも、軍令部の平常よりの策戰に比すべきであらう。そしてこれは他の團體競技と比較する時は、より判然する。即ち、野球に於ても、練習時には凡ゆる場合を豫想して、各場合に應じた防禦法或ひは攻撃法を平常より練習し、試合時にはその場合に應じて殆んど練習の型通りを行ふに過ぎないのである、練習時の型を文字通り行ふものにアメリカン・フット・ボールがある、ラグビー、バスケット・ボールは平常練習するフォーメーションを試合時には、多少融通付けて居るに過ぎない。バスケット・ボールに於ては「獲得された習慣の競技」と云ひ、ラグビーに於ては「練習時に良い癖を付ける時は、ゲームにそのまゝの良い癖が出てチャンスになる」と云ふ。これらは皆タクテックス遂行の最

大條件が平常の練習にある事を云つてゐるに外ならぬ。そして癖或ひは習慣を付けるのがコーチであり、プレーヤーは付けられる側なのであつて、このコーチとプレーヤーとの両方面を同時に果す事は、人力の範囲内では不可能な事であるから、團體競技には専任コーチが必要不可欠となるのである。斯くして凡ゆる團體競技は、進歩するに従つて、無秩序より組織的に進み、益々システムテックに進歩してゐるのが現状と云へる。ハンガリー、ドイツ水球関係者の云ふタクテックスとは以上の事を意味するのであつて、個人技術は既に進歩の餘地なしとさへ思われる洪獨水球の現状に於ては、次回オリンピックにてのタクテックスの争ひこそ、最も興味ある問題と云ふべきであらう。

日本水球選手が個人競技たる競泳出身者の多いのも、團體競技に対する理解の少ない原因の一つであるかも知れぬ。然しながら野球、ラグビー、籠球、サッカー等の他の團體競技に於ては可成高度にシステムテックな發達を遂げてゐるのであるから、獨り水球に於てのみ、その發達が進まぬ筈はないであらう。要は関係者の覺醒が早いか遅いかによつて進歩の遲速があるのみである。システムテックな練習、そしてタクテックの研究、この事を蔑にしては日本水球の將來は期待する事が出来ない。器用さとスピーディーな事は日本の一二優秀な選手は既に洪獨の選手に大して遜色のないまでに上達しており、又素質に於ては日本の水球は彼等と十分對抗し得る多くの未完成な有望なプレーヤーを有してゐる。唯足らざることは「組織」である。システムテック・チーム・プレーに対する正當な理解である。我々は歐洲の水球関係者がグッド・システム、グッド・テクニク、グッド・タクテックスを水球の三大要素と稱して重要視してゐることを忘れてはならぬ。そしてこれらの三要素は、チーム・プレーとしてのシステムテックな訓練によつてのみ、初めて獲得され得るものなのである。

斯くして總てが水球技の本質に目醒めた後は、練習方法、或ひは競技者のゲーム、練習に対する態度は當然變化する筈である。先づ競技者は練習時、試合時の別なく、技術上の事は總べてコーチに信頼してその統制に服従するようになるであらう。又練習の方法も一定の形式を備へるようになるにちがひない。水球に用ひられる技術は個人技術、連絡技術とも可成多い。そしてそれらの一つ一つに上達するためにも各々異つた練習方法があるのである。その内には毎日缺かさず行わなければならないものがあり

或ひは、一つの目的を達せんがために或る豫定した期間だけ行ふべき練習もある。これらをコーチが豫定した計畫のもとに適當に案配、配列しその統制のもとに整然と組織立つた練習をするのが、所謂システムテック・トレーニングであつて斯くしてこそ始めて優れたプレーヤーと、均齊のとれたチームとを養成することが出来るのである。

(以上の如き議論は他の團體競技関係者、或ひは他競技ならずとも歐洲の水球関係者に示すならば、當然過ぎる程の當然なことのみにであるから、幼稚な議論として恐らく問題にされぬであらう。然しながら斯くの如き當然な筈のことを眞面目に論議しなければならぬのが我が國水球界の現状である。既に先人が今迄に苦闘して、失敗した明らかな經驗を今更繰返えし味わふ必要はどこにあるか。進歩は先人の經驗を土臺として反省改善する所から生ずる。此を何回でも繰返えすことは進歩の停滯であり、時間と精力の勞費に過ぎない。世界の輿論とも大勢とも云ふべきタクテックスを依然として輕視し、システムテック・トレーニングを無視せんとする現在の傾向は日本水球界のために速かに脱却しなければならぬ迷蒙である。これは我等當事者の反省の足らぬ故か。それとも一般の研究不足のためか)

二、攻撃方法

攻撃側が或る新しい攻撃技術(甲)を用ひ始めれば、暫らくはその技術は暴威を振ふが、防禦側がそれに慣れ、その防禦法を知るようになれば、(甲)技術は全たく威力を失ひ、止むなく攻撃側が研究の結果、新技術(乙)を發見して暫らく防禦側を苦しめ、再び防禦側が(乙)技術に慣れるや、攻撃側は今度は又(丙)技術を發見すると云ふ風にして攻防両者が交互に優勢な時代が出來、斯くして技術の進歩して行くのが、凡ゆる球技の技術進歩の歴史である。野球に於ても曲球の新發見は一時、打者を非常に無力ならしめたが、やがて曲球に慣れて、どしどし打ち得るようになれば、投手側はチェンジ・オブ・ベースと直曲球混用、球道の變化等によつて打者の銳鋒を防ぐようになつた。ラグビーに於ても各種の斯くの如き例を擧げ得る。籠球は凡ゆる點に於て甚だしく水球に酷似しており、理論上、技術上共に甚だ進歩してゐるのであつて、現在までの水球の技術は籠球の進歩して來たと同じ道を辿つてゐると思われる節があり、今後の進歩も、同じ道を追ふのではないかとさへ思はれる。それ故この兩者の技術進歩の過程を

比較しつつ、水球の將來進むであらう技術の方向を想像する事は必ずしも無駄でないばかりでなく、甚だ興味深く、且つ價值ある事のように思われるのである。

籠球に於ては水球の停止前衛に相當するものが、ゴール下にハングして強引に得點した時代があり、ガードがそれに慣れて威力を失つた後、同じ位置に居りながら現在の如くキーマン (key man) として、主にバスの中繼者の役目に従事する時代となつた。水球の停止前衛はこれと同じ経路を辿りつゝある。飯田氏のお話によれば第九回アムステルダムオリンピックに於てはゴール前に停まつてゐるフォワードは全然認められなかつた由であつて、して見れば停止前衛はそれ以後に現われたものであろう。であるから、それまでの水球は日本の昨年までの如く完全な every man mark で二人づゝがつしり組合つて、動き暴れつゝ試合してゐたものと思われる。そして防禦側がこれらの個人技術の防禦に熟達して、攻撃側は攻あくむ結果となり、攻撃方法の行詰りを來し、悩み研究して停止前衛の強引攻撃方法の發見となつたのであろう。この停止前衛の強引攻法は一時猛威を振つたであらう。何となればこれにはタックルも利かず、キーパーも役に立たず、熟練した停止前衛には球を持たせてはその瞬間、防禦側は負となるからである。然しながらこの強引攻法は防禦側の慣れるに従ひ、又ガードがキーパーと協力して、ボールを持たせぬ事により、その威力を制限することが出来る。これは我々の特に經驗して來た事であつて、最初は手も足も出ない程蹂躪され、殆んど無力に近かつたものが、終り頃多少慣れて來てゐた事でも明かである。第十回オリンピックはこの停止前衛の強引攻法に對する研究も完成し、やうやくその威力の減じつゝあつた時のように思われる。そして米國は未だ悟らずして、全然強引に重きを置き、ドイツ、ブラジルはやゝコンビネーションの必要を感じ、ハンガリーは強引攻法の缺點を悟つて全然攻法を改め、停止前衛の位置的に優れた點を利用してバスの中繼者即ちキーマン (key man) として活用し、コンビネーションを最重要視した事は前々號「前衛攻撃システム」の所に詳述してある通りである。そしてハンガリーの停止前衛使用法が最も進歩したものであることは前述の籠球の事を述べた所と思ひ合はず時は一そう明かとなるのであつて、今後は獨・米の停止前衛もハンガリーの如く key man として活用するに至るであらう事は必然的と云へる。

水球の防禦法は原則としては總べて every man

mark であるが攻撃側が種々個人技術を研究し發見するに従ひ、防禦側も對策を研究して現在に於ては兩者共個人技術に於ては進歩の飽和點に達したのではないかと思われる状態であり、その結果防禦側は總べての個人的攻撃技術の對策を研究し盡して、餘程の實力の懸隔か或ひは失策のない限り、用意の整つた後は、如何なる個人攻撃技術をも防ぎ得ることゝなつた。こゝに於て攻撃側が何とか新境地を開拓しなければならなくなつたのが現状であると思われる。こゝに停止前衛の使用法は多少の波紋を投じたが、これとても十分な効果を擧げ得ずして威力を失ひつゝある。斯くの如き時に當り局面を打開するに足りる有力なる二手段が現われた。一つは敵攻撃のボールを奪取した瞬間相手の未だ防禦の準備のない内に攻抜いてしまふ、所謂「速攻法」であり、今一つは團體的の綜合した力を以て、個人の力足らざるを補わんとするもの、即ちコンビネーションをより重視し、より積極的に、共通の意志を豫め約束して、所謂フォーメーションを以て最も合理的に敵陣を攪亂しようとするものであつて、こゝに見逃す事の出来ないのはスクリーン・プレーの出現である。これらは籠球に於ては上述と同じ経路を迎つて既に完成の域にまで研究し盡され、然も年月のたつに連れて益々威力を増大しつゝあるものであつて、水球に於ても去るオリツピックのゲームに於て既にその傾向が見られたのであり、今後の技術は恐らくこの方向に進んで行くのではないかと思われる。

先ず敵方の準備の整わない前に、攻め抜いてしまふ所謂「速攻法」は前々號(十月號)拙稿團體攻撃システムの最後に詳述してあるから、こゝでは述べないが、ハンガリー優勝の原因の一つはこの技術にあつたのは衆目の認める所であつて、前衛のみの攻撃が除々に威力を減じつゝある今日、他の諸國によつても盛んに採用されるに至るであらう事は確實と云へる。そしてスピードに優り、體格に劣る我が國水球にとつて、この速攻法は最も有利な技術であることは注意する價值があると思ふ。

速攻法と並んで今後益々研究され發達するであらうと思われるものは、個人技術よりも寧ろ團體的コンビネーションに頼り、最も合理的な手順を以て得點せんとする所謂セット・オフエンシヴ・フォーメーションである。ハンガリー選手の云ふタクテツクスなる言葉、即ちチーム・プレーとしてのシステムテツクな訓練は當然の結果として合理的なるフォーメーションの圓滑なる遂行を招來する。去るオリツピックは優秀なる個人技術の強引よりも、フォーメー

ションによる圓滑なるコンビネーション策戦の優れてることをハンガリーによつて證明されたのであつて、この點に於て彼等の世界水球界に興えた功績は少なくないと云ふべきであらう。兎もあれ、今後の世界水球界はフォーメーションの研究と活用に熱中するであらうことは確實であり、若しも我が國水球界がこのことを蔑にするならば、我らの世界水準に浮び上がることが、それだけ延期されることを覺悟せねばならぬ。

(フォーメーション、タクテックスに對する世界の輿論は既に一致してゐる事は既述の通りである。然るに我が國の水球關係者が、この重要な事實を輕視して、その研究を蔑にし、甚しきに至つてはフォーメーションの不要論をきくことさへあるのは如何なるわけであらうか。現在の我が國の水球にフォーメーションが存在しないと云ふ事は確かに云ひ得る。然しながら無意識の内に行われてゐること、即ちセンター・ボールを後に返すこと、三人を前衛として敵陣を攻めしめ、三人をバック・マンとして防禦せしむるが如き或ひは every man mark 防禦法の如き皆混沌時代より見ればフォーメーションとしての驚くべき進歩ではないか。又後よりドリブルして來た時に、味方前衛がゴール前を空けてサイドへ開くことそしてゴール前のボールを持つた人がサイドへドリブルで出る時に、他の味方がゴールにダツシュして、そのパスを受けること等は立派なフォーメーションと云ひ得るではないか。それ故、所謂自由奔放なプレーとは一昔前のフォーメーションを無意識に、然し巧みに用ふことに止つて、従つて斯くの如きプレーを得意とするプレーヤー或ひはチームは、研究的態度が不足と云ふことになり自身の進歩にも將來がなく、又競技そのものゝ將來の進歩に對しても何ら貢獻しない事になり、それ以上に斯かる個人或ひはチームが一時でも強いとすれば、時代に逆行する悪い傾向を流行せしめ、又多くの同好者に悪い感化を與へる點で寧ろ有害と云ふべきである。

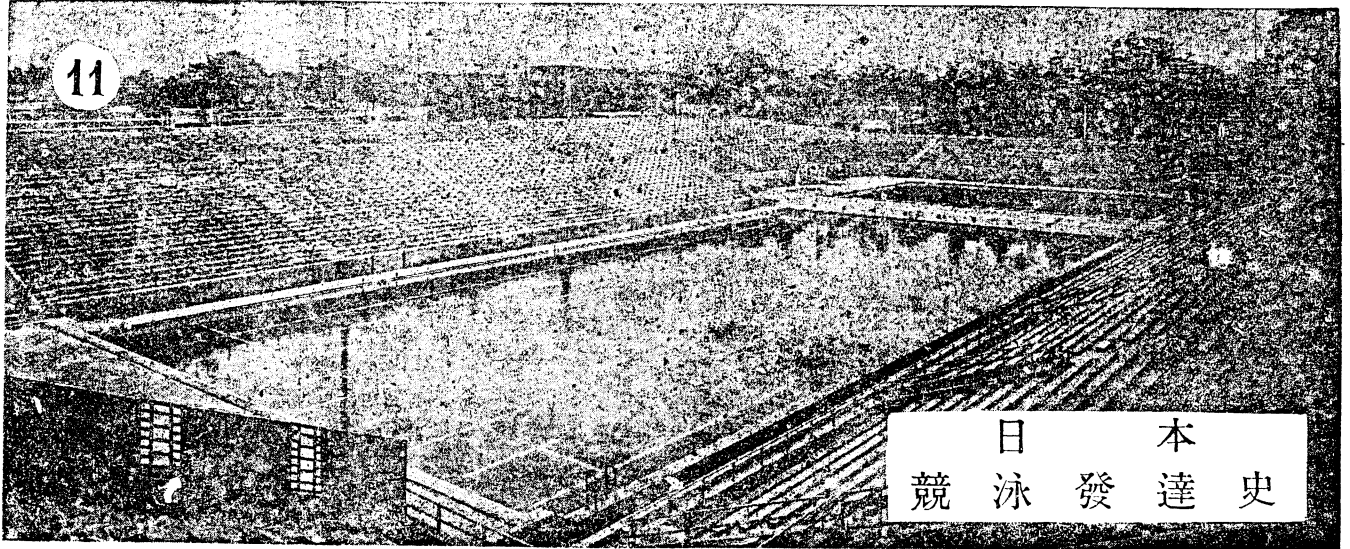
机上の理論は決して排斥すべきでない。凡ゆる競技は机上の研究を實際化した時に著しい進歩を遂げてゐるのである。理論的な研究を怠る競技の進歩は停滯し、退歩する。然も水球に於ては、先進諸國は既に机上の理論を實際化して、著しい効果を擧げつゝあるのではないか。此の點に於ても我國の水球界は大猛省を必要としてゐると思ふ。)

セット・オフエンシブ・フォーメーションが今後益々研究され、發達するであらうことが既定の事實であるならば次の二つのものが盛んに用ひられるようになるであらう。

即ちその一つはスクリーン・プレーであり、他はバックの突入である。前者はアメリカン・フットボールに發祥して、その總べての策戦の根幹を爲すものであり、籠球に於てはスクリーニングと呼ばれ、ラグビーのシーザース・ムーヴメントもその一種と云ふことが出来る。簡単に説明するならば every man mark に於て味方同志が故意にすれちがふ時はマークする敵同志が衝突して味方の一人をノーマークとなし得る方法であつて、オリンピックに於てはドイツチームが無意識の内に停止前衛と中間前衛との間に時々行つてゐるのを見たが、今後必ず歐洲に於て意識的に研究される時が來ると確信する。現に米國は他の陸上競技に於て盛んにスクリーン・プレーが行われてゐるだけあつて、オリンピックの米國豫選に於けるニューヨーク A.C. チームは組織的にスクリーン・プレーを研究した跡が明かに認められ、ゲーム中にも意識して用ひんとし、且つ相當な効果を擧げてゐるたことを記憶してゐる。又バックの突入についてはハンガリーが速攻法をあれ程有効に活用してゐるのであるから、今一步進めて味方攻撃時に於ても敵前衛の注意が他の方面に引かれてゐる時に、これを抜いてダツシュし味方前衛よりパスを受けるまで進歩して行くであらうと想像される。これらの二つの技術、即ち速攻法とセット・オフエンシブ・フォーメーションは籠球に於ても、現在の水球と同じく、前衛のみ個人攻撃技術の防禦法が研究し盡されて、攻撃の澁滯を來した結果、研究され、進歩したものであり、種々のフォーメーションの中に巧みに織込まれて、殆んど完成の域にまで達したのであつて、水球の技術は今後この方面に進歩の餘地があると思ふ。尙ほこれらの詳しい解説はいづれ項を攻めて「フォーメーションの研究」と題して研究して見たいと思ふ。

次號は

「第三防禦方法」から



山 魁 村 市

第二章 競泳躍進時代 (自大正十二年 至 同十五年)

第一 競泳新進期

3) 水上聯盟成立、神宮競技創始 (大正十三年續)

從來體育協會の主催たる全國競泳大會が、地方豫選も行はず、直ちに東京で開催されて來たので、名實伴はぬ憾み深く、爲めに其の存續さへ疑はるゝに至つた。然るに神宮競技が、全國十三區の地方豫選通過者を以て本競技を行ふ事と爲したのは、慥かに一大進歩である。更らに此の競技を機會に、全國の代表者が參集協議の上、大日本水上競技聯盟を組織したのは、オリンピックの戦績と共に、斯界に一新紀元を劃するに足るものであつた。水上聯盟の使命は内に全國諸團體を統轄し、外に日本を代表する實際團體となるもので、茲に吾人は完備せる指導機關を持つに至つたわけである。依つて體協主催の全國競泳大會を明年度から水上聯盟に委讓し、第一回全日本選手權大會を實現することになつた。また全國學生水上競技聯盟の手によつて、全國學生水上競技、全國中等學校水上競技が本年度から實現された。前者は萬朝報社主催の大學専門學校對抗競技の進化せるもの、また後者は大阪毎日が先鞭をつけた中等學校大會の規模を雄大ならしめたもので、後年水上競技の華と謳はれるインタカレッヂ及びインタミッドルは斯くして生れ出でたものである。

新進としては巴里の殊勳者高石勝男を筆頭として中長距離の新井信男、兒玉博、背泳の木村象雷、平泳の戸田章等が漸次擡頭をみるに至つた。尙本年度に入り各地にプールの建設が盛んとなつたのは注目すべき現象で、わが水泳界も愈々本格的になりつゝある證左と云へよう。

◇女子オリンピック大會 (6. 15—16 大阪)

五箇の新記録をあけた、◎は新記録

50米 自由	36秒4	永井花子
◎100米 自由	1分25秒4	永井花子
◎200米 自由	3分19秒6	入江廣子
◎100米 背泳	1分43秒0	入江廣子
◎100米 平泳	1分48秒2	布施苑子
◎200米 リレー	2分42秒8	京都武徳會

(島村初枝 井上信子)
入江廣子 永井花子)

◇第三回全國女子競泳大會 (8. 8—9 芝)

萬朝報社主催、役員長澤田武治、決勝及審判主任小高加茂、計時主任波多野敬三、出發合圖員和久山修二、午後一時半から開始し午後四時廿分盛況裡に終了した。此の日、京都武徳會は永井、入江、島村

等に配するに近藤、大槻、鷺見の新鋭を以てし、再び優勝杯を獲得し、四個の新記録を生む。

- 50米自由 39秒²
 永井 花子(京武) 鷺見 芳子(京武)
 島村 初枝(京武) 江島 歌子(頌榮)
- 100米自由 1分36秒
 永井 花子(京武) 島村 初枝(京武)
 佐野 英子(濱寺) 市村 常子(修武)
- ◎200米自由 3分19秒²
 入江 廣子(京武) 鹽澤 英子(濱寺)
 近藤 花子(京武) 江島 歌子(頌榮)
- ◎400米自由 7分 8秒
 入江 廣子(京武) 江島 歌子(頌榮)
 近藤 花子(京武) 五月女年子(御幸)
- 100米背泳 1分55秒²
 鷺見 芳子(京) 平戸千代子(御幸)
 塚崎千代子(頌) 井崎喜代(花屋敷)
- ◎100米平泳 1分43秒
 布施 花子(京) 武塚 勝子(濱寺)
 大槻 愛子(京) 佐野 秀子(濱寺)
- ◎200米リレー 2分 9秒⁸ 京都武徳會(永井 島村)
 鷺見 入江)
 濱寺水練 (武塚 鹽澤)
 高田 堤)
 横濱花屋敷チーム

◇第四回濱名全區水泳大會 (8. 16—17 辨天島)

濱名の例會で堀江耕造審判長の下に東の強風を冒して進行す、小野田、野田を始め超弩級が巴里遠征中なると、茨木中學の不参加で少々氣勢を殺かれた嫌ひありしも、参加團體廿四、出場選手百廿三名に及び好成績をあげた。舞阪小學の野寄金次郎少年が千五百米に野田の記録を破つて、廿二分四七秒四の新記録を上げ、新進兒玉博、新井信男、木村象雷が活躍した。當日の成績 ◎日新 △大會新

- 50米自由 30秒 大場 保治(濱名)
 清水 實(濱名) 白都 定義(同)
- △100米自由 1分07秒⁶ 磯部 勝治(濱名)
 (豫選 1:5.4)
 益田三武郎(京武) 大場 保治(濱)
- 200米自由 2分37秒⁶ 磯部 勝治(濱名)
 兒玉 博(御幸) 村上 弘(京武)
- 400米自由 6分44秒 磯部 勝治(濱名)
 新井 信男(京武) 野寄金次郎(濱名)
- 800米自由 11分58秒 兒玉 博(御幸)
 新井 信男(京武) 野寄金次郎(濱名)

- ◎1500米自由 22分47秒⁴ 野寄金次郎(濱名)
 石井 義次(安房) 外棄權
- 100米背泳 1分24秒² 木村 象雷(京武)
 稻勝 孝(濱) 寛 精一郎(濱)
- 200米平泳 3分19秒 稻葉 秀三(京武)
 林 喜男(京武) 桂 正一(京武)
- 200米リレー 2分2秒
 濱名游泳 京都武徳 御幸クラブ
 (豫選 1:59.6)
- 800米リレー 11分10秒⁴ 京都武徳(木村 小栗)
 濱名 御幸(村上 新井)
- 得點 29 濱名灣游泳協會 21 京都武徳會
 7 御幸俱樂部 2 安房中學
- 女子 50米自由
 42秒 江島 歌子(勝山) 小野田文子(撫子)
- 女子 100米自由
 1分39秒⁸ 江島 歌子(勝山) 五月女年子(御幸)
- 女子 200米自由
 3分49秒⁶ 五月女年子(御幸)
- 女子 100米背泳
 1分54秒² 平戸千代子(御幸) 尾崎 照子(撫子)
- 女子 200平泳
 4分47秒⁴ 高橋 歌子(御幸) 小野田文子(撫子)

斯くて濱名は三回連勝の榮譽をになひ、東京朝日新聞社の優勝杯を収めた。少年競技では水野秀蔵が現はれた。八月十八日及び十九日兩日名古屋游里ヶ濱で行はれた第二回全國水泳大會で富田中學の佐田徳平は四百(5分46秒)及び千五百(23分7秒)の自由形に優勝して斯界に乗り出すに至つた。

◇第一回全國中等學校大會 (8. 23—24 金子)

全國學生聯盟の手に依つて初めて全國的中學健兒の熱戦が展開された。茨木中學三九點五分を占め優勝杯は主將杉原茂に授與さる、濱松一中十八點、大連商業十一點にて之れに次ぐ。決勝成績次の如し

- 50米自由 30秒 杉原 茂(茨中)
 (豫選 29.8)
- 三倉 博(早實) 大場 保治(濱中)
- 100米自由 1分10秒⁶ 北 村(新潟中)
 (豫選 1:10.4)
- 柳井 巖(大連) 杉原 茂(茨中)
- 200米自由 2分38秒⁸ 磯部 勝治(濱一中)
 (豫選 2:36.8)
- 鈴 木(立教中) 片岡(鹿兒島一中)
- 400米自由 5分36秒⁴ 兒玉 博(日本中)
- 磯 部(濱一中) 松 上(茨中)

800米自由 11分47秒 兒玉 博(日本中)
(豫選 11:48.0)

鈴木(立教) 近藤(濱一中)
100米背泳 1分22秒2 木村 義孝(茨中)

市村(大連) 深渡瀬(鹿兒島師)
200米平泳 3分26秒4 齋藤吉之助(茨中)

(豫選 3:26.4)
山本(茨中) 高谷(茨中)

400米リレー 4分51秒2
茨木中學(吉岡、松上、山崎、杉原)
濱松一中(大場、寛、鈴木、磯部)
大連商業(春日、大山、高原、柳井)

◇第十一回大毎中等校競泳會 (8. 29—30 大阪)

金子プールに於ける學生聯盟主催全國中等大會の
後をうけ大阪毎日の例會が行はれた、茨木中學優勝、

50米自由 29.2

杉原 茂(茨中) 北村、吉岡、愛須

100米自由 1: 9.8

佐竹 孝(修道) 益田、森、山崎

400米自由 5:46.6

兒玉 博(日大中) 新井、佐田、片岡

1500米自由 22:38.0

新井 信男(同志中) 兒玉 博(日本中)

100米背泳 1:22.0

木村 義孝(茨中) 宮本、鹽路、野塚

200米平泳 3:16.0

藤 本(同志) 稻葉、愛須、高谷

200米リレー 2: 02.8

茨木A組 (吉岡、野塚、山崎、杉原)

修道中 五條中 田邊中

1600米リレー 25:14.0

茨木中學 (安田、金澤、山本、松上)

同志社中 田邊中 修道中

得點 40.5 茨木中學 30 同志社中學

15 田邊中學 8 修道中學

8 日大附屬中 4 五條中

以下 京都一中 長崎中 富田中 和歌山中

天王寺中 鹿兒島一中

次いで翌卅一日及び九月一日第二回關西専門校大
會を開いたが松山高校の優勝に歸した。

◇第三回全國學生水上競技大會 (9. 13—14芝)

萬報報社主催で創始された本大會は、今年より學
生聯盟の手に移り茲にインタカレッヂとして更正し
た。巴里から凱旋の高石、小野田、宮畑、齋藤が參

加した。此回全種目に新記録を出し、殊に百自由、
四百リレーには日本新記録をあげ、明大の新進戸田
章がブレストに優勝して注目された。此の回から早
明慶の分野が現はれ立大、高師が其の牙城を攪亂す
る狀勢が作られたのである。第一日は快晴豫選を終
了し、第二日は朝來暗雲低迷せしも無事完了した。

◎日本新 △大會新

50米 △ 28.6 小野田一雄(明大)

{西本龍三(早大) 柴田勝雄(松高)
{白都定義(立大)

100米 ◎ 1:3.0

高石 勝男(早大) 小野田一雄(明大)

小高 加茂(早大) 岡田 辰男(早大)

200米 △ 2:42.6

堀 安 治(高師) 野村佐多雄(慶大)

土方 龍雄(慈大) 岡田 辰男(早大)

400米 △ 5:58.4

野村佐多雄(慶大) 宮畑 虎彦(高師)

松澤 一鶴(帝大) 松 島(慶大)

800米 △12:16.6

高石 勝男(早大) 松 島(慶大)

(豫選 12:7.8)

松澤 一鶴(帝大) 諸隈 忠雄(慈大)

100米背 △ 1:19.0

上 田 高(治松) 齋藤 巍洋(立大)

坂 倉 巖(松高) 竹 島(早大)

200米平 △ 3:9.4

戸 田 章(明大) 今 村 豐(慶大)

海後 勝雄(高師) 坂 倉(松高)

四百米リレー ◎ 4:31.0 早稻田大學

(小高、西本、岡田、高石) 明大、立大、高師

得點 26 早大 20 明大 15 慶大 12 高師

9.5 立教 9 松山高校 4 帝大 2 慈大

個人得點 12 高 石(早) 9.5 小野田(明)

8 野 村(慶) 5.5 堀(高師)

5 戸田(明) 西本(早) 上田(松)

因に大正十二年度は關東大震災の爲め休會。

◇第一回早大對關西學院對抗 (9. 17大阪)

大阪市立運動場プールに於て第一回對抗仕合を創
始す、高石が四百米自由に日本新記録をあげ、早大
卅一點、關學十四點であつた。

50米 西本 龍三(早) 29秒2

小高 加茂(早) 岡田 辰雄(早)

100米 岡田 辰男(早) 1分 8秒8

西本 龍三(早) 笹森 四郎(關)

200米 岡田 辰男(早) 2分44秒8
 石田 恒信(關) 小高 加茂(早)
 ◎400米 高石 勝男(早) 5分35秒4
 伊藤 忠三(關) 奥野 良(早)
 800米 高石 勝男(早) 12分20秒6
 伊藤 忠三(關) 上田 治(關)
 100米背 大瀧 駿三(早) 1分32秒
 鹿野 楠治(關) 中村 誠一(關)
 200米平 3分1秒
 石田恒信(關) 松本英郎(早) 古川登久義(早)
 200米リレー 早大チーム 2分5秒2
 關學チーム

◇大阪 - 三回日本水上選手権大會

(9. 27—28 大阪)

近畿中學校選手にして専門校級は参加せず。

50米 29.2 木村 義孝(茨中)
 益田三武郎 杉原 茂
 100米 1: 9.2 木村 義孝(茨中)
 益田三武郎 橋 本
 400米 5:44.2 新井 信男(京武)
 村上 弘 松上龍太郎
 800米 12: 1.0 新井 信男(京武)
 山本 盛光 菅沼 豊
 1500米 24: 3.8 山本 盛光(茨中)
 小河原 大槻 繁
 100米背 1:24.4 木村 象雷(京武)
 鹽路 芳夫 大槻 繁
 200米平 3:12.4 石田 恒信(茨中)
 林 喜男 稻葉 秀三
 200リレー 1:58.4
 茨木中學(入谷、木村、野塚、杉原) 京都武徳會
 400リレー 4:45.0
 茨木中學(吉岡、木村、杉原、入谷) 京都武徳會
 800リレー 11:15.0
 京都武徳會(杉山、木村、村上、新井) 茨木中學

◇同女子競技(同)

關東方面は参加せず、京都武徳會と濱寺水練校との争覇戦で、二百自由及び二百リレーに日本新記録を出した。

50米 37.8 永井花子(京) 鷺見芳子(京)
 鹽澤ちぬ(濱) 武塚勝子(濱)
 100米 1:27.8 永井花子(京) 入江廣子(哀)
 鹽澤ちぬ(濱) 鷺見芳子(亨)
 ◎200米 3:17.6 入江廣子(京) 近藤花子(京)
 鈴 鹿(京) 鹽澤ちぬ(濱)

100米背 1:45.2 入江廣子(京) 鷺見芳子(京)
 今井 (京) 東 照子(濱)
 100米平 1:43.3 布施花子(京) 佐野榮子(濱)
 武塚勝子(濱) 大槻愛子(京)
 ◎200米リレー 2:35.4
 京都武徳會(入江、鷺見、島村、永井)
 濱寺水練學校

◇神宮關東豫選 (10. 4—5 芝)

滿洲、九州、四國、關東、關西、東海、北陸其他、十三區にて地方豫選が行はれたが、九州豫選には馬渡勇喜が代表としてブレスト界に乗り出すこととなる。

關東豫選では高石が五十米に廿七秒六、四百米に五分十五秒二、二百米に二分廿二秒四の日本新記録を出したのは注目に値する、次に決勝の結果をあげる。

50米 28.6
 小野田一雄(駿臺) 宮畑 虎彦(高師)
 田中 慶雄(高師) 西本 龍三(稻泳)
 100米 1:7.0
 宮畑 虎彦(高師) 石毛 政信(横商)
 今村 豊(慶大) 岡田 辰男(稻泳)
 ◎200米 2:28.0
 高石 勝男(稻泳) 兒玉 博(御幸)
 諸隈 忠雄(駿臺) 今村 豊(慶大)
 ◎400米 5:15.2
 高石 勝男(稻泳) 兒玉 博(御幸)
 野村佐多雄(慶大) 米山 弘(水戸)
 800米 12:10.2
 兒玉 博(御幸) 諸隈 忠雄(駿臺)
 松 島(慶大) 米山 弘(水戸)
 100米背 1:30.4
 諸隈 忠雄(駿臺) 前 田(駿臺)
 中 村(同) 向 井(御幸)
 200米平 3:10.0
 戸田 章(駿臺) 杉田 忠治(美術)
 三倉 博(早實) 江 崎(駿臺)

◇第九回全國競泳大會 (10. 17—18 芝)

體協の例會としては之れが最後のもので、明年度より全國學生聯盟の主催に移るのである。

50米 29.4 杉原 茂(茨中) 三倉、中川、木村
 100米 1:09.0 木村義孝(茨中) 中川、清水、岩崎
 200米 2:36.0 兒玉 博(御幸) 村上、松上、岡本
 400米 5:53.4 兒玉 博(御幸) 村上、松上、岡本

800米 12:23.6 兒玉 博(御幸) 山本、長谷川、
武村清
100米背 1:27.6 野塚義則(茨中) 寺尾、高橋、猿
橋清
200米平 3:23.4 三倉 博(章魚) 交野、白井、本多
200リレー 1:59.0 茨木中(田中、木村、杉原、野塚)
章魚俱樂部 御幸俱樂部 安房中學
800リレー 11:4.6
茨木中(山本、高石、田中、松上) 御幸

◇第一回明治神宮水上競技 (10. 31芝)

氣温水温共に低く豫期の快記録を得るに至らず、

50米 28秒8
宮畑虎彦 小野田一雄 田中慶雄
100米 1分 5秒2
宮畑虎彦 磯部勝治 石毛政信
400米 5分33秒8
高石勝男 兒玉 博 新井信男
300米 12分30秒6
兒玉 博 新井信男 佐竹 孝
100米背 1分18秒8
齋藤巍洋 荻 清 坂西 巧
200米平 3分20秒4
戸田 章 荻 清 坂倉 巖
200リレー 1分54秒8 關東、滿洲、近畿、九州
800リレー 10分43秒2 關東(兒玉、今村、諸隈、高石)

◇大正十三年度收穫

本年度に於て作られた新記録は

男子 50米自由形
27秒6 高石 勝男 10—4 芝
100米自由形
1分 2秒4 高石 勝男 7—19 バリ
1分 3秒 高石 勝男 9—14 芝
200米自由形
2分22秒4 高石 勝男 10—4 芝
2分28秒 高石 勝男 10—5 芝
400米自由形
5分15秒2 高石 勝男 10—5 芝
800米自由形
11分47秒 兒玉 博 8—24 金子
1500米自由形
21分49秒4 高石 勝男 7—14 バリ
22分47秒4 野寄金次郎 8—17 辨天島
200米平泳
3分 9秒2 石田 恒信 7—15 バリ

3分 9秒4 戸田 章 9—14 芝
400米リレー
4分31秒 早 大 9—14 芝
800米リレー
10分12秒4 日本チーム 7—18 バリ
女子 100米自由
3分17秒6 永井 花子 6—16 大阪
200米自由
3分17秒6 入江 廣子 9—28 大阪
400米自由
7分48秒 入江 廣子 8—9 芝
100米背泳
1分43秒 入江 廣子 6—16 大阪
100米平泳
1分43秒 布施 花子 8—8 芝
1分42秒2 杉江 正子 9— 大連
200米リレー
2分42秒8 京都武徳會 6—16 大阪
2分39秒8 京都武徳會 8—9 芝
2分35秒4 京都武徳會 9—28 大阪

水泳古典研究會

水泳がひとり水上競技の發達のみならず、我が國古來の日本泳游の正しき認識と之が保存の要あるは本聯盟のつとに認める處であり、その意味からして聯盟に標準泳法委員會を設け、この委員に依つて日本泳法の標準的のものを選擇して標準泳法と名づけ全國的に普及せしめてゐるが、今回更により根本的に日本泳法を研究しこの貴重なる泳法の真相を明かにせんとして水泳に關する古典を研究することゝなつた。委員は何れも斯界の權威者揃ひである。

末弘嚴太郎 本 田 存 白山源三郎
石本己四雄 飯田光太郎 原 正 一
栢原 政勝 石川 芳雄 加藤 石雄
小林 三次 松澤 一鶴 三上 節造
河 野 司 佐藤 重功 (順序不同)

世界情報

1) 1934年の歐洲選手権大會 は
來年の8月12日より19日迄マグテブル
グ新設プール(長50米幅21米)で舉行
されることになった。タリス、カルト
ンネ、ジータス等の歐洲一流所がこれ
に出場するとたと、日本で行はれる
國際大會の招聘を拒絶するのではない
かと憂慮されてゐる。

2) 波蘭選手権大會(クラカウにて)

200米自 2:27.5 ポシエンスキー
1500米自 22:17.3 カールリツエツク
100米平 1:23.7 ボラツク
女200米自 3:34.5 フリツチュ
女400米自 6:54.6 クラトフウィラー

3) 西班牙選手権大會 9月2日、3

日、マドリッド(30米水路)

男子

100米自 1:02.4 エンジュエル、サボタ
200米自 2:24.8 ヴイダール(17歳)
300米自 3:54.8 ヴイダール
400米自 5:20.2 ヴイダール
500米自 6:47.4 ヴイダール
800米自 11:31.4 ヴイダール
1000米自 14:31.6 アリガス
1500米自 22:47.0 アリガス
100米平 1:24.1 サバテル
200米平 3:02.0 サバテル
400米平 6:35.9 サバテル
100米背 1:17.3 プルル
200米背 2:54.8 プルル
400米背 6:15.0 マルチ

女子

50米自 0:33.0 カルメン・ゾリアノ
(15歳)
100米自 1:14.1 カルメン・ゾリアノ
200米自 2:49.7 カルメン・ゾリアノ
300米自 4:31.0 カルメン・ゾリアノ

400米自 6:30.0 カルメン・ゾリアノ
500米自 8:21.0 カルメン・ゾリアノ
800米自 14:13.4 カルメン・ゾリアノ
1000米自 17:53.0 トーレンス
1500米自 26:55.5 トーレンス
100米平 1:39.8

エンリキタ・ゾリアノ

200米平 3:30.5

エンリキタ・ゾリアノ

400米平 7:35.4

エンリキタ・ゾリアノ

100米背 1:37.6

ビゴ

4) 世界學生選手権大會 (9月3日

より5日迄、チューリンにて舉行)

50米自 1. ホーン(加) 0:26.9
2. セケリー(洪)
3. バシナルボ(伊)
100米自 1. セケリー(洪) 1:00.7
2. シツク(洪) 1:01.0
3. ワンニー(洪) 1:01.6
4. ホーン(加) 1:02.3
400米自 1. シニョーリ(伊) 5:12.0
2. レンギール(洪) 5:15.4
3. サバドス(洪) 5:24.1
4. アバイ(洪)

1500米自 1. レンギール(洪) 21:22.2
2. バシナルボ(伊) 22:44.8
3. シニョーリ(伊) 22:52.0
4. ミツチエル(英) 22:47.3

200米平 1. ビレス(洪) 3:00.6
2. アベレス(チェッコ) 3:01.1
2. レングバリ(洪) 3:04.1

100米背 1. ビツケイ(洪) 1:15.1
2. ジーグリスト(瑞西) 1:15.0
3. シューマン(獨) 1:17.5

800米リレー 1. 洪牙利 9:43.9
2. 伊太利 9:59.0

3. 佛蘭西

150米メドレーリレー

1. 洪牙利 1:37.1
2. 獨逸 1:41.0
3. 伊太利

3米飛板飛込

1. ヴイバーン(獨) 165.12
2. ジヤツアウマヨン(佛) 141.12
3. ラスツロ(洪) 137.98
4. リレゲ(獨) 137.04

高飛込

1. ワイグラ(獨) 121.70
2. ヴイバーン(獨) 110.20
3. ニーメライネン(芬) 93.76
4. ラスツロ(洪) 83.48

女 50米自

1. プロンド(佛) 0:34.3
2. スリーニ(伊)

女 100米自

1. プロンド(佛) 1:16.7
2. スリーニ(伊) 1:17.2

女 100米背

1. プレコツプ(伊) 1:29.4
2. ストルケル(伊)

200米リレー

1. 伊太利 2:26.5 2. 英國

飛込 1. ニューリン(伊) 65.15
2. ガツダ(伊) 47.02

得點 洪牙利 92點 獨逸 49點
伊太利 45點 佛蘭西 16點

5) 洪牙利選手権大會

男 100米自

1. エシク・フェレン 1:01.4
2. メスツオーリ・チホール 1:01.8
3. ワンニー・アンドラ 1:02.0

男 200米自

1. アベイ・ネメス・オスカル 2:22.6
2. セケリー・アンドラ 2:23.0

3. メスツオーリ、チボール 2:24.4
- 男 400米自
1. レンギール・アルパ 5:14.8
 2. サバドス・ラスツロ 5:16.2
 3. ギョーイ・ミクロス 5:21.2
- 男 1500米自
1. ギョーイ・ミクロス 21:49.8
 2. エルウイン・ウインマー 22:32.0
 3. バホク・イスタパン 22:47.6
- 男 100米平
1. ヒルド・ラスツロ 1:19.6
 2. メツマイ・フェレン 1:21.4
 3. レングバリー・アコス 1:23.2
- 男 200米平
1. ヒルド・ラスツロ 3:01.2
 2. メツマイ・フェレン 3:01.6
 3. レングバリー・アコス 3:04.8
- 男 100米背
1. ナギー・カロリー 1:14.8
 2. ビツケイ・アルパ 1:15.0
 3. エレンテイ・フェレレ 1:15.2
- 男 200米背
1. ビツケイ・アルパ 2:49.6
 2. ナギー・カロリー 2:53.2
 3. パラバス・イスタパン 2:59.6
- 男 800米リレー
1. ホシン、ハラシー、ホロス、
サバドス 10:01.4
 2. プレプラ、コロシイ、ミハリシイ、
ワンニー 10:07.2
- 男 飛板飛込
1. コバツク・フェレン 121.21
 2. ホヂ・ラスツロ 119.40
 3. フアルカス・フェレン 115.30
- 男 高飛込
1. パイダ・ラスツロ 99.44
 2. コバツク・フェレン 89.00
 3. レンハルト・エルニョー 80.46
- 女 100米自
1. マガスハシー・ロシー 1:15.0
 2. トート・イロンカ 1:16.0
 3. マラス・ギツタ 1:16.8
- 女 200米自
1. トート・イロンカク 2:55.0
 2. クサニー・ボリスオ 3:04.6
 3. プロツール・ロツチ 3:05.4
- 女 400米自

1. トート・イロンカ 6:25.0
 2. クサニー・ボリスカ 6:37.0
 3. マガスハシー・ロツシ 6:41.6
- 女 200米平
1. エサス・マグダ 3:30.0
 2. ダンカイ・テソヨーネ 3:30.0
 3. ペステ・マルギ 3:30.6
- 女 100米背
1. マラス・ギツタ 1:31.6
 2. ホルサル・ロツチ 1:34.2
 3. トート・マグダ 1:35.0
- 女 400米リレー
1. F. T. C 5:46.8
 2. B. S. C 6:09.0

女 飛板飛込

1. フォンヨ・リリー 78.00點

6) 和佛對抗競技 (八月末、ツールにて)

男子 39—33 で佛蘭西優勝

- 100米自
1. シエッフエル(和) 1:02.8
 2. テイナー(佛) 1:03.6
- 100米背
1. ファイユ(佛) 1:15.0
 2. ヴアレ・エールスト(和) 1:21.0
- 200米平
1. ラウピー(佛) 2:59.4
 2. ベノーイ(佛)
- 飛板飛込
1. サツアマヨ(佛) 140.78
 2. テネブーム(和)
- 250米リレー (5×50米)
1. 佛チーム 2:23.6
 2. 和チーム 2:26.6

水球 和 3:1 佛

女子 34—14 で和蘭勝つ

- 100米自
1. マステンプロツク(和) 1:10.0
 2. セールバツハ(和) 1:12.2
- 200米平
1. カスタイン(和) 3:09.6
 2. プロウウエル(和) 3:10.0
- 100米背泳
1. オーベルスロート(和) 1:23.6
 2. バウマイスター(和) 1:24.8
- 400米リレー
1. 和チーム 4:57.0

7) 伊太利對洪牙利 (8月末、ネーブルにてにて)

- 男子 51—40 にて洪牙利勝つ
- 100米自
1. エシク(洪) 1:01.2
 2. セケリー(洪) 1:02.6
- 400米自
1. コストリ(伊) 5:05.7
 2. シニョーリ(伊) 5:10.2
- 1500米自
1. ベレンチン(伊) 20:42.5
 2. コストーリ(伊) 20:57.8
- 100米背
1. ビツケイ(洪) 1:13.6
 2. ナギー(洪) 1:16.2
- 200米平
1. メツアイ(洪) 2:57.5
 2. ヒルダ(洪) 2:59.9
- 800米リレー
1. 洪牙利チーム 9:27.7 (歐洲新記録)
 2. 伊太利チーム 9:51.0

8) 洪牙利對獨逸 (8月13—15日、ブタペスト)

- 100米自
1. エシク(洪) 1:01.2
 2. フイシャー(獨) 1:03.8
- 400米自
1. ダイタース(獨) 5:06.4
 2. レンギール(洪) 5:14.0
- 1500米自
1. ダイタース(獨) 21:29.6
 2. ギョーイ(洪) 21:49.8
- 100米背
1. シュルツ(獨) 1:14.2
 2. ビツケイ(洪) 1:14.8
- 200米平
1. ジータス(獨) 2:49.8
 2. ヒルダ(洪) 2:57.4
- 800米リレー
1. 獨逸チーム 9:32.6 (リヒテル、シュラター、ウイレ、ダイタース)
 2. 洪牙利チーム 9:35.2 (ワンニー、メソリー、ネメス、セツチリー)

- 飛板飛込
1. ヴイバーン(獨) 157.50
 2. ホヂ(洪) 152.06

- 高飛込
1. リープシレーカー(獨) 115.21
 2. ヴァイダ(洪) 103.96

水球 獨逸 3:8 洪牙利

9) 瑞典選手權大會 (8月上旬、ストックホルム)

(重要記録のみを掲ぐ)

- 男 100米自
1. ペテルソン 1:03.2
 2. ホルデン 1:03.9

- 女 100米自
 1. ステンマルク 1:19.4
 2. ルンドキスト 1:21.7

- 女 200米平
 1. イエンソン 3:13.0
 2. ケルスチン・イスベルグ 3:14.2

- 男子飛板飛込 エーベルグ
 女子飛板飛込 スヨーキスト

10) 佛蘭西選手権大會

(主要記録のみを掲ぐ)

- 200米自 1. タリス 2:19.0
 400米自 2. タリス 5:01.6
 飛板飛込 1. プサーール 163.32
 2. ルパーツユ 159.32
 女子高飛込 リゴラージュ 32.93
 女子 100米背 1. ブロンー 1:25.0
 2. ザルガドー 1:26.2

11) 獨逸選手権大會 (3月・5日6日、
 プライマール50米)

男子

- 100米自 1. フイツシャー 1:03.2
 2. ウイレ 1:03.6
 3. シュワーツ 1:03.8
 4. アーレント 1:04.0
 200米自 1. ダイタース 2:22.8
 2. シュラーダー 2:24.3
 3. ウイレ 2:25.7
 4. リヒター 2:27.0
 400米自 1. ダイタース 5:13.0
 2. シュラーダー 5:19.0
 3. ウットハウエル 5:30.4
 4. キーンツレ 5:32.0
 1500米自 1. ダイタース 20:46.3
 (獨逸新記録)
 2. シュラーク 21:57.2
 3. キーンツレ 21:59.2
 4. ウットハウエル 22:34.8

ダイタースは途中、800米 10:53.0
 1000米 13:40.8 の獨逸新記録を出した。

- 100米背 1. キュツベルス 1:11.5
 2. シュルツ 1:14.7
 3. ドイツチュ 1:14.8
 4. シュワーツ 1:16.3
 200米平 1. ジータス 2:47.8

2. シュワーツ 2:53.0
 3. ウイツテンバルヒ 2:54.8
 4. プーティツヒ 2:57.1

400米リレー

1. マグテブルグ 4:20.5
 2. ヘラス・マグテブルグ 4:24.6
 3. ベルソン 4:27.4
 4. ボザイドン・ケルン 4:29.7

800米リレー

1. マグテブルグ 10:07.0
 2. ベルソン 10:19.6
 3. ボザイドン・ケルン 10:32.0
 4. ボザイドン、ライプチツヒ 10:32.2

800米平泳リレー

1. ヘラス・マグテブルグ 12:10.2
 2. ゲツツピンゲン 12:16.3
 3. ボザイドン・ベルリン 12:17.0
 4. ステルン・ライプチツヒ 12:26.0

女子

- 100米自 1. アーレント 1:13.5
 2. キュツベルス夫人 1:14.6
 3. ゲールケン 1:16.0
 4. ザルベルト 1:18.2
 400米自 1. ハルプスグート 6:22.8
 2. ハニケ 6:23.3
 3. ステークマン 6:23.6
 4. オーレンドルフ 6:34.2
 100米背 1. ヘルツナー 1:28.9
 2. サツセラート 1:27.9
 3. ストルーベル 1:30.2
 4. ハルプス・グート 1:31.2

- 200米平 1. ドライヤー 3:13.6
 2. ゲネンゲル 3:13.9
 3. エンゲルマン 3:14.7
 4. ヘルツナー 3:15.3

男子

- 飛板飛込 1. ヴイーバーン 159.12
 2. マーラウン 156.76
 3. エツサー 155.16

高飛込

1. リーブシュレーガー 125.86
 2. ツキーグラ 119.94

3. ライケルト 116.06
 4. グローテ 116.06

女子

- 飛板飛込 1. オルガ・オルダン夫人 86.76

2. シヤッフシュテツト 76.28
 3. シュリユツテル 76.28
 4. ショルツ 74.26

高飛込

1. シーヘ 37.82
 2. ウエンテホルン 35.74
 3. デックマン 33.84
 4. ショルツ 33.78

12) デヤワク、メチカの新記録

シアトルのワシントン大學のメチカ(18歳)はロスアンゼルス50米プールで行はれた大會で二ツの世界新記録(800米自由形で 10:13.6 1000米自由形で 12:143.8)を出した。併し此れは公認記録を破つたに過ぎず、牧野の 10:13.6 北村の 10:12.8 には及ばない。

13) ギルフラの活躍 昨年のオリムピックでは案外奮はなかつたヂエームス、ギルフラは9月中旬デトロイト(25碼)で行はれた競技会で400碼自由形に 4:48.6の世界新記録を出し舊記録ワイスミュラーの 4:52.0を破つた。

14) レイモンドラヂーの返り咲き

アムステルダムの大會で活躍したラヂーはその後鳴りをひそめて居たが返り咲いて、紐育の50米プールに於て 100米 59.8 200米 2:16.0 を出したさうである。

御目出度いニュース

前立教大學主將にして短距離の雄松浦武雄君及び前の慶應大學の兄弟選手として兄さんの宜人君と共に頑張つた山本晴武君は先程華燭の典をあげられた。又標準泳法委員長小松崎三次君は今回結婚されて小林三次と改名された。三氏の新家庭に幸あらん事を祈る。



N S R 日 記

7

月12日	綜合團體期成委員會	事務所	22日	松澤一鶴氏松本に水泳指導出發	
18日	理事會 (NSR)	事務所	23日	日本水泳古典研究會	事務所
19日	全國高商大會	神宮プール	25日	關東水協女子委員會	事務所
20日	醫事部委員會	事務所		編輯委員會	事務所
21日	綜合團體期成委員會	事務所	26日	東京府青年團水上競技(神宮豫選)	
24日	東部高校大會	神宮プール			神宮プール
	關東水協委員會(プログラム編成)	事務所	28日	日本水泳古典研究會	事務所
25日	東部高校大會	神宮プール	31日	三地方對抗女子大會關東豫選	
26日	東部高校大會	神宮プール			神宮プール
	常務理事會	事務所	9月1日	常務理事會	事務所
27日	東部高校大會(水球)	神宮プール		小學校水泳聯盟委員會	事務所
	關東水協飛込委員會	事務所	2日	三地方對抗女子大會關東選手出發	
29日	關東選手權大會	神宮プール	4日	三地方對抗女子大會關東選手歸京	
8月3日	常務理事會	事務所		日本運動競技聯合創立理事會	
5日	理事會	事務所			丸ビル精養軒
12日	日本選手權大會	神宮プール	5日	明治神宮體育大會水上競技大會打合	
13日	日本選手權大會	神宮プール		(海軍、青年團、神宮體育會)	事務所
	代議員會	丸ビル精養軒	6日	小學校水泳聯盟委員會	事務所
14日	日本選手權大會	神宮プール	7日	小學校水泳聯盟委員會	事務所
15日	全國學生水上競技聯盟實行委員會	事務所	8日	小學校水泳聯盟委員會	事務所
				全國學生水上競技聯盟總務委員會	
17日	關東水協女子委員會	事務所		(大會メンバー交換)	朝日新聞社
	小學校水泳聯盟委員會	事務所	9日	日本游泳聯盟水泳大會	神宮プール
	編輯委員會	事務所	10日	日本游泳聯盟水泳大會	神宮プール
19日	東部中等學校水上競技大會	神宮プール	11日	小學校水泳聯盟水上競技大會	
20日	東部中等學校水上競技大會	神宮プール			神宮プール
21日	水球委員會	事務所	12日	小學校水泳聯盟水上競技大會	
	小學校水泳聯盟委員會	事務所			神宮プール
				水球委員會	事務所

9月13日 全國學生水上競技聯盟飛込委員會 事務所
 15日 全國學生水上競技大會 神宮プール
 全國學生水上競技聯盟飛込委員會 事務所
 16日 全國學生水上競技大會 神宮プール
 記録委員會 事務所
 17日 全國學生水上競技大會 神宮プール
 18日 東部中等學校水球競技神宮豫選
 早、慶兩プール
 日本運動競技聯合專務理事會 事務所
 日本水泳古典研究會 事務所
 全國學生水上競技聯盟總務委員會
 丸ビル精養軒
 19日 常務理事會 事務所
 全國學生水上競技聯盟水球メンバー
 交換 事務所
 全國學生水上競技聯盟飛込委員會
 事務所
 20日 日本運動競技聯合理事會 事務所
 明治神宮體育大會水上競技大會プロ
 グラム編成 事務所
 21日 雜誌「水泳」二十號 上梓
 22日 全國學生水上競技聯盟秋季水球リー
 グ戦 神宮プール
 22日 常務理事會 事務所
 23日 水球秋季リーグ戦 神宮プール
 24日 水球秋季リーグ戦 神宮プール

全國學生水上競技聯盟飛込競技大會 神宮プール
 25日 神宮體育大會水上競技プログラム校正 事務所
 26日 水球秋季リーグ戦 神宮プール
 明治神宮體育大會水上競技大會打合 事務所
 水球委員會 事務所
 27日 水球秋季リーグ戦 神宮プール
 水球委員會 事務所
 明治神宮體育大會水上競技大會打合 事務所
 28日 水球秋季リーグ戦終了 神宮プール
 30日 明治神宮體育大會水上競技大會第一日 神宮プール
 10月1日 明治神宮體育大會水上競技大會第二日 神宮プール
 3日 日本運動競技聯合定例專務理事會 事務所
 5日 日本運動競技聯合定例理事會 事務所
 全國學生水上競技聯盟水球委員會 事務所
 8日 日本游泳聯盟全日本選士權大會 神宮プール
 9日 常務理事會 事務所
 16日 全國學生水上競技聯盟飛込委員會 事務所

全國學生水上競技聯盟秋期定期總務委員會議事録

一、日時 昭和八年九月十八日午後六時
 二、場所 丸ビル九階精養軒
 三、出席 林主事 早稻田大學 明治大學 日本大學 慶應大學 立教大學 法政大學 東京齒科醫專 第一高校 東京商船 大倉高商 横濱高工 東京帝大 國學院大學 中央大學 水産講習所 青山學院 東京高校 拓殖大學 東京商大 東京高師 名古屋高商(代理)の總務委員
 四、議事録 一、第十三回全國學生水上競技會期日ノ件 昭和九年九月十四(金) 十五(土) 十六(日)ノ三日間舉行ニ決定
 二、第八回全國中等學校水上競技大會期日ノ件 中等學校當事者ヨリハ八月初旬ノ希望多ク至極尤モト考フル

モ明年ハ日本選手權大會ガ八月初旬國際大會ガ中旬舉行ノ豫定ナルヲ以テ八月下旬舉行ニ決定、細目ハ例年通り實行委員會ニ一任サル
 三、飛込規約ノ件 實行及ビ飛込委員會ニテ作成セル飛込規約原案通り承認ス
 四、新人ニ對スル出場制限規約廢止ノ件 會長(代理林)ヨリ『主トシテ中等學校優秀選手ノ爭奪ヨリ生レル弊害ヲ未然ニ防止スルノ趣意ヨリ制定セラレタルモノナルガ、本來斯ル弊害ノ防止ハ各學校ノ德義心ニマツベキ性質ノモノニシテ一方新人選手ニ對シ一年間目標ヲ失ハシメ其ノ進歩

ヲ阻害スルガ如キハ犠牲大ニ過グル
ヲ以テ此際之ヲ廢止シテハ如何。」ト
ノ提案アリ全員一致之ヲ可決ス。

五、學生水上競技ノ全國的統制ニ關スル件 關西學生水上競技聯盟、東海學生水上競技聯盟、全國高商水上競

技聯盟、全國高校水上競技聯盟其ノ他地方學生水上競技團體ノ統一連絡ヲ密ニスベキ組織結成ヲ必要トスル現狀ナルガ之ガ方針ニ就テハ實行委員會ニ原案作成方一任サル。

(全國學生水上競技聯盟)

日 本 運 動 競 技 聯 合 議 事 錄

昭和八年九月四日、創立理事會

午後六時開會 丸ビル九階 精養軒

田畑理事より加盟各競技團體代表理事を左記の通り報告、滿場之を承認、

森田 俊彦、山口六郎次 (陸 上 聯 盟)
田畑 政治、松澤 一鶴 (水 上 聯 盟)
重木 重義、竹腰 重丸 (蹴 球 協 會)
稻田 昌植、出口林次郎 (ス キ ー 聯 盟)
針重 敬喜、櫻井 正光 (庭 球 協 會)
宮木 昌常、郷 隆 (漕 艇 協 會)
永井 直邦、山崎 愛介 (ホ ッ ケ ー 協 會)
佐々木道雄、原 六 郎 (排 球 協 會)
大谷 武一、森 秀 (體 操 聯 盟)
淺野 延秋、李 相 伯 (バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 協 會)
交野 政邁、青木 木弘 (ス ケ ー ト 競 技 聯 盟)
大島 又彦、牧田清之助 (馬 術 競 技 聯 盟)
田邊九萬三、久富 達夫 (ラ グ ビ ー 蹴 球 協 會)

當日の出席者

森田、山口(陸 上) 田畑、松澤(水 上)
鈴木、竹腰(蹴 球) 針重、櫻井(庭 球)
出 口(ス キ ー) 宮木、郷(漕 艇)
永井、山崎(ホ ッ ケ ー) 佐々木、原(排 球)
大谷、森(體 操) 淺野、李(バ ス ケ ッ ト)
交野、青木(ス ケ ー ト) 大島、牧田(馬 術)
田邊、久富(ラ グ ビ ー) 缺席、稻田(ス キ ー)

大島理事を議長に推し理事會開會議事に入り

一、綜合運動競技團體創立期成委員會の綜合運動競技團體寄附行爲草案を承認、(事業委員會の二項は大日本體育協會並びに神宮體育會との合流實現まで草案として留保、主旨は之を承認)日本運動競技聯合を結成す。

二、理事の選舉により下記の通り専務理事を決定

森田 俊彦 田畑 政治 櫻井 正光
宮木 昌常 李 相 伯 田邊九萬三

三、理事會の決議により名譽主事、名譽會計は専務理事會の選舉に一任、専務理事會は名譽主事に郷隆、名譽會計に佐々木道雄を選舉し理事會は之を

承認。

四、會長、副會長、各委員長、委員會幹事、委員會會計は神宮體育會並びに大日本體育協會との合流成立まで留保。

五、理事會の決議により左記諸氏を評議員に推薦

平沼 亮三 末弘嚴太郎 堀田 正恒
鹽澤 昌貞 副島 道正 松平 頼壽
高木 喜寛 河本 禎助

六、有給事務員設置の件を決議 人選は専務理事會に一任。

七、左記の聲明書發表

各種アマチュア運動競技の統轄團體を以て茲に日本運動競技聯合を結成した、吾等は全運動競技の健全なる發達を期し、國民精神の作興を圖る爲め邁進すべきことを聲明すると共に未組織の各運動競技團體が速に統轄團體たるの實質を具へ吾等の光輝ある目的に協力されん事を要望するものである。

日本水上競技聯盟機關雜誌 水 泳 第二十一號

定 價 三 十 錢 一年八回發行

豫約申込者に限り頒布す (一年前金豫約は送料不要)

廣 告 料 十圓乃至三十五圓

御申込次第詳細回答

昭和八年十一月二十八日納本

昭和八年十二月 一 日發行

編輯兼發行人 鶴 岡 英 吉

(日本水上競技聯盟代表)

印 刷 者 君 島 潔

印 刷 所 共同印刷株式會社

東京市小石川區久堅町一〇八

發 行 並 所 東京市麴町區丸ビル 805
申 込 所 日本水上競技聯盟編輯事務所
振替貯金東京三九九一九番